

第2次小金井市農業振興計画の策定に関する
市民アンケート調査
報告書

令和3年8月

小金井市

もくじ

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の実施概要	1
3	回収状況	1
4	留意事項	1
5	標本誤差	1
II	調査結果	2
1	農業に関する関心	2
(1)	小金井市の農業振興計画の認知度	2
(2)	小金井市の農地についての意向	4
(3)	農地までの距離	6
(4)	農地の効果	7
(5)	お住まい周辺での農地についての問題	9
2	農産物の購入意向等	10
(1)	最近2～3か月の農産物の主な購入先	10
(2)	農産物全般の購入理由	13
(3)	小金井市産の農産物の購入意向	15
(4)	小金井市産の農産物を購入したい理由	16
(5)	市内で生産を期待する農産物	19
(6)	小金井市産の農産物を手に入れやすくするために必要なこと	21
(7)	直売所(庭先販売所)の認知度	23
(8)	直売所(庭先販売所)の利用意向	26
(9)	小金井市産の農産物を使った飲食店の利用意向	28
3	農業への参加意向等	30
(1)	これまでの農業体験	30
(2)	農業に関する興味関心	32
(3)	今後やってみたい農業体験	34
(4)	小金井市の農業を盛り上げていくために必要なこと	36
(5)	農業に関する取組で協力したいこと	38
(6)	農家への協力	40
(7)	農家への協力内容	42
4	新型コロナウイルス感染拡大による影響	44
(1)	新型コロナウイルス感染拡大による行動変化	44
5	回答者の属性	52
6	自由意見(小金井市農業を発展させるアイデア)	56

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 23 年 3 月に改定した小金井市農業振興計画が改定から 10 年を迎え、小金井市の農業を取り巻く環境も大きく変わっていることから、第 2 次小金井市農業振興計画を策定するにあたり、市民の市内農業・農地に対するお考えうかがうことを目的に実施した。

2 調査の実施概要

- 調査対象：市内在住の満 18 歳以上の市民
- 配布数：1,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：令和 3 年 7 月 1 日（木）～7 月 15 日（木）

3 回収状況

- 回収数：354 票（回収率 35.4%）
- 有効回収数：354 票（有効回収率 35.4%）

4 留意事項

- 回答の比率は、総数を 100%として算出し、小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。
- 複数回答の質問は、回答者数(=総数)を分母として比率を算出しているため、合計が 100%を超える場合がある。
- 属性別の記述では、原則として全体の集計結果や他の属性項目と比較して、特徴又は傾向がみられるものを記述の対象としている。

5 標本誤差

- 今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体（市内に住む 18 歳以上の市民）の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の算出式及び早見表を以下に示す。なお、信頼度は 95%と設定している。
- 統計学上の標本誤差は、①比率算出の基数（サンプル数）及び②回答の比率（p）によって誤差幅が異なる。今回の調査で 354 サンプルが回答する設問の誤差幅は±5.3%以内となる。

【標本誤差算出式】

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数（市内の 18 歳以上の市民）
n = 比率算出の基数（回答サンプル数）
p = 回答の比率（ $0 \leq p \leq 1$ ）

【標本誤差早見表】

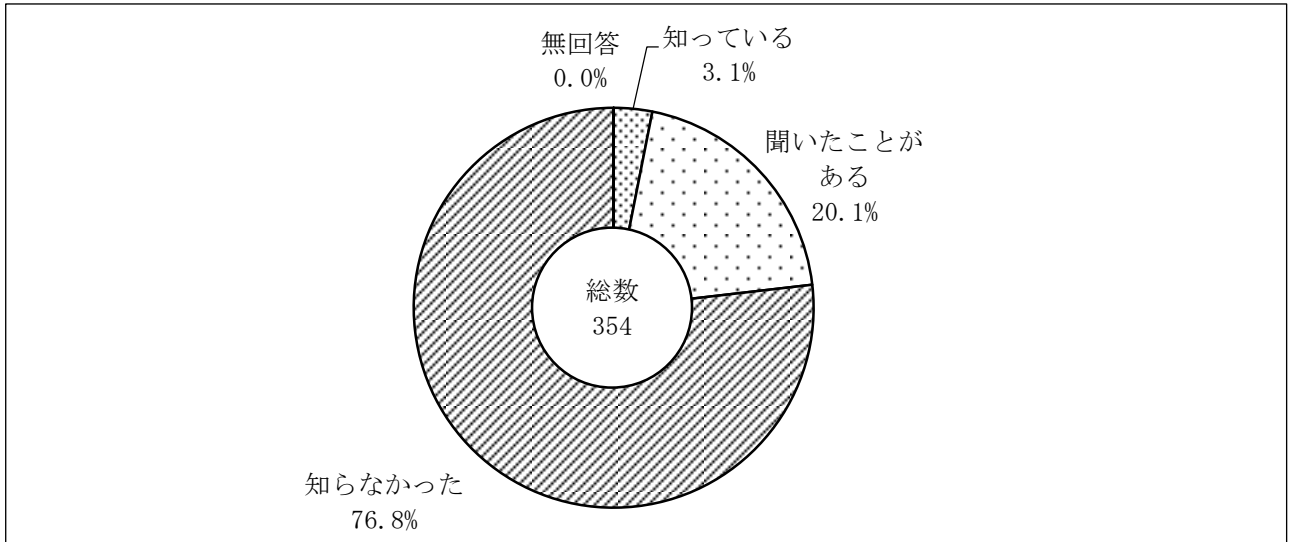
回答比率(p) 標本数(n)	5%又は 95%程度	10%又は 90%程度	20%又は 80%程度	30%又は 70%程度	40%又は 60%程度	50%程度
50	±6.2%	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%
100	±4.4%	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
200	±3.1%	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
300	±2.5%	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.6%	±5.8%
354	±2.3%	±3.2%	±4.2%	±4.9%	±5.2%	±5.3%

II 調査結果

1 農業に関する関心

(1) 小金井市の農業振興計画の認知度

あなたは、小金井市の農業振興計画をご存じですか。(1つだけに○)



「知らない」が76.8%と全体の3/4を占めている。「聞いたことがある」は約20%、「知っている」は3.1%と計画の認知度は低い。

■属性別■

【年齢】

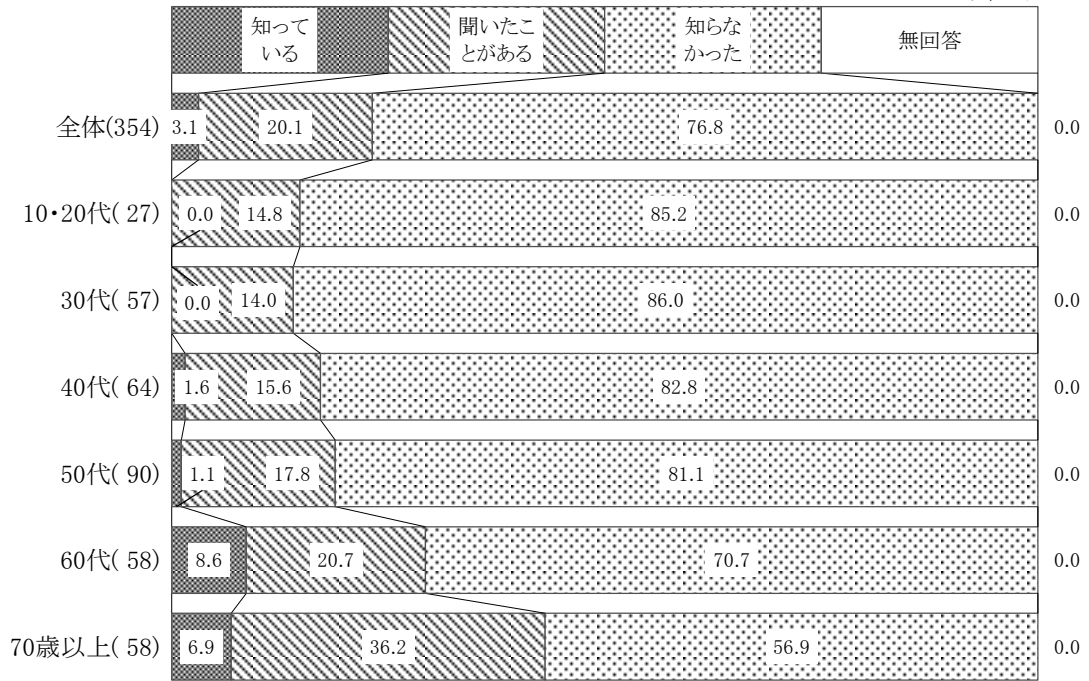
60代以上の年齢層で「知っている」、「聞いたことがある」が多い。

【居住年数】

居住年数15年以上の層で「知っている」、「聞いたことがある」が多い。

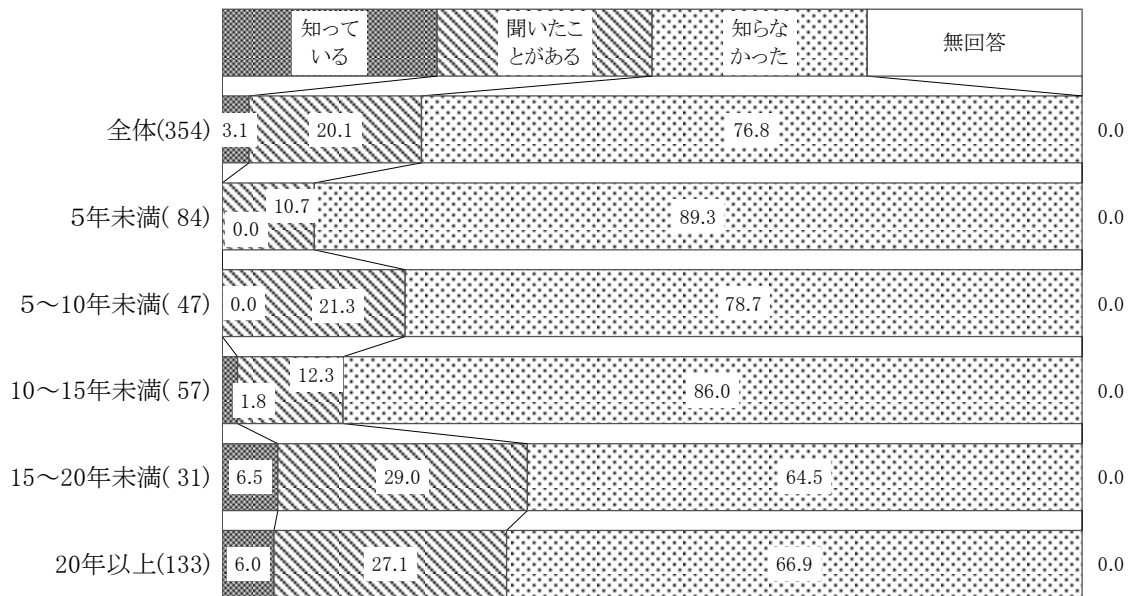
【年齢】

単位:%



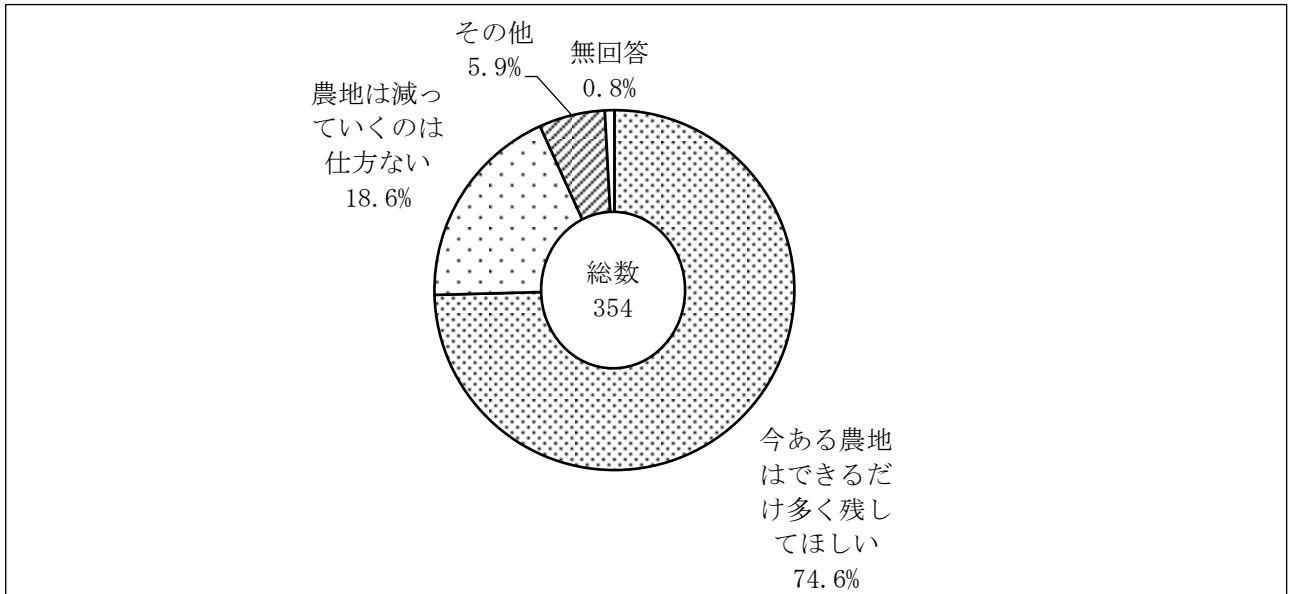
【居住年数】

単位:%



(2) 小金井市の農地についての意向

農地が減少傾向にあります。あなたは小金井市の農地についてどのようにお考えですか。(1つだけに○)



「今ある農地はできるだけ多く残してほしい」が74.6%で、「農地が減っていくのは仕方ない」の18.6%を大きく上回っており、多くの市民は農地を残したいと考えていることがうかがえる。

■属性別■

【性別】

女性は「今ある農地はできるだけ多く残してほしい」が80%以上と多い。

【居住年数】

居住年数5～15年未満で「今ある農地はできるだけ多く残してほしい」が80%以上と多い。

【世帯構成】

〈一人暮らし〉で「今ある農地はできるだけ多く残してほしい」が60%台と少ない。

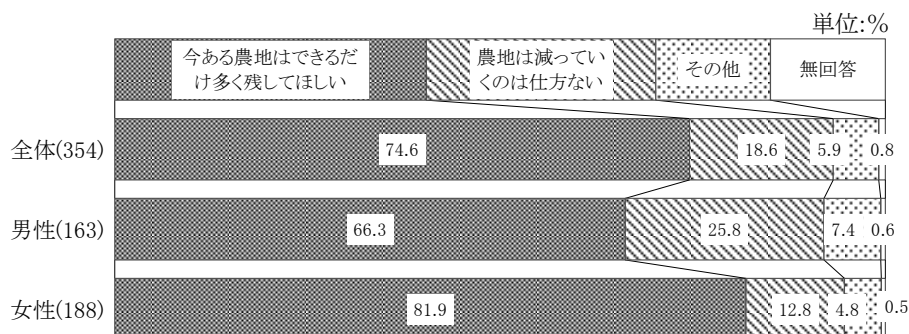
【直売所の利用状況】

〈知っている、利用したことがある〉人で「今ある農地はできるだけ多く残してほしい」が約80%と多い。〈知らなかった〉人では、「農地が減っていくのは仕方ない」が20%台と多い。

【農家に対する協力意向】

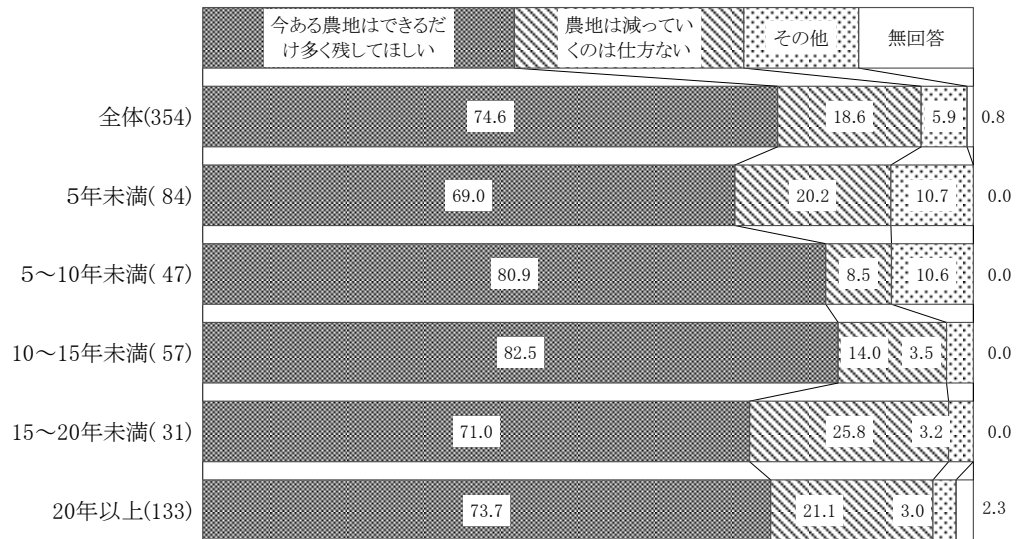
〈力になりたい〉人で「今ある農地はできるだけ多く残してほしい」が80%台と多い。

【性別】



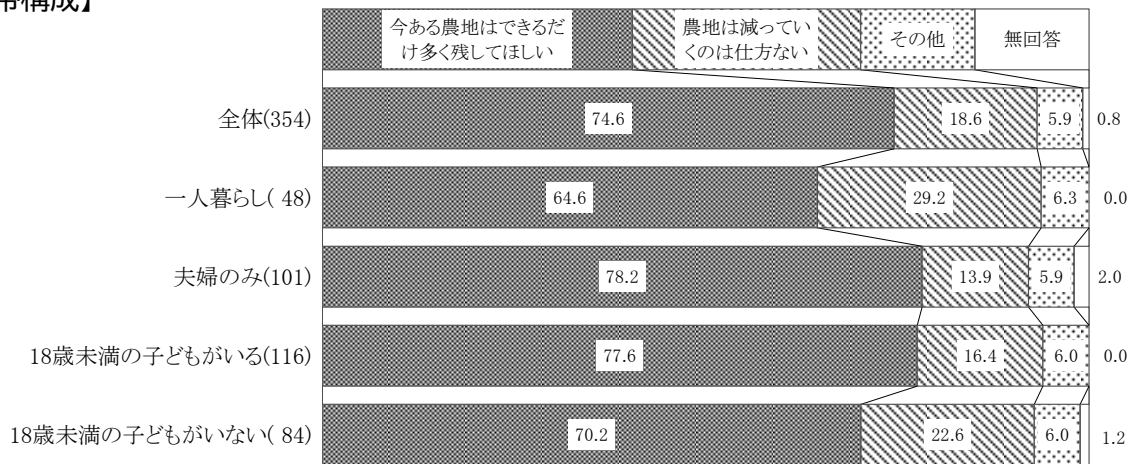
【居住年数】

単位:%



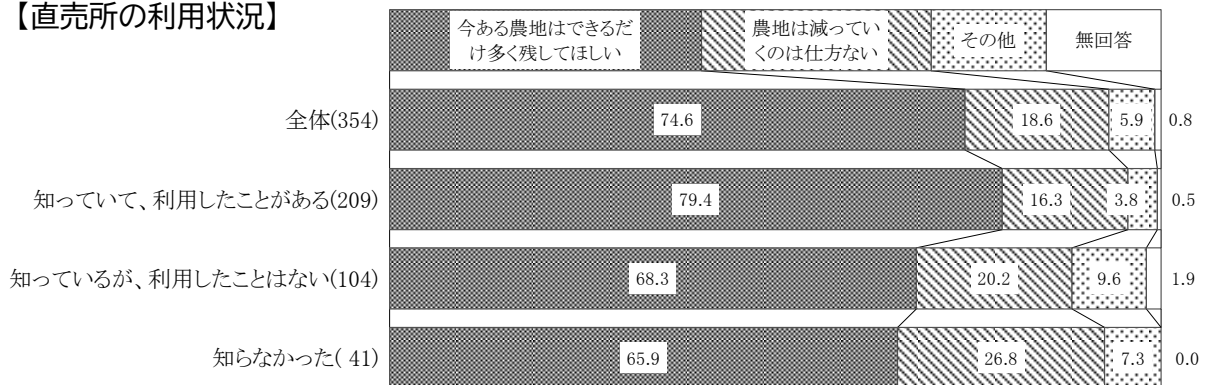
【世帯構成】

単位:%



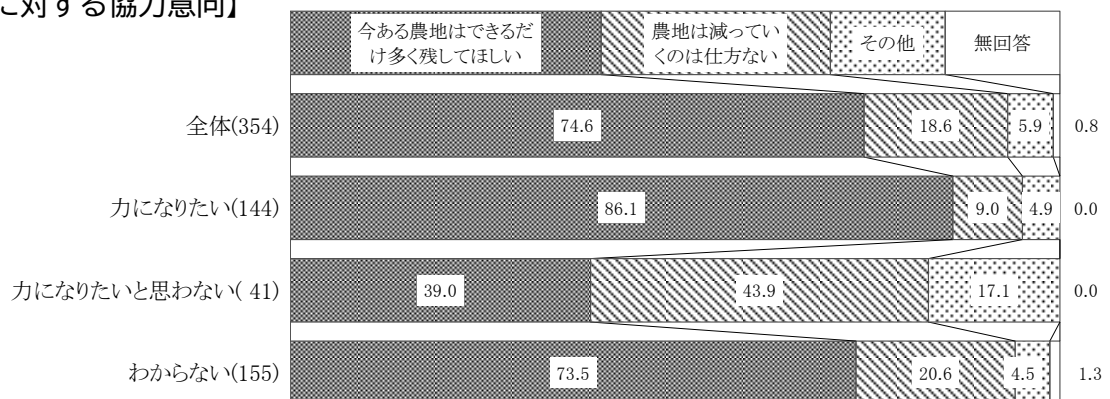
【直売所の利用状況】

単位:%



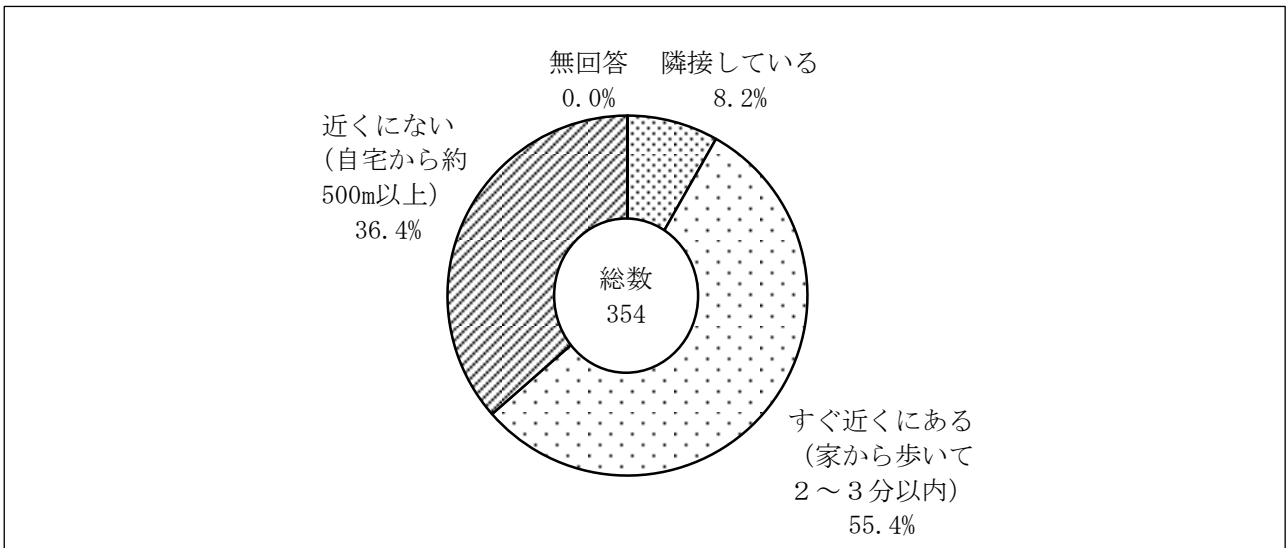
【農家に対する協力意向】

単位:%



(3) 農地までの距離

家の近くに農地はありますか。(1つだけに○)

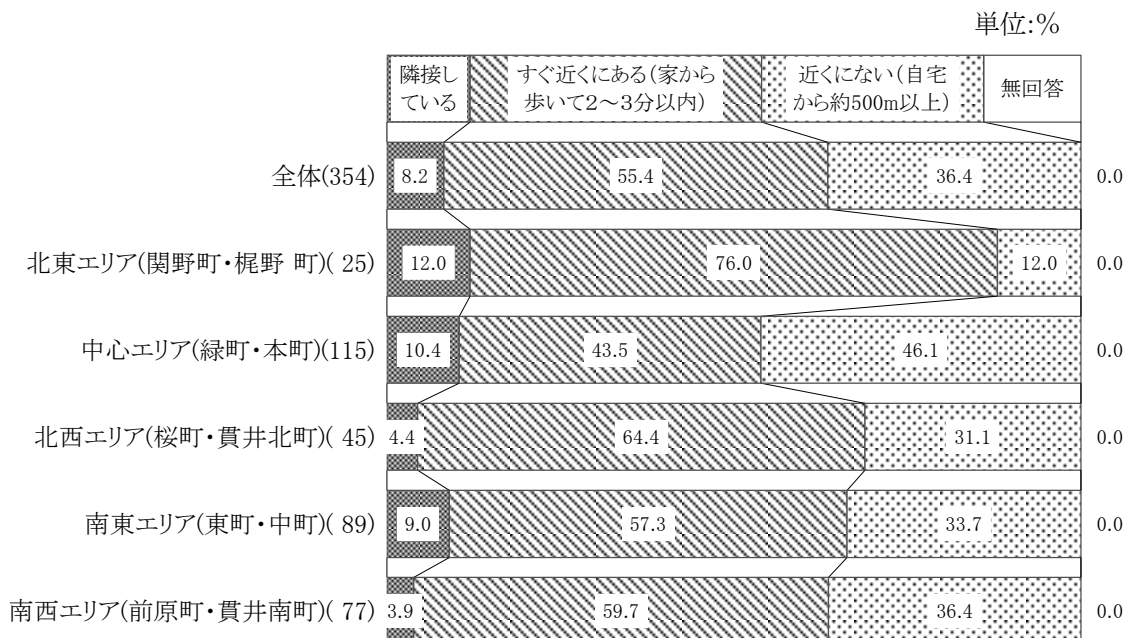


農地に「隣接している」が8.2%、「すぐ近くにある」が55.4%と、全体の60%以上が農地の近くに居住している。

■属性別■

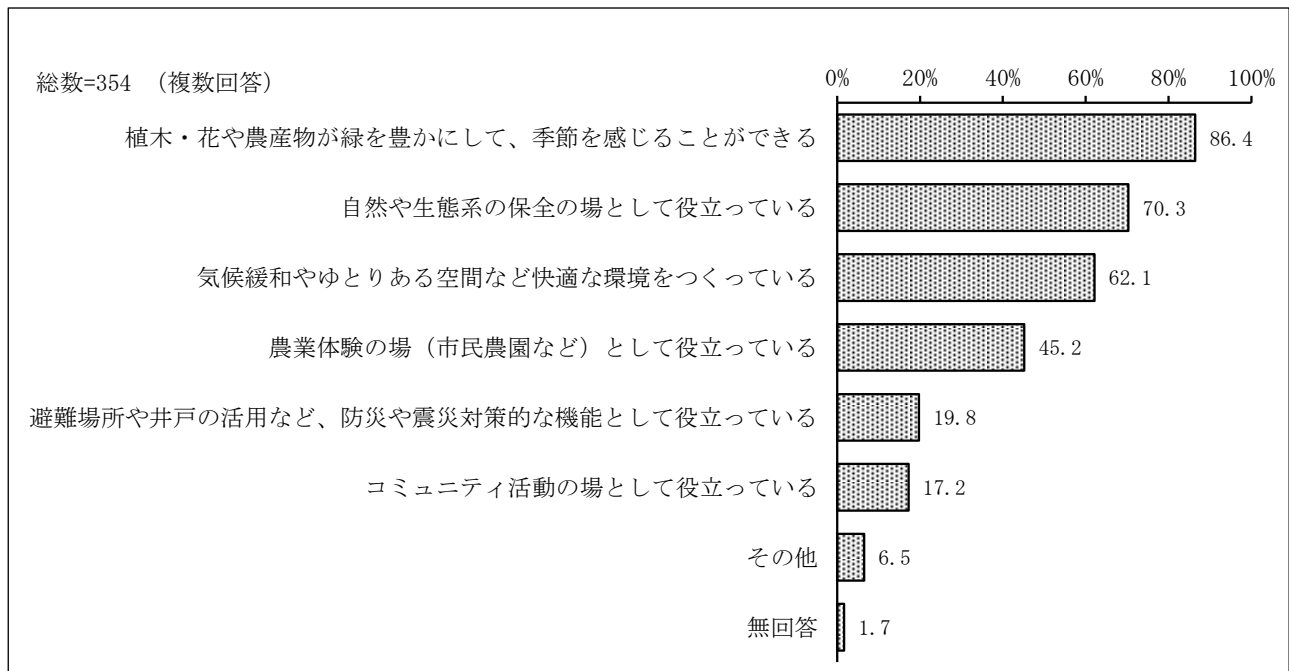
【地域】

〈北東エリア (関野町・梶野町)〉は「すぐ近くにある」が全体の3/4を占める。また、〈中心エリア (緑町・本町)〉では「近くはない」が40%台と多くなっている。



(4) 農地の効果

農地には、農産物を生産・供給する役割（機能）だけでなく、さまざまな役割（機能）があります。あなたのまわりの農地の効果について感じていることを教えてください。（該当するものすべてに○）



「植木・花や農産物が緑を豊かにして、季節を感じるができる」が 86.4%、「自然や生態系の保全の場として役立っている」が 70.3%、「気候緩和やゆとりある空間など快適な環境をつくっている」が 62.1%と、住環境や自然環境の保全・向上に関する効果を感じている市民が多い。

一方で、「避難場所や井戸の活用など、防災や震災対策的な機能として役立っている」(19.8%)、「コミュニティ活動の場として役立っている」(17.2%)と、防災やコミュニティの形成への効果を感じている市民は比較的少ない。

■属性別■

【年齢】

全体結果と大きな違いはないが、〈10・20代〉では「気候緩和やゆとりある空間など快適な環境をつくっている」の比率が 37.0%と他の年齢層に比べて少ない。

「農業体験の場（市民農園など）として役立っている」は子育て世代である〈30代〉・〈40代〉で多い。また、〈40代〉で「コミュニティ活動の場として役立っている」が 30%台と多い。

【世帯構成】

〈18歳未満の子どもがいる〉人では「コミュニティ活動の場として役立っている」が 60%台と多く、第3位になっている。

【農地までの距離】

農地までの距離が近い人ほど農地が持つ効果を評価する傾向がみられる。

【直売所の利用状況】

〈知っていて、利用したことがある〉人では、利用したことがない人や直売所の存在を知らな

かった人にくらべて、農地が持つ効果を評価する傾向がみられる。

【農家に対する協力意向】

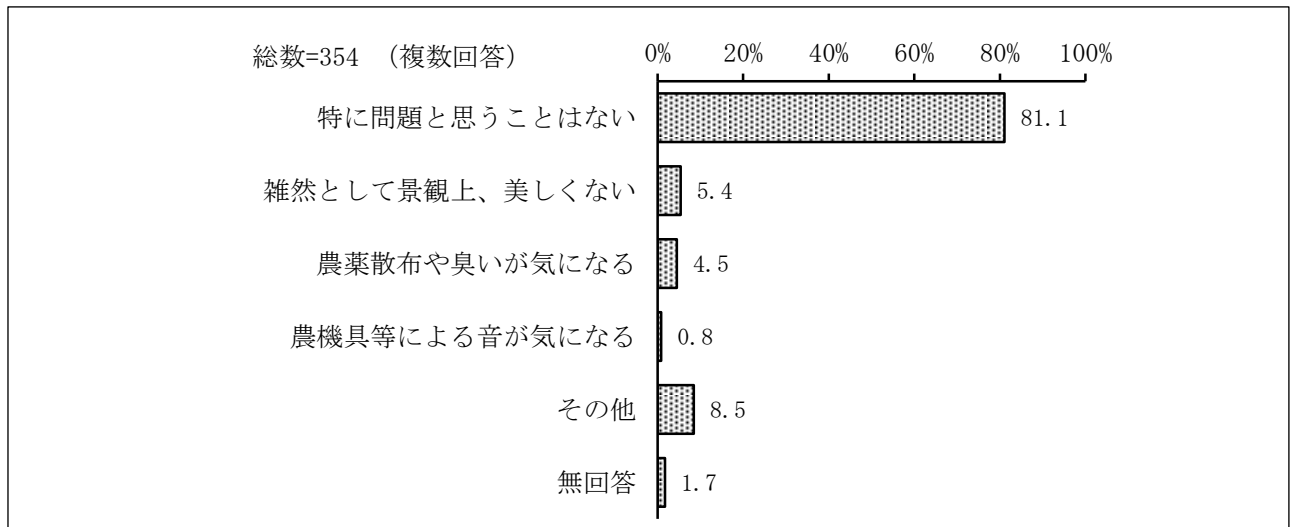
〈力になりたい〉人では、〈力になりたいと思わない〉人や〈わからない〉人に比べ、農地が持つ効果を評価する傾向がみられる。

		全体	植木・花や農産物が緑を豊かにして、季節を感じる事ができる	自然や生態系の保全の場として役立つ	気候緩和やゆとりある空間など快適な環境をつくっている	農業体験の場（市民農園など）として役立っている	避難場所や井戸の活用など、防災や震災対策的な機能として役立っている	コミュニティ活動の場として役立っている	その他	無回答
	全体	354	86.4	70.3	<i>62.1</i>	45.2	19.8	17.2	6.5	1.7
年齢	10・20代	27	81.5	59.3	<i>37.0</i>	25.9	7.4	7.4	-	3.7
	30代	57	84.2	66.7	66.7	52.6	12.3	14.0	5.3	-
	40代	64	87.5	73.4	<i>62.5</i>	60.9	25.0	31.3	3.1	-
	50代	90	91.1	74.4	<i>62.2</i>	44.4	24.4	18.9	8.9	1.1
	60代	58	89.7	72.4	<i>65.5</i>	37.9	22.4	13.8	3.4	1.7
	70歳以上	58	79.3	67.2	<i>65.5</i>	37.9	17.2	10.3	13.8	5.2
世帯構成	一人暮らし	48	83.3	66.7	<i>54.2</i>	33.3	20.8	10.4	4.2	6.3
	夫婦のみ	101	86.1	69.3	<i>63.4</i>	34.7	18.8	10.9	7.9	2.0
	18歳未満の子どもがいる	116	88.8	70.7	<i>62.9</i>	<i>65.5</i>	22.4	25.9	6.9	0.9
	18歳未満の子どもがいない	84	84.5	72.6	<i>61.9</i>	38.1	16.7	14.3	6.0	-
農地までの距離	隣接している	29	93.1	79.3	79.3	51.7	27.6	48.3	10.3	-
	すぐ近くにある（家から歩いて2～3分以内）	196	85.2	73.0	<i>61.7</i>	48.5	21.9	16.8	6.6	1.5
	近くにない（自宅から約500m以上）	129	86.8	64.3	<i>58.9</i>	38.8	14.7	10.9	5.4	2.3
直売所状況	知っていて、利用したことがある	209	88.5	74.6	<i>67.0</i>	53.6	22.0	22.0	8.6	1.0
	知っているが、利用したことはない	104	81.7	66.3	<i>51.9</i>	35.6	16.3	12.5	2.9	2.9
	知らなかった	41	87.8	<i>58.5</i>	63.4	26.8	17.1	4.9	4.9	2.4
農家への協力意向	力になりたい	144	91.7	74.3	<i>71.5</i>	59.0	22.9	25.7	4.2	1.4
	力になりたいと思わない	41	73.2	58.5	<i>46.3</i>	17.1	7.3	7.3	14.6	-
	わからない	155	85.8	70.3	<i>56.8</i>	40.6	20.6	12.9	5.8	1.9

※凡例：**99.9**（太文字・下線）：第1位、**99.9**（太文字）：第2位、*99.9*（斜体）：第3位

(5) お住まい周辺での農地についての問題

あなたのまわりの農地についての問題で思うことはありますか。(該当するものすべてに○)



81.1%が「特に問題とすることはない」と回答しており、多くの市民は問題を感じていない。問題としては景観や農薬散布等が5%程度であり、「その他」では土埃の飛散を指摘する意見などがある。

■属性別■

【農地までの距離】

全体結果と大きな違いはないが、〈隣接している〉人で「雑然として景観上、美しくない」、「農薬散布や臭いが気になる」、「農機具等による音が気になる」との回答が多い。

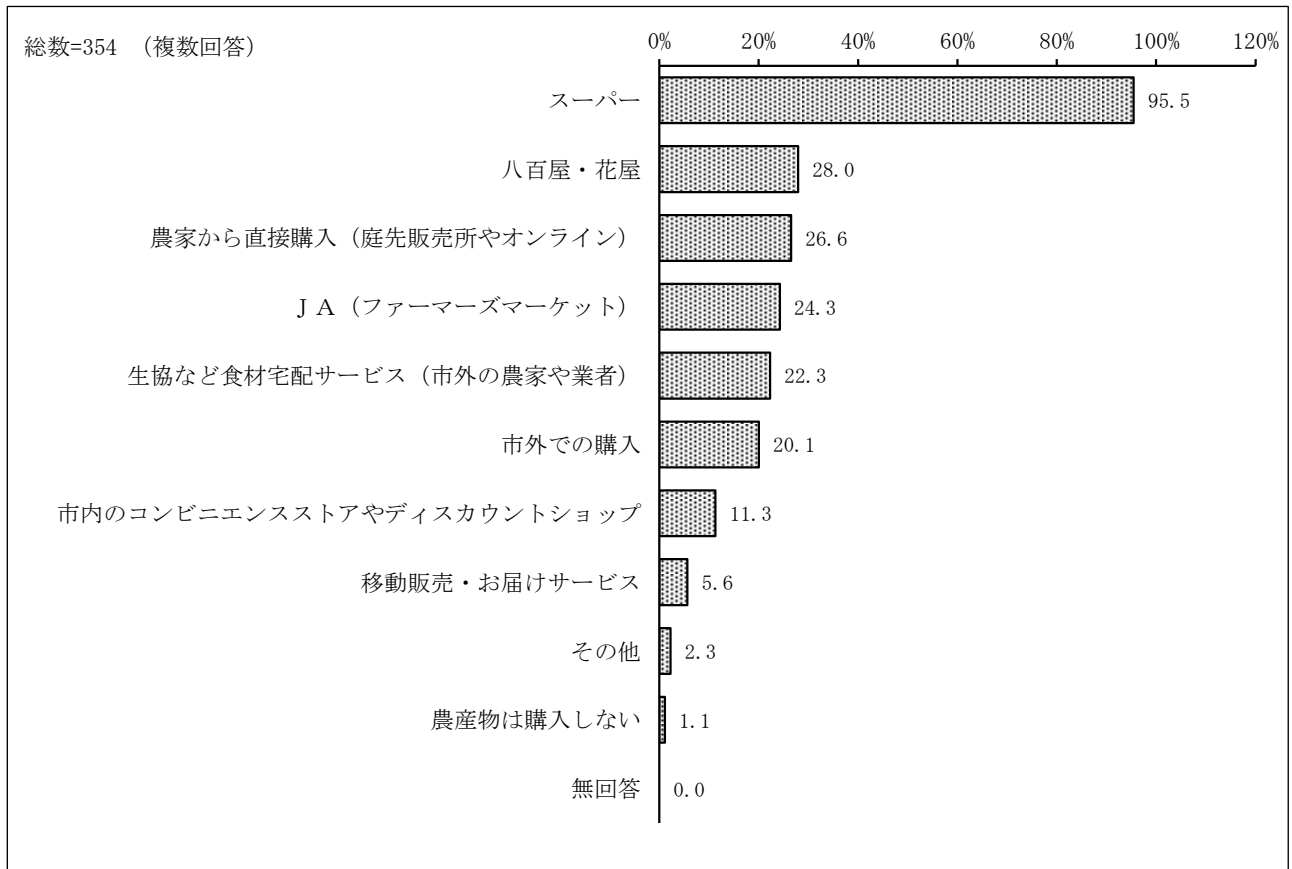
		全体	特に問題とすることはない	雑然として景観上、美しくない	農薬散布や臭いが気になる	農機具等による音が気になる	その他	無回答
全体		354	81.1	5.4	4.5	0.8	8.5	1.7
農地までの距離	隣接している	29	79.3	6.9	6.9	6.9	6.9	-
	すぐ近くにある (家から歩いて2～3分以内)	196	82.1	5.6	4.6	-	9.2	1.0
	近くにない (自宅から約500m以上)	129	79.8	4.7	3.9	0.8	7.8	3.1

※凡例：**99.9** (太文字・下線)：第1位、**99.9** (太文字)：第2位、*99.9* (斜体)：第3位

2 農産物の購入意向等

(1) 最近2～3か月の農産物の主な購入先

あなたのここ2～3か月の農産物の主な購入先を教えてください。(該当するものすべてに○)



95.5%が「スーパー」と回答している。それ以外では「八百屋・花屋」(28.0%)、「農家から直接購入 (庭先販売所やオンライン)」(26.6%)、「JA (ファーマーズマーケット)」(24.3%)、「生協など食材宅配サービス (市外の農家や業者)」(22.3%)、「市外での購入」(20.1%) が20%台で続いている。

■属性別■

【年齢】

〈男性〉に比べ、〈女性〉で「八百屋・花屋」、「生協など食材宅配サービス」が多くなっている。

【年齢】

30代未満では、「八百屋・花屋」が少なく、〈10・20代〉では「市内のコンビニエンスストアやディスカウントショップ」が30%台と多くなっている。また、〈40代〉、〈50代〉では「市外での購入」が30%台と多い。

【地区】

〈北東エリア(関野町・梶野町)〉及び〈北西エリア(桜町・貫井北町)〉では「農家から直接購入 (庭先販売所やオンライン)」が40～50%程度となっており、他地区に比べ多い。

【世帯構成】

〈18歳未満の子どもがいる〉人では、「農家から直接購入 (庭先販売所やオンライン)」や「生

協など食材宅配サービス（市外の農家や業者）」が 30%台と多い。

【農地までの距離】

〈隣接している〉人及び〈すぐ近くにある〉人では、「農家から直接購入（庭先販売所やオンライン）」が 30%台と多い。

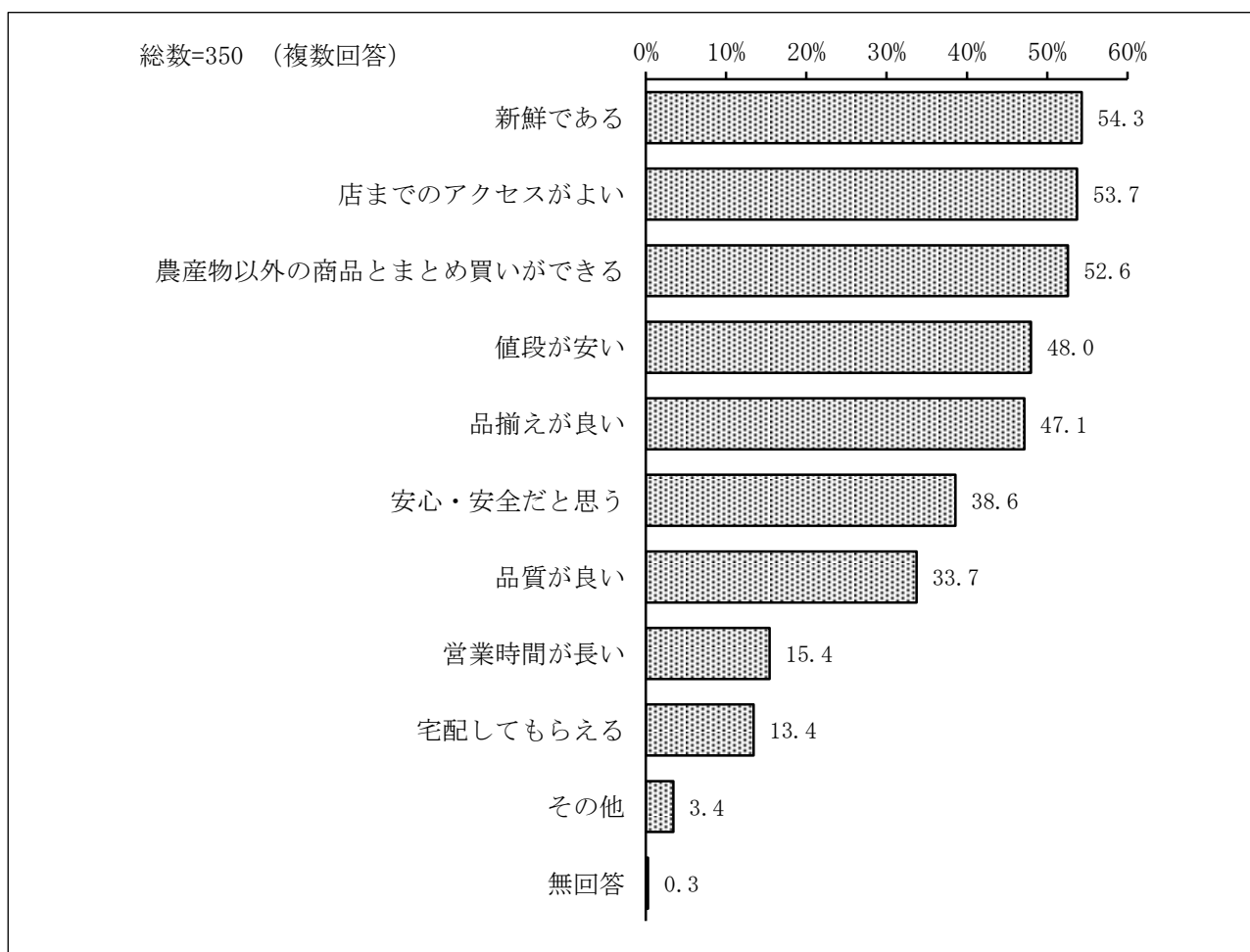
【直売所の利用状況】

〈知っていて、利用したことがある〉人では、「農家から直接購入（庭先販売所やオンライン）」が 40%台と多い。

		全体	スーパー	八百屋・花屋	J A (ファーマーズマーケット)	農家から直接購入 (庭先販売所やオンライン)	移動販売・お届けサービス	市内のコンビニエンスストアやディスカウントショップ	市外での購入	生協など食材宅配サービス (市外の農家や業者)	その他	農産物は購入しない	無回答
	全体	354	95.5	28.0	24.3	26.6	5.6	11.3	20.1	22.3	2.3	1.1	-
性別	男性	163	95.1	22.1	21.5	26.4	6.1	9.8	19.0	16.6	3.1	2.5	-
	女性	188	96.3	33.5	26.6	26.6	5.3	12.8	20.7	27.7	1.6	-	-
年齢	10・20代	27	85.2	14.8	7.4	7.4	3.7	33.3	14.8	14.8	-	11.1	-
	30代	57	98.2	15.8	19.3	19.3	5.3	7.0	5.3	19.3	3.5	-	-
	40代	64	92.2	31.3	25.0	37.5	6.3	14.1	31.3	28.1	-	1.6	-
	50代	90	96.7	32.2	26.7	26.7	6.7	10.0	32.2	25.6	2.2	-	-
	60代	58	100.0	24.1	19.0	29.3	5.2	8.6	15.5	22.4	3.4	-	-
	70歳以上	58	94.8	39.7	37.9	27.6	5.2	6.9	10.3	17.2	3.4	-	-
地区	北東エリア (関野町・梶野町)	25	100.0	24.0	20.0	52.0	8.0	20.0	24.0	20.0	-	-	-
	中心エリア (緑町・本町)	115	94.8	28.7	23.5	24.3	6.1	11.3	14.8	22.6	2.6	0.9	-
	北西エリア (桜町・貫井北町)	45	91.1	40.0	22.2	44.4	8.9	4.4	20.0	22.2	-	2.2	-
	南東エリア (東町・中町)	89	96.6	16.9	23.6	18.0	5.6	18.0	23.6	24.7	2.2	1.1	-
	南西エリア (前原町・貫井南町)	77	96.1	35.1	29.9	20.8	2.6	3.9	22.1	20.8	2.6	1.3	-
世帯構成	一人暮らし	48	91.7	22.9	14.6	14.6	8.3	18.8	10.4	8.3	6.3	4.2	-
	夫婦のみ	101	96.0	34.7	25.7	24.8	2.0	6.9	23.8	21.8	3.0	-	-
	18歳未満の子どもがいる	116	97.4	27.6	25.9	33.6	10.3	10.3	20.7	31.9	0.9	-	-
	18歳未満の子どもがいない	84	95.2	23.8	25.0	26.2	2.4	13.1	21.4	19.0	1.2	2.4	-
農地までの距離	隣接している	29	100.0	20.7	10.3	37.9	10.3	6.9	17.2	31.0	3.4	-	-
	すぐ近くにある (家から歩いて2~3分以内)	196	95.9	28.1	30.1	32.7	5.6	12.2	20.9	19.9	2.0	1.5	-
	近くにない (自宅から約500m以上)	129	93.8	29.5	18.6	14.7	4.7	10.9	19.4	24.0	2.3	0.8	-
利直売状況	知っていて、利用したことがある	209	97.1	31.6	29.7	43.1	5.7	11.0	21.1	26.8	1.9	0.5	-
	知っているが、利用したことはない	104	93.3	24.0	15.4	2.9	4.8	8.7	18.3	12.5	3.8	1.9	-
	知らなかった	41	92.7	19.5	19.5	2.4	7.3	19.5	19.5	24.4	-	2.4	-

(2) 農産物全般の購入理由

あなたが、ふだん(1)で農産物を購入する理由を教えてください。(該当するものすべてに○)



「新鮮である」が54.3%で最も多いが、「店までのアクセスがよい」(53.7%)、「農産物以外の商品とまとめ買いができる」(52.6%)、「品揃えが良い」(47.1%)など、利便性の高さで購入先を選んでいることがうかがわれる。また、「値段が安い」も48.0%と比較的多くなっている。

■属性別■

【年齢】

〈男性〉では、「新鮮である」に比べ、「店までのアクセスがよい」及び「品揃えが良い」の回答が多い一方、〈女性〉では「新鮮である」及び「農産物以外の商品とまとめ買いができる」の回答が多くなっている。

【年齢】

「新鮮である」は年齢層が高いほど多い傾向がある一方で、「値段が安い」は年齢層が低いほど多い傾向がみられる。

【直売所の利用状況】

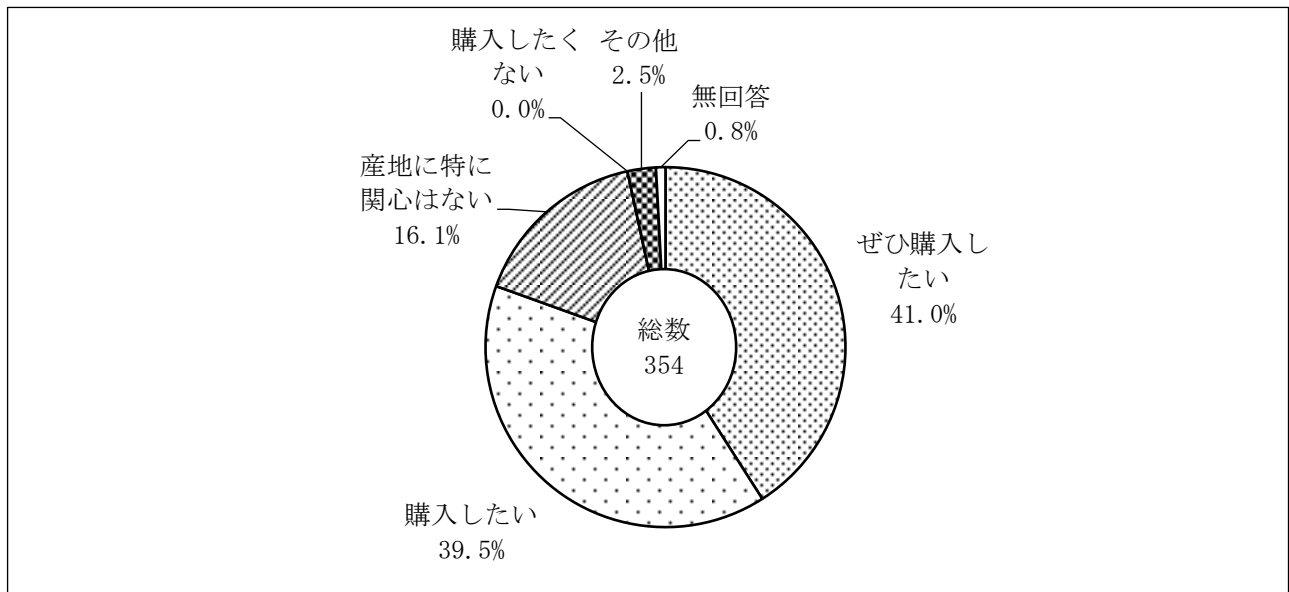
〈知っている、利用したことがある〉人では「新鮮である」の比率が60%台と多い。一方、〈知っているが、利用したことはない〉人や〈知らなかった〉人では「店までのアクセスがよい」や「農産物以外の商品とまとめ買いができる」が多くなっている。

		全体	新鮮である	値段が安い	安心・安全だと思う	品質が良い	品揃えが良い	農産物以外の商品とまとめ買いができる	営業時間が長い	店までのアクセスがよい	宅配してもらえる	その他	無回答
全体		350	54.3	48.0	38.6	33.7	47.1	52.6	15.4	53.7	13.4	3.4	0.3
性別	男性	159	46.5	50.3	34.0	30.8	50.9	50.3	15.7	52.8	10.1	3.1	-
	女性	188	60.6	46.3	42.0	35.6	44.1	55.3	15.4	54.8	16.5	3.7	-
年齢	10・20代	24	41.7	50.0	29.2	20.8	33.3	50.0	29.2	62.5	16.7	-	-
	30代	57	47.4	57.9	38.6	35.1	54.4	61.4	15.8	56.1	14.0	1.8	-
	40代	63	54.0	54.0	38.1	30.2	50.8	52.4	14.3	52.4	14.3	6.3	-
	50代	90	50.0	51.1	37.8	35.6	46.7	50.0	13.3	62.2	11.1	4.4	-
	60代	58	56.9	43.1	41.4	36.2	48.3	60.3	15.5	55.2	12.1	1.7	-
	70歳以上	58	70.7	31.0	41.4	36.2	41.4	41.4	13.8	34.5	15.5	3.4	1.7
直売所の利用状況	知っている、利用したことがある	208	63.9	46.6	44.7	35.6	44.7	49.5	13.0	47.1	15.4	3.4	-
	知っているが、利用したことはない	102	39.2	50.0	27.5	30.4	54.9	57.8	17.6	65.7	9.8	3.9	1.0
	知らなかった	40	42.5	50.0	35.0	32.5	40.0	55.0	22.5	57.5	12.5	2.5	-

※凡例：99.9（太文字・下線）：第1位、99.9（太文字）：第2位、99.9（斜体）：第3位

(3) 小金井市産の農産物の購入意向

あなたは、小金井市産の農産物を購入したいと思いますか。(1つだけに○)



購入希望者が(「ぜひ購入したい」と「購入したい」の合計)が全体の80%以上を占める。

【性別】

〈男性〉に比べ、〈女性〉では「ぜひ購入したい」が半数弱と多い。

【年齢】

〈30代〉、〈40代〉では「ぜひ購入したい」が50%以上と多い。〈10・20代〉では「産地に特に興味はない」が40%弱と多い。

【世帯構成】

〈18歳未満の子どもがいる〉人で「ぜひ購入したい」が50%台と多い。

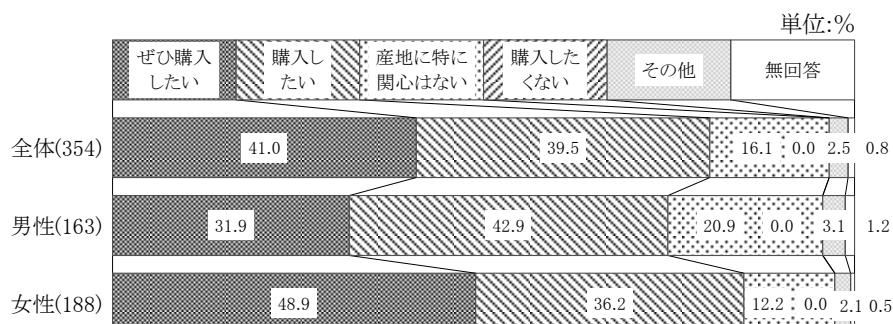
【農地までの距離】

〈隣接している〉人では「ぜひ購入したい」が60%以上と多く、農地までの距離が近いほど「ぜひ購入したい」が多い傾向がみられる。

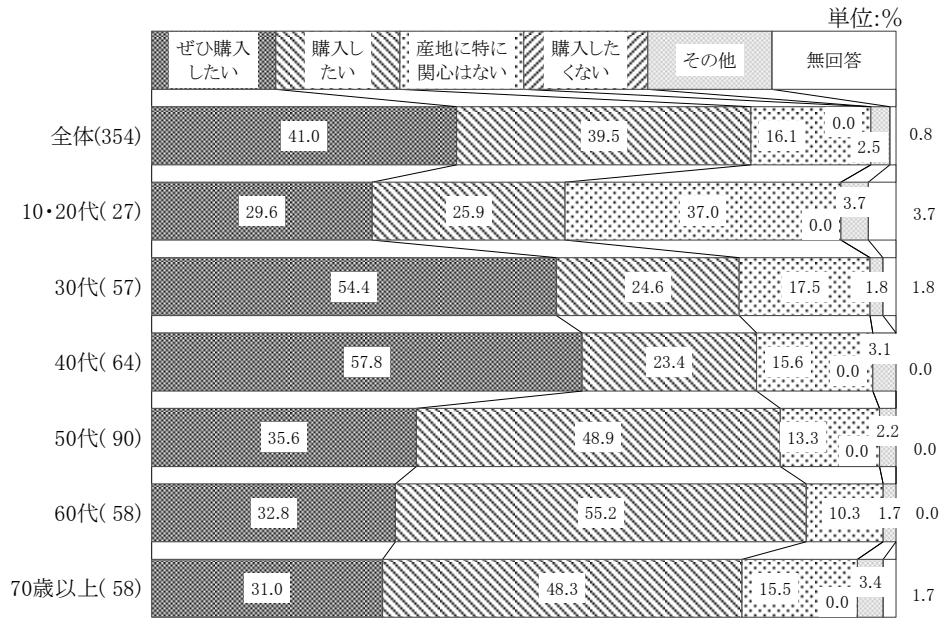
【直売所の利用状況】

〈知っている、利用したことがある〉人で「ぜひ購入したい」が50%以上と多い。一方、〈知っているが、利用したことがない〉人及び〈知らなかった〉人では「産地に特に興味はない」が30%弱と多い。

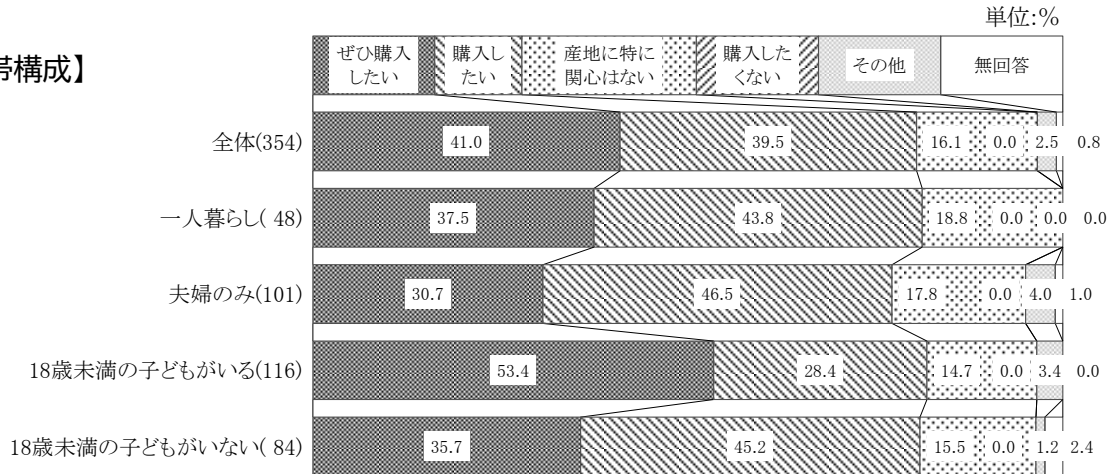
【性別】



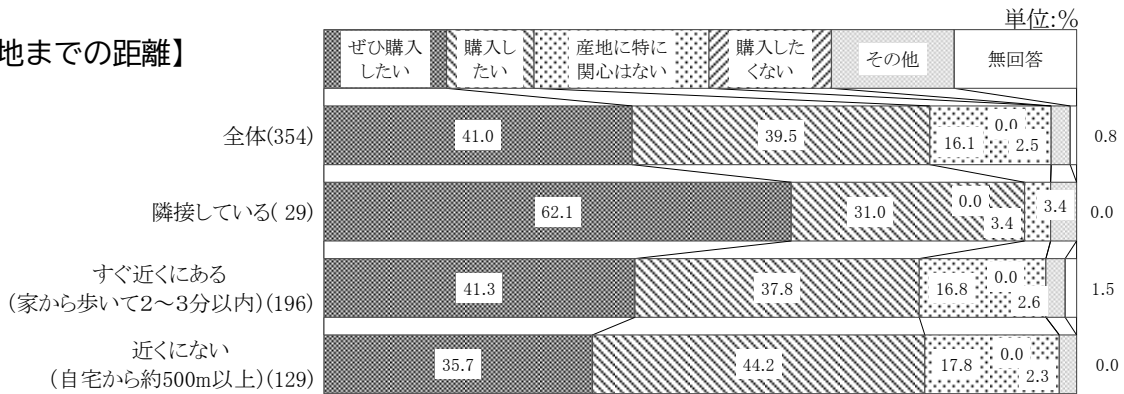
【年齢】



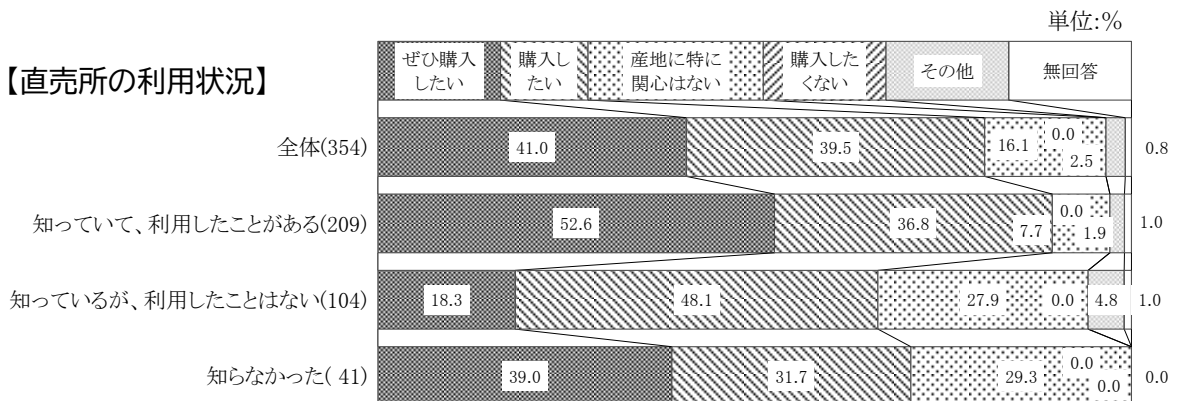
【世帯構成】



【農地までの距離】

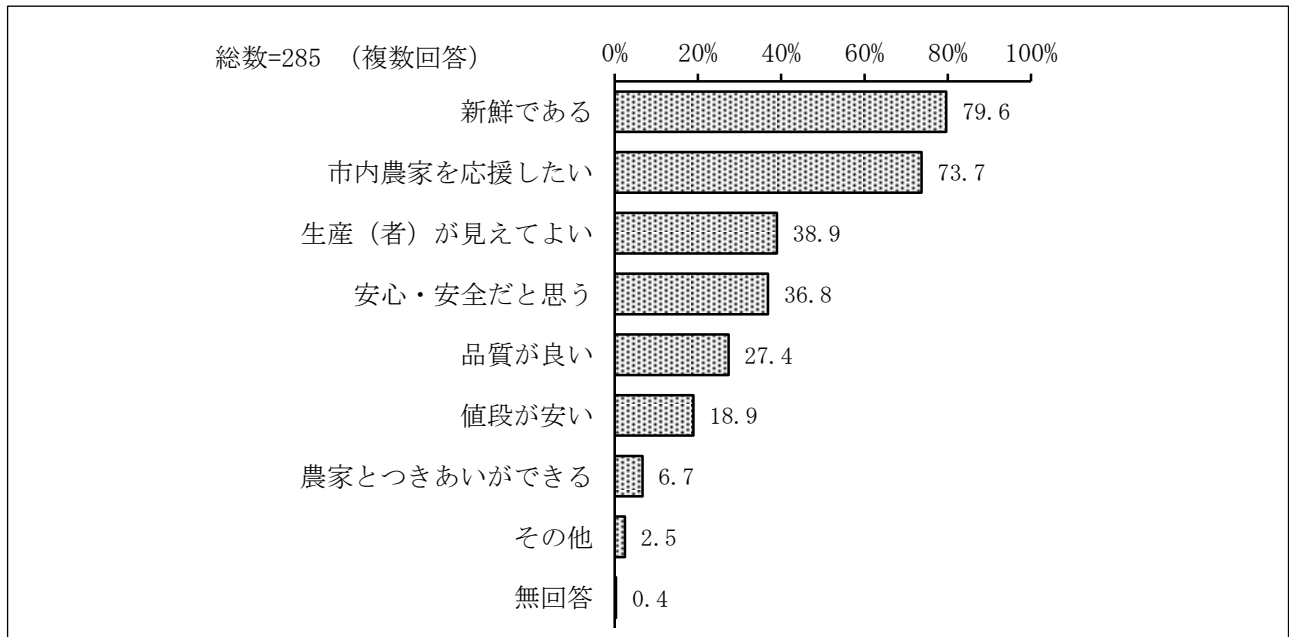


【直売所の利用状況】



(4) 小金井市産の農産物を購入したい理由

【(3) で「ぜひ購入したい」・「購入したい」と回答した方のみ】
(3) の回答理由を教えてください (該当するものすべてに○)



農産物全般の購入理由と比較すると、「新鮮である」の比率が約80%と多くなっている(農産物全般:54.3%)。「市内農家を応援したい」も73.7%と多い。

また、「生産(者)が見えてよい」や「安心・安全だと思う」も30%台と比較的多く、顔が見える関係性や生産過程がわかることによる安心感も購入につながっていることがうかがえる。

■属性別■

【性別】

〈女性〉では、「新鮮である」や「値段が安い」が〈男性〉に比べて多い。

【年齢】

「新鮮である」は年齢層が高いほど多い傾向がみられる。50代以上の年齢層では「新鮮である」が最も多いが、40代未満の年齢層では「市内農家を応援したい」が最も多くなっている。

【直売所の利用状況】

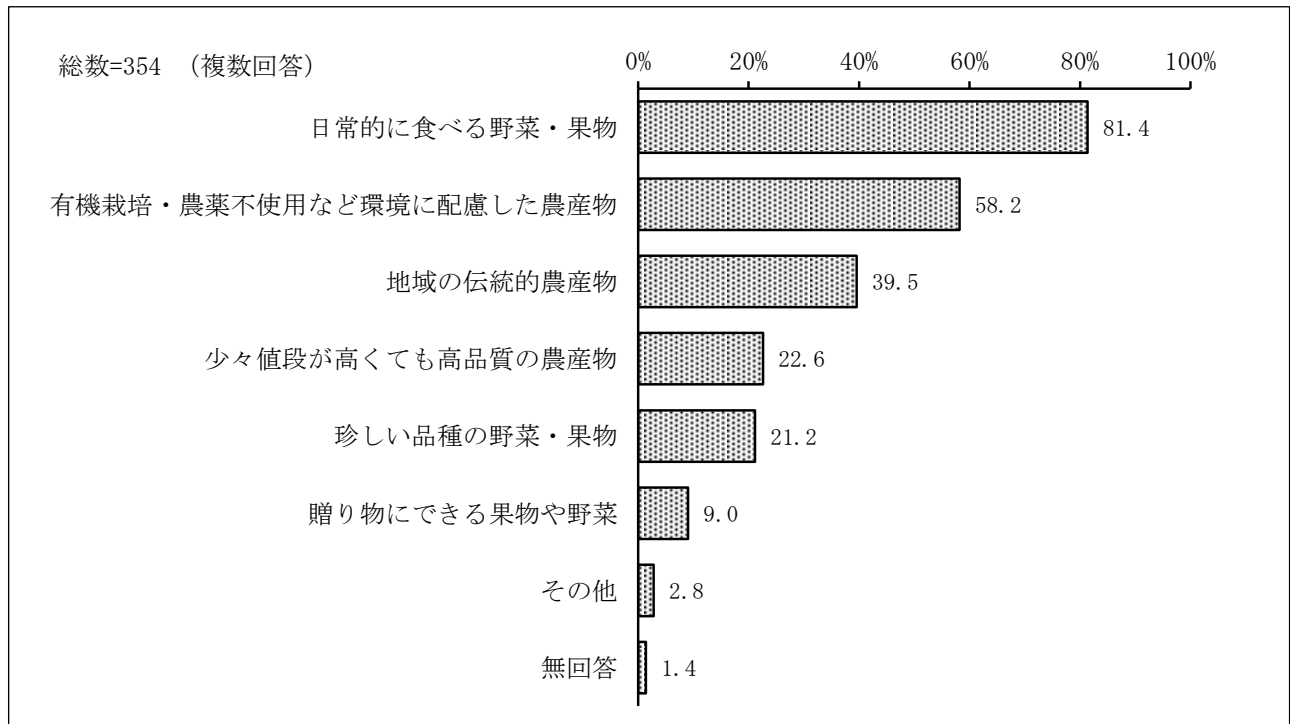
〈知っている、利用したことがある〉人では「新鮮である」や「安心・安全だと思う」が他の属性に比べて多い。

		全体	新鮮である	値段が安い	安心・安全だと思う	品質が良い	農家とつきあいができる	生産(者)が見えてよい	市内農家を応援したい	その他	無回答
	全体	285	79.6	18.9	36.8	27.4	6.7	<i>38.9</i>	73.7	2.5	0.4
性別	男性	122	69.7	14.8	32.0	23.8	8.2	<i>38.5</i>	74.6	3.3	-
	女性	160	87.5	21.9	<i>40.0</i>	29.4	5.0	38.8	73.1	1.9	-
年齢	10・20代	15	53.3	20.0	<i>33.3</i>	26.7	-	13.3	80.0	-	-
	30代	45	64.4	22.2	33.3	24.4	17.8	<i>35.6</i>	86.7	2.2	-
	40代	52	76.9	11.5	<i>42.3</i>	32.7	11.5	40.4	78.8	1.9	-
	50代	76	82.9	14.5	34.2	17.1	2.6	<i>38.2</i>	68.4	5.3	-
	60代	51	90.2	31.4	37.3	33.3	3.9	<i>47.1</i>	64.7	-	-
	70歳以上	46	89.1	17.4	39.1	34.8	2.2	<i>41.3</i>	71.7	2.2	2.2
利直用売状所況の	知っていて、利用したことがある	187	88.8	23.5	<i>42.2</i>	33.2	7.0	41.7	75.4	2.7	-
	知っているが、利用したことはない	69	60.9	5.8	26.1	14.5	5.8	<i>34.8</i>	71.0	1.4	1.4
	知らなかった	29	65.5	20.7	27.6	20.7	6.9	<i>31.0</i>	69.0	3.4	-

※凡例：**99.9** (太文字・下線)：第1位、**99.9** (太文字)：第2位、*99.9* (斜体)：第3位

(5) 市内で生産を期待する農産物

あなたは今後、小金井市内でどんな農産物の生産を期待しますか？（該当するものすべてに○）



「日常的に食べる野菜・果物」が81.4%で最も多く、「有機栽培・農薬不使用など環境に配慮した農産物」が58.2%となっており、普段気軽に購入できる農産物や安全性の高い農産物を求める意見が多くなっている。

また、「地域の伝統的農産物」も約40%と多く、地域に根差した農産物への関心も比較的高い。

【年齢】

全体結果と回答傾向に大きな違いはみられないが、「有機栽培・農薬不使用など環境に配慮した農産物」は40代以上の年齢層で多く、30代未満では少ない。

【地区】

〈南東エリア(東町・中町)〉や〈南西エリア(前原町・貫井南町)〉では「日常的に食べる野菜・果物」が少ない一方、「有機栽培・農薬不使用など環境に配慮した農産物」が他の地区に比べて多い。

【農家に対する協力意向】

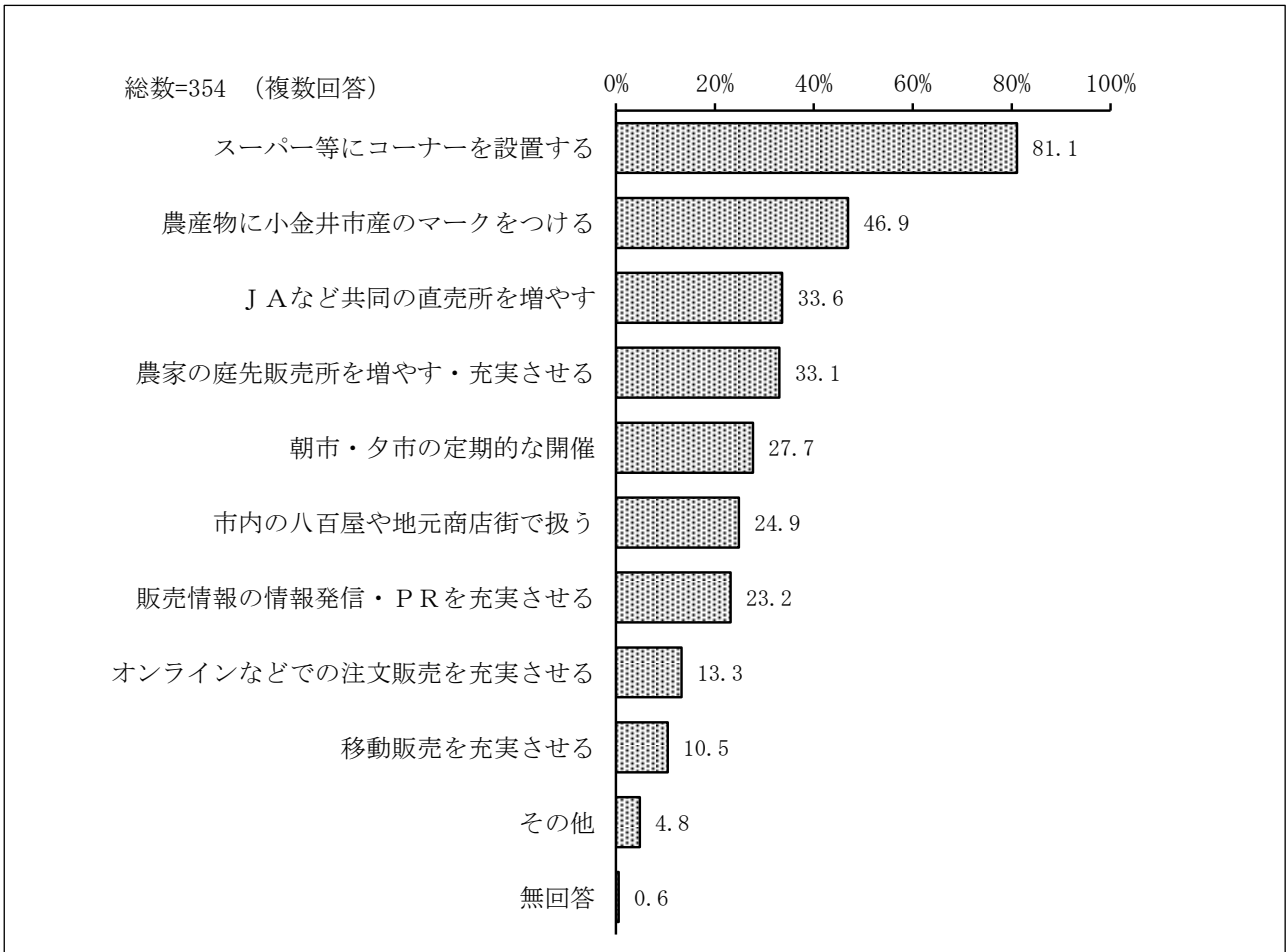
〈力になりたい〉人では、「地域の伝統的農産物」が他の属性に比べて多い。

		全体	日常的に食べる野菜・果物	珍しい品種の野菜・果物	地域の伝統的農産物	贈り物にできる果物や野菜	有機栽培・農薬不使用など環境に配慮した農産物	少々値段が高くても高品質の農産物	その他	無回答
	全体	354	81.4	21.2	<i>39.5</i>	9.0	58.2	22.6	2.8	1.4
年齢	10・20代	27	74.1	<i>29.6</i>	37.0	22.2	<i>29.6</i>	-	-	3.7
	30代	57	80.7	19.3	<i>43.9</i>	8.8	49.1	12.3	3.5	-
	40代	64	79.7	21.9	<i>42.2</i>	21.9	59.4	26.6	3.1	-
	50代	90	81.1	17.8	<i>32.2</i>	4.4	64.4	21.1	3.3	1.1
	60代	58	79.3	22.4	<i>39.7</i>	3.4	62.1	31.0	3.4	1.7
	70歳以上	58	89.7	22.4	<i>44.8</i>	1.7	65.5	32.8	1.7	3.4
地区	北東エリア(関野町・梶野町)	25	84.0	20.0	<i>52.0</i>	8.0	60.0	24.0	4.0	-
	中心エリア(緑町・本町)	115	86.1	24.3	<i>42.6</i>	12.2	51.3	21.7	3.5	1.7
	北西エリア(桜町・貫井北町)	45	75.6	20.0	<i>37.8</i>	6.7	48.9	20.0	2.2	-
	南東エリア(東町・中町)	89	75.3	15.7	<i>33.7</i>	10.1	62.9	22.5	2.2	3.4
	南西エリア(前原町・貫井南町)	77	83.1	24.7	<i>40.3</i>	5.2	67.5	26.0	2.6	-
農協家力に意対向す	力になりたい	144	86.8	22.9	<i>51.4</i>	12.5	57.6	22.2	0.7	-
	力になりたいと思わない	41	56.1	<i>17.1</i>	14.6	4.9	56.1	14.6	12.2	2.4
	わからない	155	82.6	20.6	<i>34.2</i>	7.1	60.0	23.9	2.6	1.9

※凡例：99.9 (太文字・下線)：第1位、99.9 (太文字)：第2位、99.9 (斜体)：第3位

(6) 小金井市産の農産物を手に入れやすくするために必要なこと

小金井市産の農産物を手に入れやすくするために、何が必要だと思いますか。(該当するものすべてに○)



販売場所に関しては、「スーパー等にコーナーを設置する」が81.1%で最も多く、以下、「J Aなど共同の直売所を増やす」(33.6%)、「農家の庭先販売所を増やす・充実させる」(33.1%)、「朝市・夕市の定期的な開催」(27.7%)、「市内の八百屋や地元商店街で扱う」(24.9%)が続いている。

販売場所以外では、「農産物に小金井市産のマークをつける」(46.9%)が半数弱と多く、「販売情報の情報発信・PRを充実させる」(23.2%)も比較的多い。

■属性別■

【年齢】

全体結果と回答傾向に大きな違いはみられないが、「農家の庭先販売所を増やす・充実させる」や「J Aなど共同の直売所を増やす」は40代以上の年齢層で多い。また、「オンラインなどでの注文販売を充実させる」は年齢層が低いほど多い傾向がみられる。

【地区】

〈北東エリア(関野町・梶野町)〉及び〈北西エリア(桜町・貫井北町)〉では「農家の庭先販売所を増やす・充実させる」が他の地区に比べて多い。

【農地までの距離】

〈隣接している〉では、「農家の庭先販売所を増やす・充実させる」が50%以上と他の属性に比べて多い。

【直売所の利用状況】

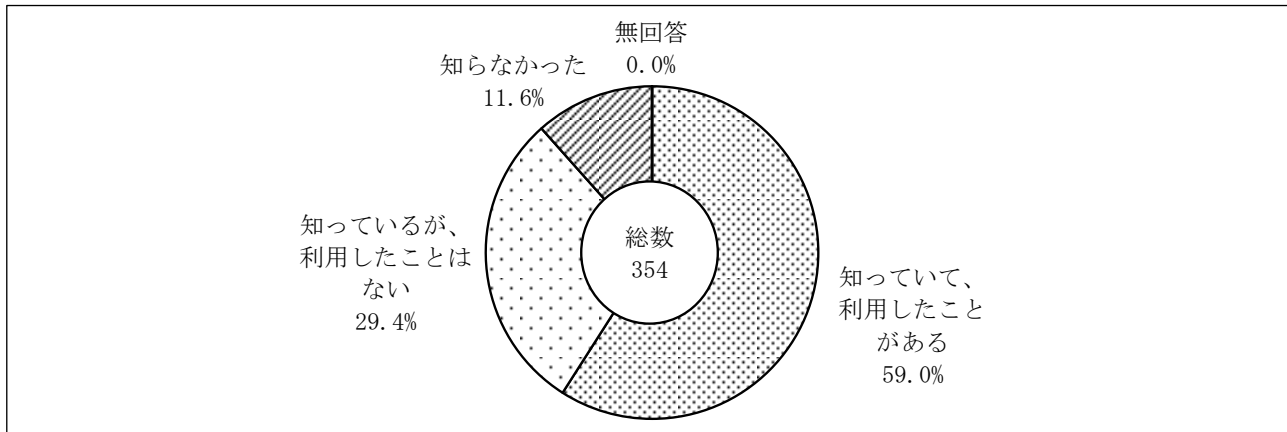
〈知っている、利用したことがある〉人では、「農家の庭先販売所を増やす・充実させる」が40%以上と他の属性に比べて多い。

		全体	スーパー等にコーナーを設置する	農産物に小金井市産のマークをつける	市内の八百屋や地元商店街で扱う	農家の庭先販売所を増やす・充実させる	J Aなど共同の直売所を増やす	移動販売を充実させる	オンラインなどでの注文販売を充実させる	朝市・夕市の定期的な開催	販売情報の情報発信・PRを充実させる	その他	無回答
	全体	354	81.1	46.9	24.9	33.1	33.6	10.5	13.3	27.7	23.2	4.8	0.6
年齢	10・20代	27	88.9	37.0	22.2	18.5	29.6	7.4	29.6	3.7	25.9	3.7	-
	30代	57	86.0	49.1	26.3	24.6	26.3	14.0	19.3	31.6	26.3	12.3	-
	40代	64	87.5	43.8	32.8	42.2	39.1	12.5	14.1	29.7	25.0	4.7	-
	50代	90	77.8	46.7	21.1	35.6	33.3	8.9	12.2	27.8	21.1	4.4	-
	60代	58	82.8	55.2	13.8	31.0	31.0	10.3	12.1	32.8	25.9	1.7	-
	70歳以上	58	69.0	44.8	32.8	36.2	39.7	8.6	1.7	27.6	17.2	1.7	3.4
地区	北東エリア(関野町・梶野町)	25	80.0	44.0	16.0	48.0	32.0	8.0	12.0	28.0	20.0	16.0	-
	中心エリア(緑町・本町)	115	80.0	48.7	29.6	30.4	35.7	9.6	16.5	27.0	19.1	4.3	-
	北西エリア(桜町・貫井北町)	45	86.7	46.7	24.4	44.4	33.3	11.1	15.6	31.1	26.7	4.4	-
	南東エリア(東町・中町)	89	77.5	38.2	24.7	24.7	30.3	9.0	10.1	25.8	24.7	5.6	2.2
	南西エリア(前原町・貫井南町)	77	83.1	53.2	20.8	35.1	36.4	13.0	10.4	29.9	27.3	1.3	-
農地までの距離	隣接している	29	79.3	48.3	31.0	51.7	37.9	20.7	10.3	17.2	24.1	6.9	-
	すぐ近くにある(家から歩いて2～3分以内)	196	81.6	48.5	20.9	33.7	36.2	10.7	15.3	29.6	25.0	5.1	0.5
	近くにない(自宅から約500m以上)	129	80.6	44.2	29.5	27.9	28.7	7.8	10.9	27.1	20.2	3.9	0.8
直売所状況	知っていて、利用したことがある	209	81.3	44.0	24.9	44.5	39.2	10.5	9.1	31.1	19.1	4.3	0.5
	知っているが、利用したことはない	104	78.8	48.1	26.9	14.4	25.0	9.6	20.2	21.2	27.9	6.7	1.0
	知らなかった	41	85.4	58.5	19.5	22.0	26.8	12.2	17.1	26.8	31.7	2.4	-

※凡例：**99.9** (太文字・下線)：第1位、**99.9** (太文字)：第2位、*99.9* (斜体)：第3位

(7) 直売所(庭先販売所)の認知度

あなたは、市内に直売所（庭先販売所）が設置されている農地があることをご存じですか。（一つだけに○）



約60%が「知っている、利用したことがある」と回答している。また、「知っているが、利用したことはない」が約30%で、市民の90%近くが直売所（庭先販売所）を認知している。

■属性別■

【年齢】

「知っている、利用したことがある」との回答は、40代以上では60～70%台と多い。また、〈30代〉では「知っているが、利用したことはない」が45.6%と他の年齢層に比べて多い。

【地区】

〈北東エリア(関野町・梶野町)〉及び〈北西エリア(桜町・貫井北町)〉では「知っている、利用したことがある」が70%以上と他の地区に比べて多い。

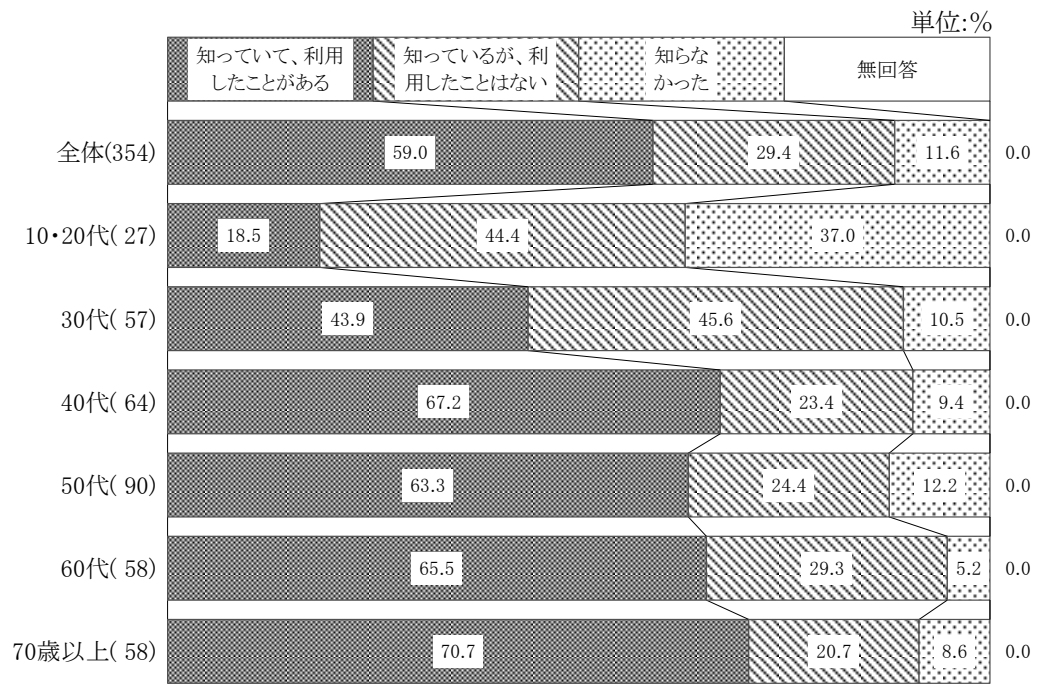
【居住年数】

「知っている、利用したことがある」との回答は、居住年数が長い人ほど多い傾向がみられる。一方、「知っているが、利用したことはない」や「知らなかった」との回答は、居住年数が短い人ほど多い傾向がみられる。

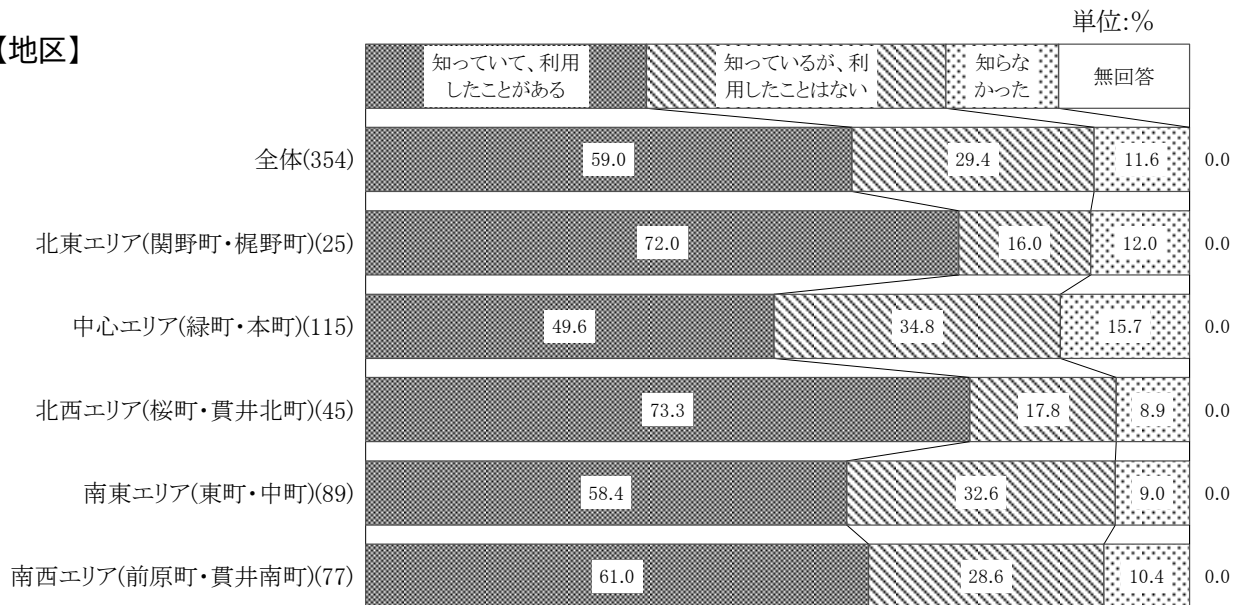
【農地までの距離】

「知っている、利用したことがある」との回答は、農地までの距離が近い人ほど多い傾向がみられる。

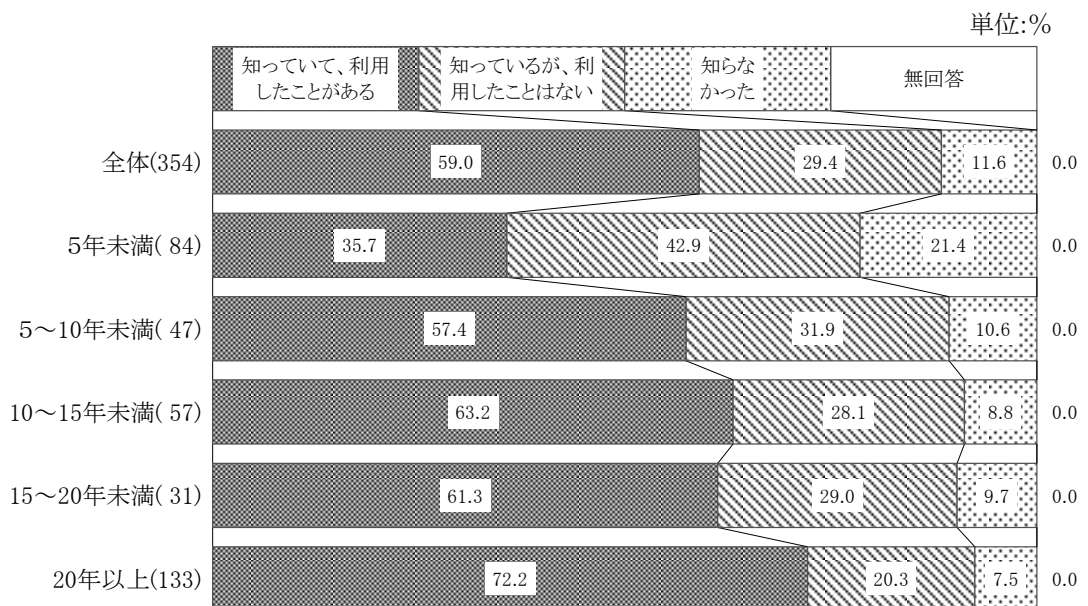
【年齢】



【地区】

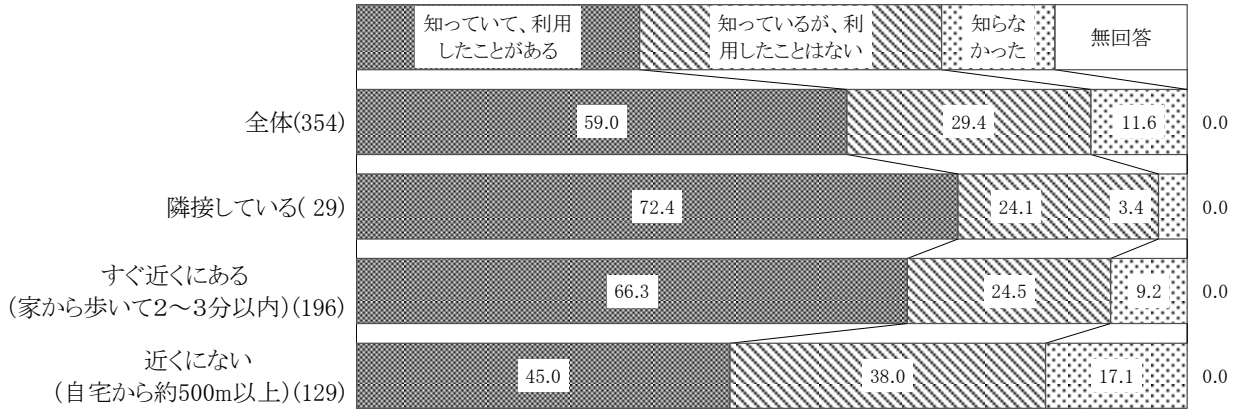


【居住年数】



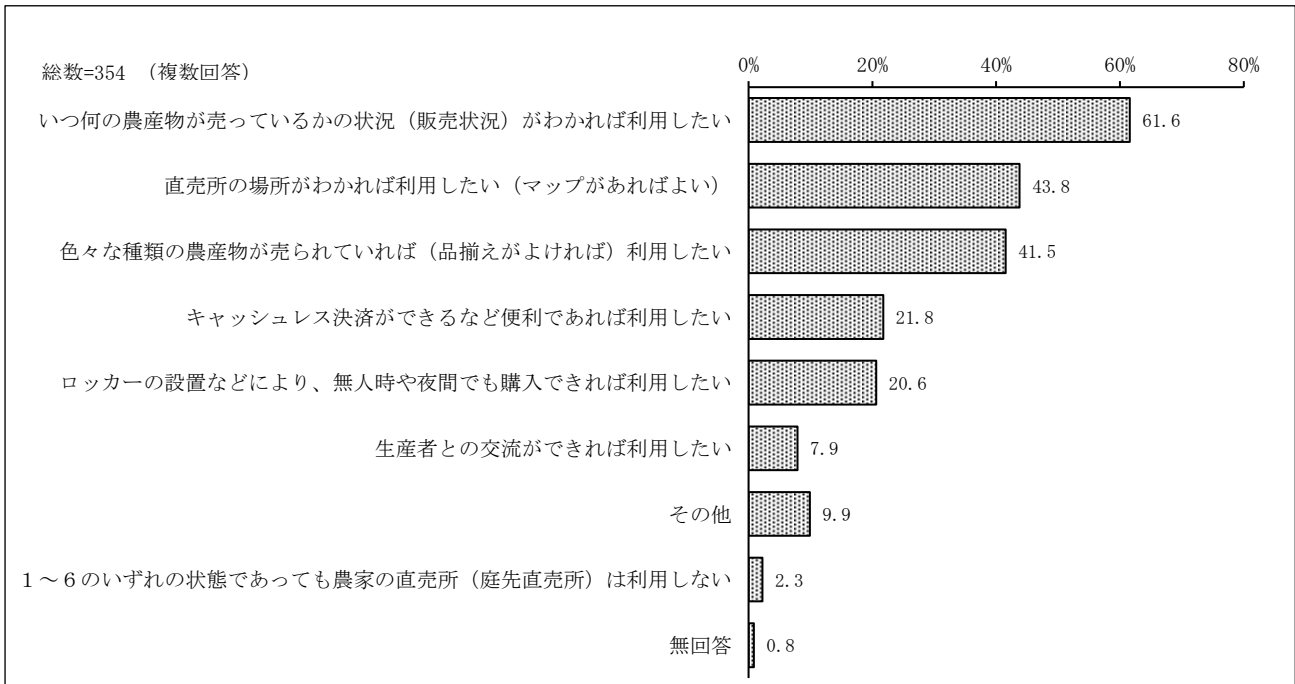
【農地までの距離】

単位:%



(8) 直売所(庭先販売所)の利用意向

あなたは、農家の直売所(庭先直売所)がどのようになれば、(もっと) 利用したいと思いますか。
(該当するものすべてに○)



「いつ何の農産物が売っているかの状況 (販売状況) がわかれば利用したい」が 61.6%、「色々な種類の農産物が売られていれば (品揃えがよければ) 利用したい」も 41.5%と、販売状況や品揃えに関する意見が多くなっている。また、「直売所の場所がわかれば利用したい (マップがあればよい)」も 43.8%と多く、網羅的に販売所の場所を周知する必要性が示されている。

■属性別■

【年齢】

全体結果と回答傾向に大きな違いはみられないが「色々な種類の農産物が売られていれば (品揃えがよければ) 利用したい」との回答は、50代以上の高年齢層で多い傾向がみられる。また、「ロッカーの設置などにより、無人時や夜間でも購入できれば利用したい」や「キャッシュレス決済ができるなど便利であれば利用したい」は年齢層が低いほど多い傾向がみられる。

【世帯構成】

〈一人暮らし〉では「ロッカーの設置などにより、無人時や夜間でも購入できれば利用したい」が他の属性に比べて多い。

【直売所の利用状況】

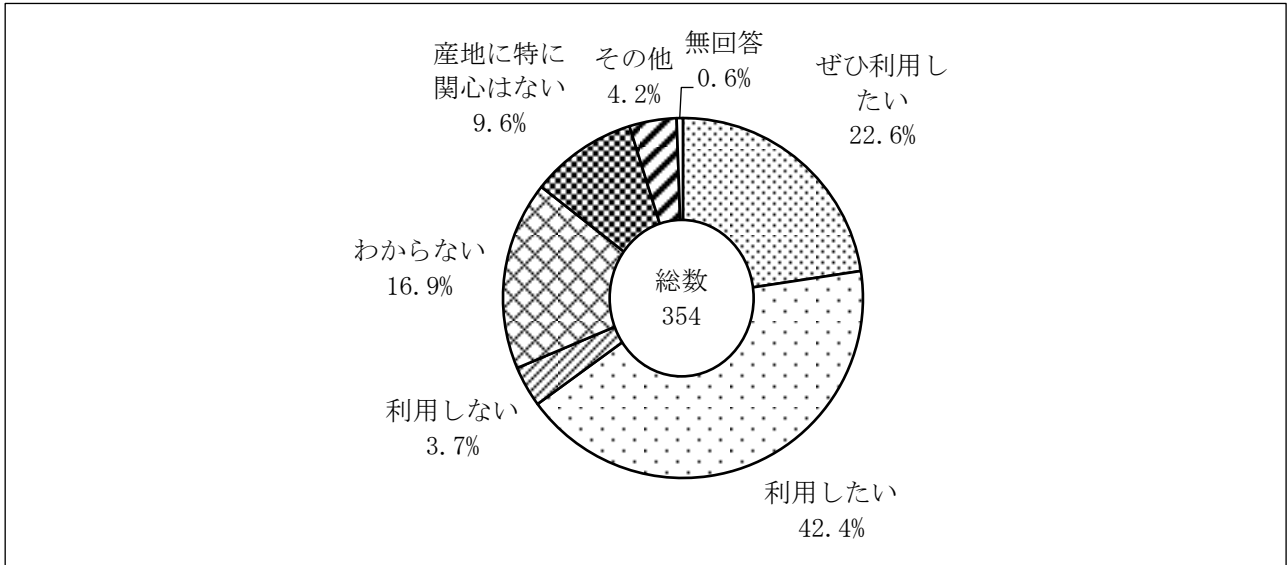
直場所の存在を〈知らなかった〉人では、「直売所の場所がわかれば利用したい (マップがあればよい)」が 70%以上と他の属性に比べて多い。

		全体	直売所の場所がわかれば利用したい (マップがあればよい)	色々な種類の農産物が売られていれば (品揃えがよければ) 利用したい	いつ何の農産物が売っているかの状況 (販売状況) がわかれば利用したい	生産者との交流ができれば利用したい	ロッカーの設置などにより、無人時や 夜間でも購入できれば利用したい	キャッシュレス決済ができるなど便利で あれば利用したい	その他	1〜6のいずれの状態であっても農家の 直売所(庭先直売所)は利用しない	無回答
全体		354	43.8	<i>41.5</i>	61.6	7.9	20.6	21.8	9.9	2.3	0.8
年齢	10・20代	27	44.4	22.2	44.4	3.7	37.0	<i>40.7</i>	14.8	3.7	-
	30代	57	43.9	36.8	63.2	7.0	24.6	<i>38.6</i>	10.5	1.8	-
	40代	64	48.4	<i>40.6</i>	60.9	14.1	23.4	26.6	10.9	3.1	-
	50代	90	44.4	44.4	65.6	5.6	13.3	20.0	12.2	1.1	1.1
	60代	58	46.6	46.6	69.0	6.9	19.0	15.5	5.2	1.7	-
	70歳以上	58	<i>34.5</i>	46.6	55.2	8.6	19.0	-	6.9	3.4	3.4
世帯構成	一人暮らし	48	43.8	37.5	50.0	-	<i>39.6</i>	20.8	8.3	4.2	2.1
	夫婦のみ	101	38.6	38.6	65.3	7.9	16.8	18.8	11.9	3.0	1.0
	18歳未満の子どもがいる	116	44.8	<i>42.2</i>	61.2	9.5	18.1	26.7	9.5	0.9	0.9
	18歳未満の子どもがいない	84	47.6	<i>44.0</i>	65.5	10.7	19.0	20.2	9.5	2.4	-
利直 用売 状況の	知っていて、利用したことがある	209	<i>41.6</i>	45.5	62.2	9.6	22.5	16.3	9.1	-	1.4
	知っているが、利用したことはない	104	37.5	37.5	61.5	4.8	12.5	27.9	12.5	4.8	-
	知らなかった	41	70.7	31.7	58.5	7.3	31.7	<i>34.1</i>	7.3	7.3	-

※凡例：99.9 (太文字・下線)：第1位、99.9 (太文字)：第2位、99.9 (斜体)：第3位

(9) 小金井市産の農産物を使った飲食店の利用意向

あなたは、小金井市産の農産物を売りにした飲食店（カフェ、レストラン、居酒屋など）があれば、利用したいと思いますか。（1つだけに○）



「ぜひ利用したい」が22.6%、「利用したい」が42.4%で、市民の60%以上が利用意向を持っている。「産地に特に興味はない」は9.6%、「利用しない」は3.7%と少ない。

■属性別■

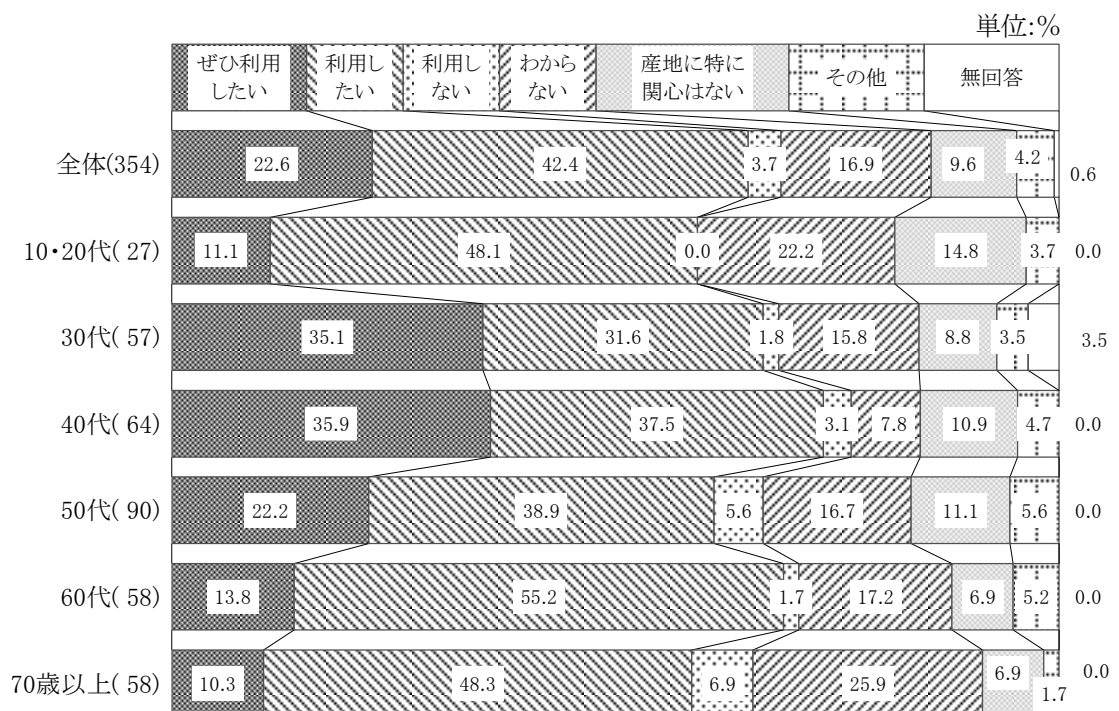
【年齢】

「ぜひ利用したい」との回答は、〈30代〉、〈40代〉で30%台と多い。

【世帯構成】

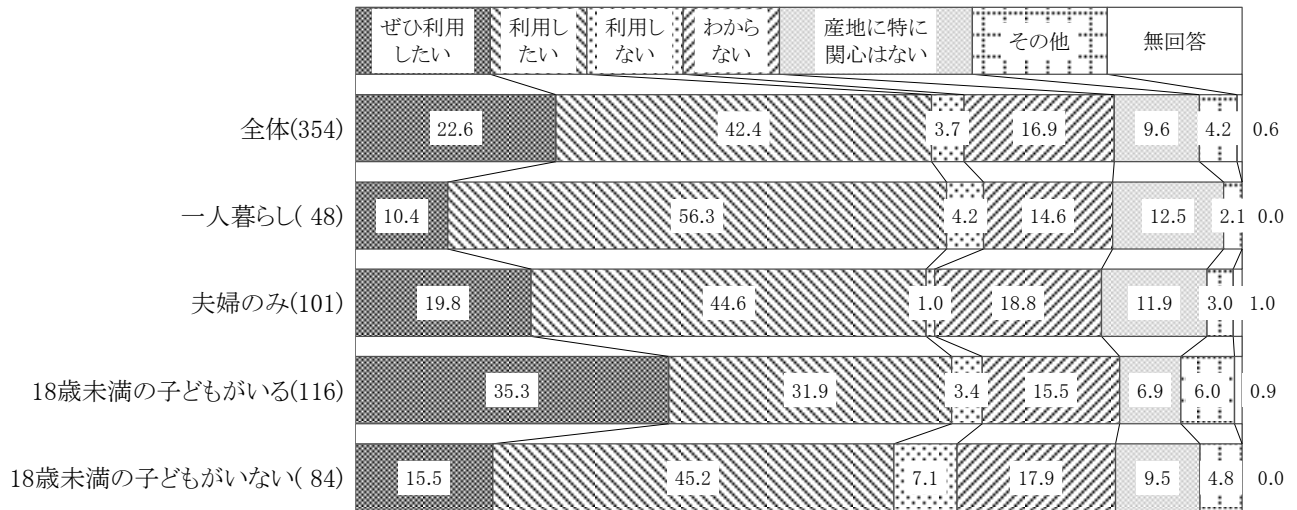
「ぜひ利用したい」との回答は、〈18歳未満の子どもがいる〉人で30%台と多い。

【年齢】



【世帯構成】

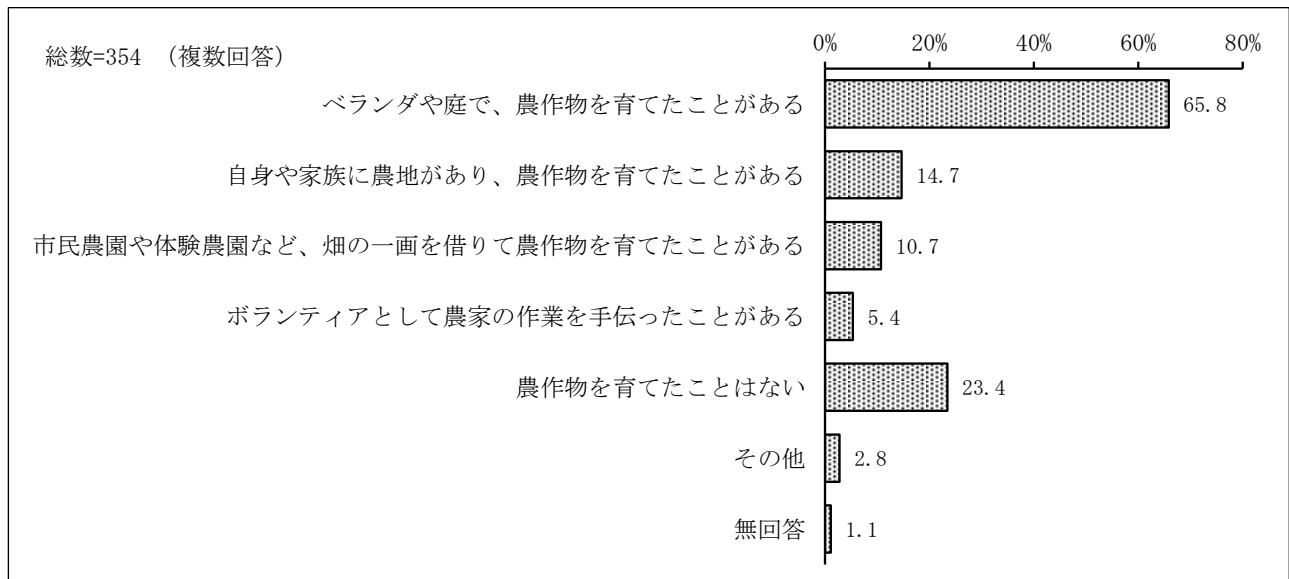
単位:%



3 農業への参加意向等

(1) これまでの農業体験

あなたの、農業の体験について教えてください。(該当するものすべてに○)



「ベランダや庭で、農作物を育てたことがある」が 65.8%で最も多く、「自身や家族の農地」や「市民農園や体験農園」などの農地で栽培体験をしている人はそれぞれ 14.7%、10.7%と少ない。

また、「農作物を育てたことはない」市民は 23.4%となっている。

■属性別■

【年齢】

農業体験は〈40代〉が比較的多い。農地での農業体験は40代未満で比較的多い傾向がみられ、60代以上の高年齢層では少ない。

【農家に対する協力意向】

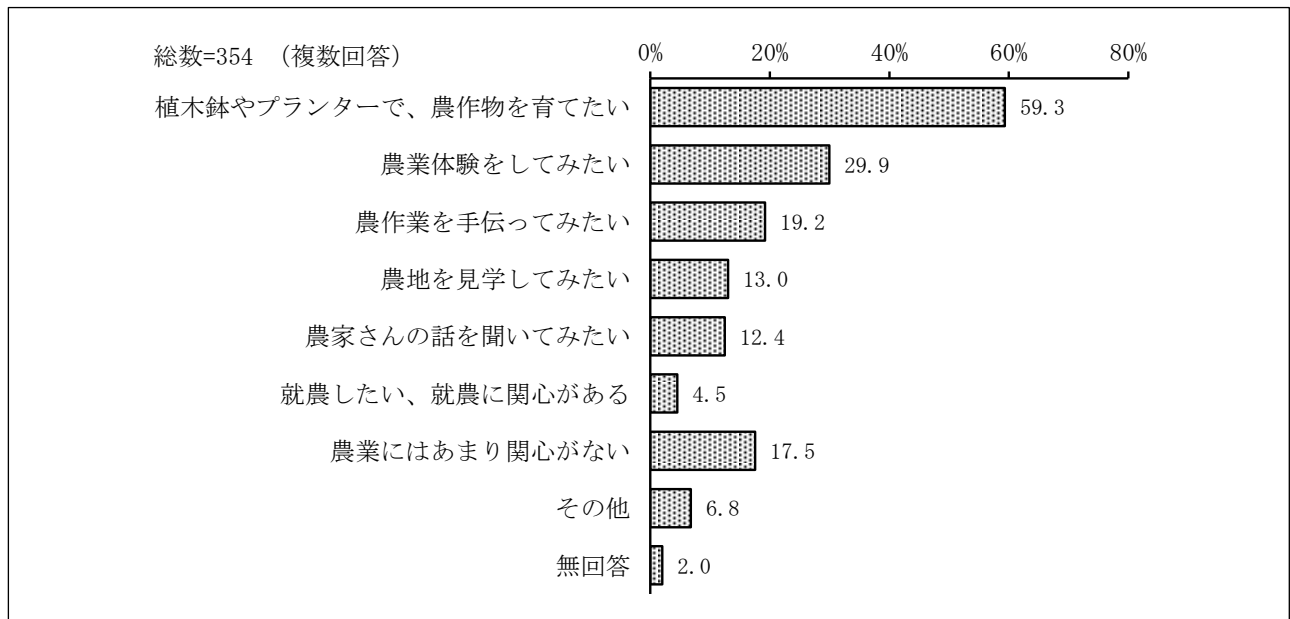
「農作物を育てたことはない」との回答は、〈力になりたいと思わない〉人では40%台と多い。

		全体	ベランダや庭で、農作物を育てたことがある	市民農園や体験農園などを借りて農作物を育てたことがある	自身や家族に農地があり、農作物を育てたことがある	ボランテニアとして農家の作業を手伝ったことがある	農作物を育てたことはない	その他	無回答
全体		354	65.8	10.7	14.7	5.4	23.4	2.8	1.1
年齢	10・20代	27	70.4	14.8	25.9	14.8	7.4	7.4	-
	30代	57	61.4	8.8	14.0	7.0	26.3	3.5	-
	40代	64	76.6	12.5	18.8	10.9	10.9	3.1	-
	50代	90	68.9	10.0	16.7	2.2	26.7	1.1	-
	60代	58	55.2	6.9	10.3	-	36.2	-	-
	70歳以上	58	62.1	13.8	6.9	3.4	24.1	5.2	6.9
農家力意対する	力になりたい	144	72.9	11.8	17.4	5.6	19.4	2.1	0.7
	力になりたいと思わない	41	41.5	9.8	7.3	7.3	41.5	2.4	-
	わからない	155	65.8	10.3	15.5	5.2	21.3	3.2	1.9

※凡例：99.9（太文字・下線）：第1位、99.9（太文字）：第2位、99.9（斜体）：第3位

(2) 農業に関する興味関心

あなたの農業に関する興味関心について教えてください。(該当するものすべてに○)



「植木鉢やプランターで、農作物を育てたい」が59.3%で最も多く、手軽さを求めている市民が多いことを示している。また、「農業体験をしてみたい」は29.9%となっている。一方、「農業にはあまり関心がない」は17.5%となっている。

■属性別■

【年齢】

「植木鉢やプランターで、農作物を育てたい」は〈30代〉をピークに低年齢層ほど多い傾向がみられる。「農業体験をしてみたい」や「農作業を手伝ってみたい」は〈40代〉及び〈30代〉で多くなっている。

【世帯構成】

〈18歳未満の子どもがいる〉人では「植木鉢やプランターで、農作物を育てたい」、「農業体験をしてみたい」、「農作業を手伝ってみたい」などが他の属性に比べて多い。

【居住年数】

〈20年以上〉では「農業体験をしてみたい」や「農作業を手伝ってみたい」の比率が他の居住年数に比べて少ない。

【農地までの距離】

「農家さんの話を聞いてみたい」、「農業体験をしてみたい」、「農作業を手伝ってみたい」との回答は、農地までの距離が近いほど多い傾向がみられる。

【農家に対する協力意向】

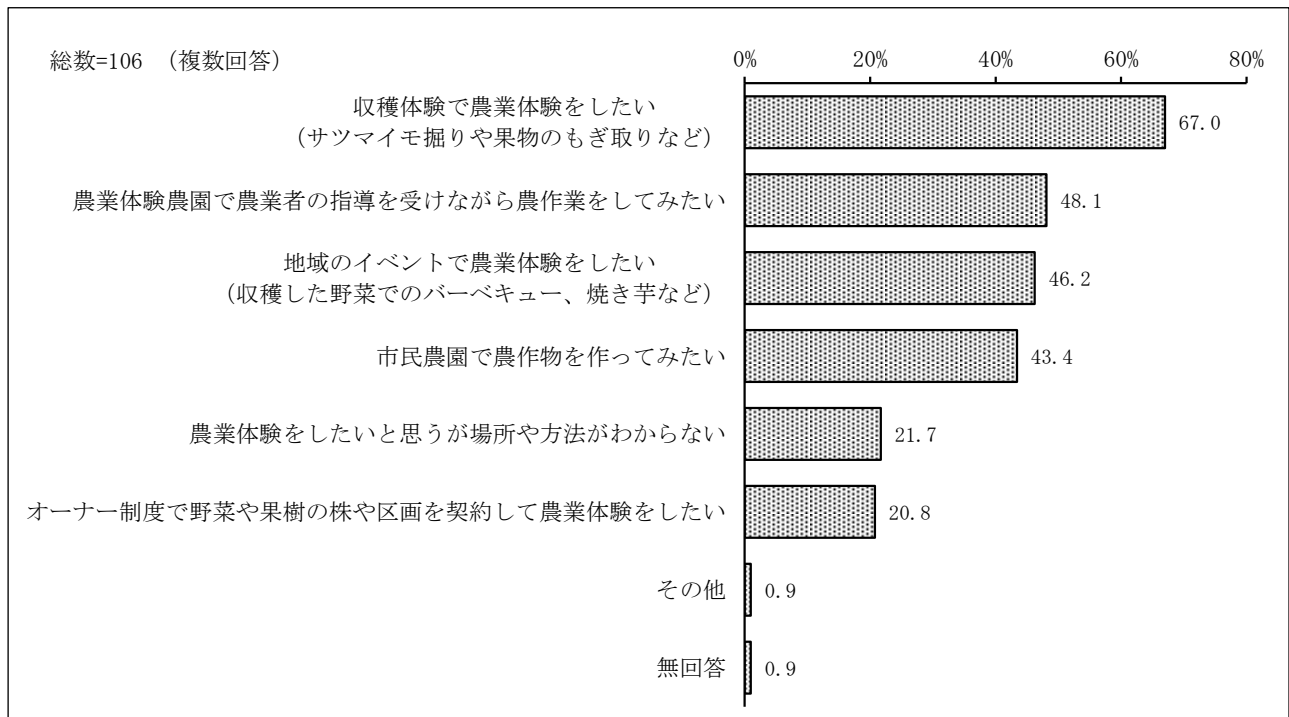
〈力になりたい〉人は、他の属性に比べて農業に対する興味関心が全般的に高い。

		全体	植木鉢やプランターで、農作物を育てたい	農地を見学してみたい	農家さんの話を聞いてみたい	農業体験をしてみたい	農作業を手伝ってみたい	就農したい、就農に関心がある	農業にはあまり関心がない	その他	無回答
全体		354	59.3	13.0	12.4	29.9	19.2	4.5	17.5	6.8	2.0
年齢	10・20代	27	22.2	7.4	11.1	22.2	18.5	7.4	48.1	3.7	-
	30代	57	71.9	17.5	10.5	45.6	26.3	5.3	12.3	3.5	-
	40代	64	64.1	17.2	15.6	48.4	34.4	9.4	14.1	9.4	-
	50代	90	64.4	10.0	10.0	26.7	15.6	2.2	14.4	5.6	1.1
	60代	58	60.3	15.5	12.1	22.4	13.8	3.4	15.5	8.6	-
	70歳以上	58	50.0	8.6	15.5	10.3	6.9	1.7	19.0	8.6	10.3
世帯構成	一人暮らし	48	43.8	6.3	12.5	20.8	12.5	6.3	25.0	6.3	4.2
	夫婦のみ	101	58.4	10.9	10.9	19.8	14.9	2.0	22.8	5.9	3.0
	18歳未満の子どもがいる	116	66.4	15.5	9.5	42.2	28.4	7.8	11.2	8.6	0.9
	18歳未満の子どもがいない	84	59.5	15.5	17.9	29.8	16.7	2.4	16.7	6.0	-
居住年数	5年未満	84	61.9	11.9	9.5	34.5	22.6	3.6	15.5	4.8	-
	5～10年未満	47	51.1	17.0	17.0	36.2	23.4	10.6	19.1	8.5	-
	10～15年未満	57	64.9	14.0	10.5	40.4	29.8	5.3	15.8	10.5	1.8
	15～20年未満	31	71.0	22.6	16.1	38.7	19.4	6.5	6.5	-	-
	20年以上	133	56.4	9.8	12.8	18.8	11.3	2.3	21.1	7.5	3.8
農地までの距離	隣接している	29	58.6	17.2	24.1	34.5	34.5	6.9	6.9	10.3	3.4
	すぐ近くにある (家から歩いて2～3分以内)	196	60.7	14.3	13.3	34.7	20.4	4.6	15.3	9.2	1.0
	近くにない (自宅から約500m以上)	129	57.4	10.1	8.5	21.7	14.0	3.9	23.3	2.3	3.1
利用状況	知っていて、利用したことがある	209	68.4	13.4	14.8	34.0	23.0	5.3	10.0	7.2	2.4
	知っているが、利用したことはない	104	51.0	12.5	7.7	22.1	13.5	1.0	26.0	7.7	1.9
	知らなかった	41	34.1	12.2	12.2	29.3	14.6	9.8	34.1	2.4	-
農家力意向	力になりたい	144	73.6	25.7	21.5	50.7	40.3	10.4	3.5	2.8	-
	力になりたいと思わない	41	39.0	4.9	-	9.8	-	-	46.3	9.8	-
	わからない	155	53.5	4.5	7.1	18.1	5.8	0.6	23.2	8.4	2.6

※凡例：**99.9** (太文字・下線)：第1位、**99.9** (太文字)：第2位、*99.9* (斜体)：第3位

(3) 今後やってみたい農業体験

【(2)で「農業体験をしてみたい」と回答した方のみ】
 農業体験について、あなたが今後やってみたいと思うものは何ですか。(該当するものすべてに○)



「収穫体験で農業体験をしたい (サツマイモ掘りや果物のもぎ取りなど)」が 67.0%で最も多く、以下、「農業体験農園で農業者の指導を受けながら農作業をしてみたい」(48.1%)、「地域のイベントで農業体験をしたい (収穫した野菜でのバーベキュー、焼き芋など)」(46.2%)、「市民農園で農作物を作ってみたい」(43.4%) が 40%台で続いている。

また、21.7%が「農業体験をしたいと思うが場所や方法がわからない」と回答している。

■属性別■

【性別】

〈女性〉は「収穫体験で農業体験をしたい (サツマイモ掘りや果物のもぎ取りなど)」が 70%台と〈男性〉に比べて多い。〈男性〉では「市民農園で農作物を作ってみたい」が女性よりも多い。

【年齢】

「地域のイベントで農業体験をしたい (収穫した野菜でのバーベキュー、焼き芋など)」や「農業体験農園で農業者の指導を受けながら農作業をしてみたい」は低年齢層ほど多い傾向がみられる。

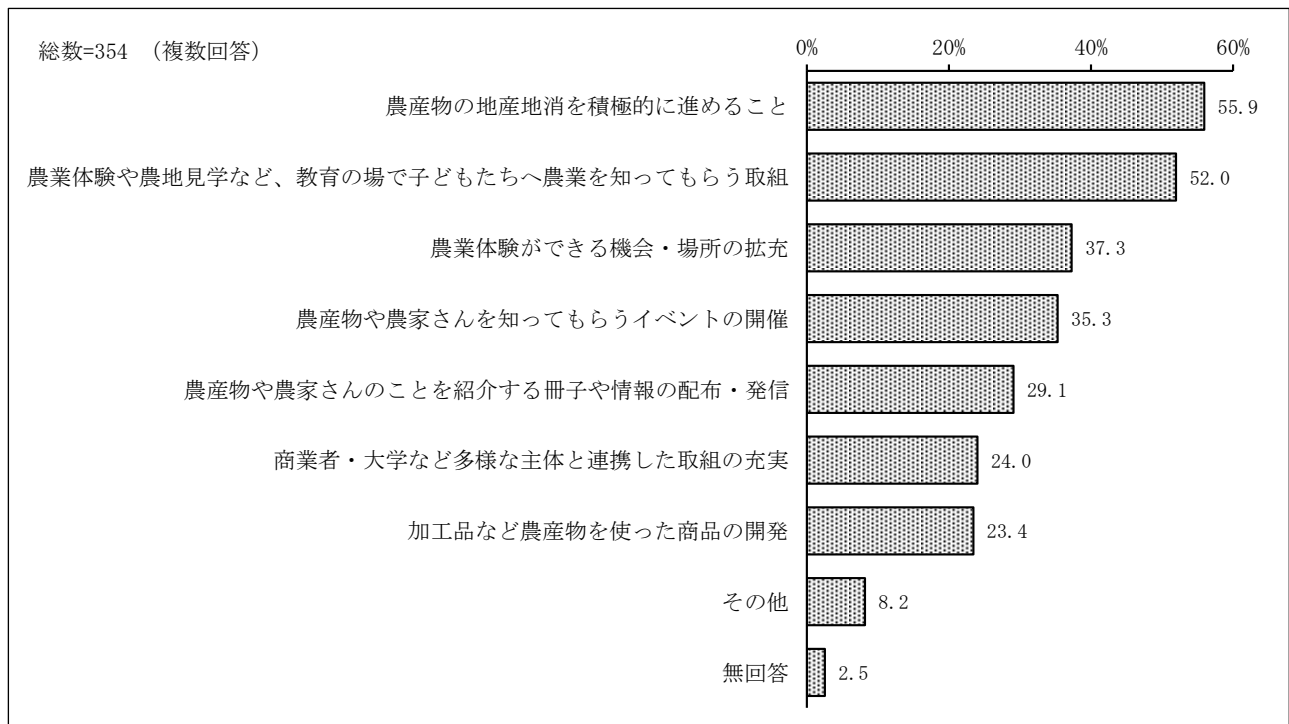
「農業体験をしたいと思うが場所や方法がわからない」は、〈50代〉をピークに 40~60代で多くなっている。

		全体	地域のイベントで農業体験をした野菜でのバーベキュー、焼き芋など	収穫体験で農業体験をしたい(サツマイモ掘りや果物のもぎ取りなど)	市民農園で農作物を作ってみたい	農業体験農園で農業者の指導を受けながら農作業してみたい	オーナー制度で野菜や果樹の株や区画を契約して農業体験をしたい	農業体験をしたいと思うが場所や方法がわからない	その他	無回答
全体		106	46.2	67.0	43.4	48.1	20.8	21.7	0.9	0.9
性別	男性	51	47.1	56.9	51.0	51.0	19.6	17.6	-	-
	女性	55	45.5	76.4	36.4	45.5	21.8	25.5	1.8	1.8
年齢	10・20代	6	66.7	83.3	16.7	<i>33.3</i>	16.7	-	-	-
	30代	26	<i>53.8</i>	76.9	57.7	50.0	15.4	11.5	-	-
	40代	31	58.1	77.4	38.7	<i>48.4</i>	16.1	29.0	-	-
	50代	24	25.0	54.2	<i>37.5</i>	41.7	33.3	33.3	4.2	4.2
	60代	13	46.2	61.5	46.2	38.5	30.8	23.1	-	-
	70歳以上	6	<i>16.7</i>	<i>16.7</i>	50.0	100.0	-	-	-	-

※凡例：99.9 (太文字・下線)：第1位、99.9 (太文字)：第2位、99.9 (斜体)：第3位

(4) 小金井市の農業を盛り上げていくために必要なこと

小金井市の農業を盛り上げていくために何が重要だと思いますか。(該当するものすべてに○)



「農産物の地産地消を積極的に進めること」が 55.9%、「農業体験や農地見学など、教育の場で子どもたちへ農業を知ってもらう取組」が 52.0%と、地産地消や子どもたちへの農業教育が半数以上と多くなっている。以下、「農業体験ができる機会・場所の拡充」(37.3%)、「農産物や農家さんを知ってもらうイベントの開催」(35.3%)、「農産物や農家さんのことを紹介する冊子や情報の配布・発信」(29.1%)と続いており、機会や場、情報発信の拡充を求める意見が多くなっている。

■属性別■

【年齢】

「農業体験ができる機会・場所の拡充」や「農業体験や農地見学など、教育の場で子どもたちへ農業を知ってもらう取組」は〈30代〉や〈40代〉で多く、50代以上では少ない傾向がみられる。「事業者・大学など多様な主体と連携した取組の充実」は〈40代〉で多い。また、〈50代〉では「農産物の地産地消を積極的に進めること」が70%台と他の年齢層に比べ多い。

【世帯構成】

〈18歳未満の子どもがいる〉人では「農業体験ができる機会・場所の拡充」や「農業体験や農地見学など、教育の場で子どもたちへ農業を知ってもらう取組」などが他の属性に比べて多い。また、〈18歳未満の子どもがいない〉人では、「農産物の地産地消を積極的に進めること」が70%弱と多い。

【農家に対する協力意向】

〈力になりたい〉人は、「農業体験ができる機会・場所の拡充」や「農業体験や農地見学など、教育の場で子どもたちへ農業を知ってもらう取組」、「農産物や農家さんを知ってもらうイベント

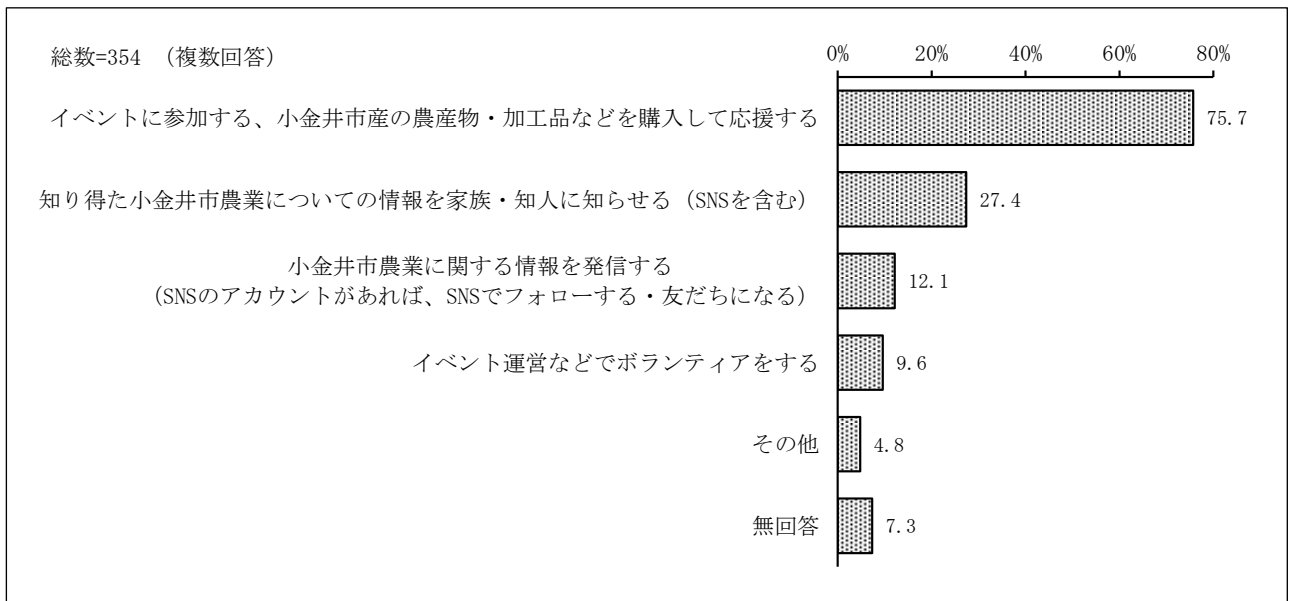
の開催」などで他の属性に比べて多い。

		全体	農業体験ができる機会・場所の拡充	農業体験や農地見学など、子どもたちへ農業を知ってもらう取組	農産物や農家さんの知ってもらうイベントの開催	農産物や農家さんのことを紹介する冊子や情報の配布・発信	農産物の地産地消を積極的に進めること	加工品など農産物を使った商品の開発	農業者・大学など多様な主体と連携した取組の充実	その他	無回答
	全体	354	37.3	52.0	35.3	29.1	55.9	23.4	24.0	8.2	2.5
年齢	10・20代	27	33.3	55.6	33.3	29.6	37.0	25.9	33.3	11.1	-
	30代	57	50.9	61.4	26.3	24.6	52.6	31.6	21.1	8.8	-
	40代	64	48.4	67.2	34.4	21.9	51.6	28.1	40.6	12.5	-
	50代	90	26.7	43.3	36.7	30.0	71.1	22.2	20.0	5.6	2.2
	60代	58	37.9	41.4	41.4	37.9	55.2	19.0	22.4	5.2	3.4
	70歳以上	58	29.3	48.3	37.9	31.0	50.0	15.5	12.1	8.6	8.6
世帯構成	一人暮らし	48	29.2	35.4	39.6	25.0	43.8	16.7	20.8	10.4	4.2
	夫婦のみ	101	30.7	42.6	35.6	33.7	53.5	23.8	22.8	8.9	4.0
	18歳未満の子どもがいる	116	51.7	66.4	31.9	23.3	55.2	25.0	31.0	7.8	0.9
	18歳未満の子どもがいない	84	29.8	50.0	36.9	34.5	69.0	26.2	17.9	7.1	2.4
農家力意対向する	力になりたい	144	49.3	61.8	45.1	31.9	66.0	25.7	25.7	9.0	0.7
	力になりたいと思わない	41	22.0	26.8	14.6	22.0	39.0	22.0	12.2	12.2	4.9
	わからない	155	31.0	51.0	32.3	28.4	53.5	23.2	27.1	5.8	1.3

※凡例：**99.9** (太文字・下線)：第1位、99.9 (太文字)：第2位、99.9 (斜体)：第3位

(5) 農業に関する取組で協力したいこと

(4) の取組について、あなたが協力したいことは何ですか。(該当するものすべてに○)



「イベントに参加する、小金井市産の農産物・加工品などを購入して応援する」が75.7%で最も多く、「知り得た小金井市農業についての情報を家族・知人に知らせる (SNSを含む)」が27.4%で続いている。

「小金井市農業に関する情報を発信する」や「イベント運営などでボランティアをする」などの積極的な関わりについては10%前後と少ない。

■属性別■

【年齢】

全体結果と回答傾向に大きな違いはみられないが、「小金井市農業に関する情報を発信する (SNSのアカウントがあれば、SNSでフォローする・友だちになる)」は低年齢層ほど多い傾向がみられる。

【世帯構成】

「イベントに参加する、小金井市産の農産物・加工品などを購入して応援する」は、〈18歳未満の子どもがいる〉人及び〈18歳未満の子どもがいない〉人で多い。

【農家に対する協力意向】

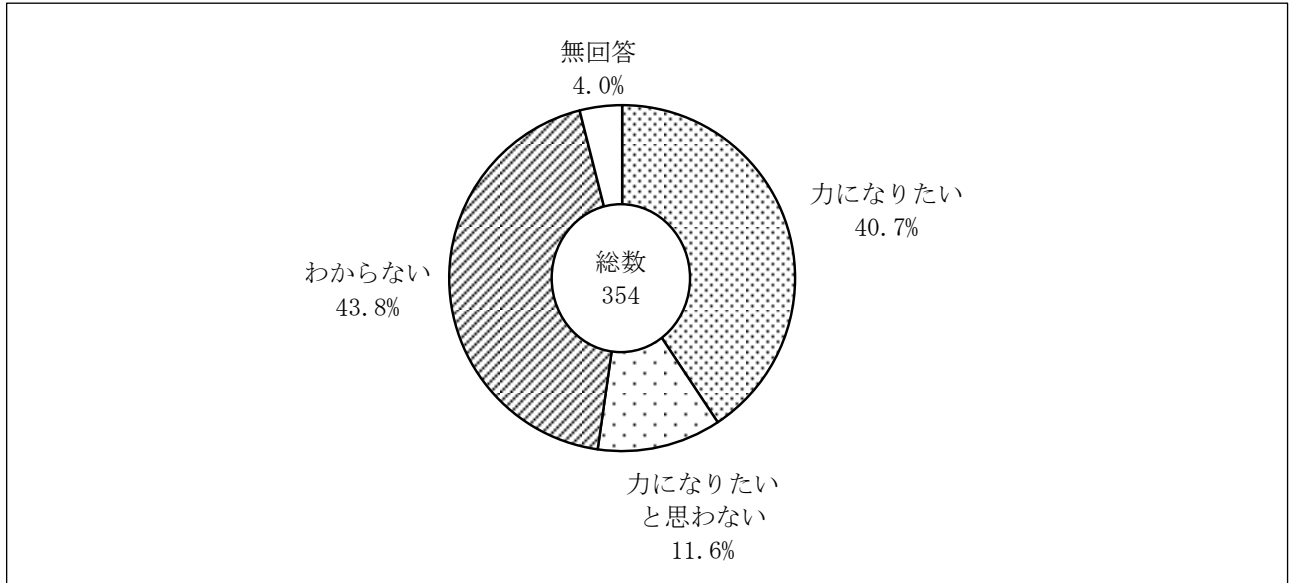
「イベントに参加する、小金井市産の農産物・加工品などを購入して応援する」や「イベント運営などでボランティアをする」は、〈力になりたい〉人で、他の属性に比べて多い。

		全体	イベントに参加する、加工品などを購入して応援する	知り得た小金井市農業について、家族・知人に知らせる（SNSを含む）	小金井市農業に関する情報を発信する（SNSのアカウントがあれば、SNSでフォローする・友だちになる）	イベント運営などでボランティアをする	その他	無回答
	全体	354	75.7	27.4	<i>12.1</i>	9.6	4.8	7.3
年齢	10・20代	27	44.4	33.3	33.3	14.8	3.7	7.4
	30代	57	80.7	35.1	<i>17.5</i>	7.0	5.3	1.8
	40代	64	85.9	26.6	14.1	<i>15.6</i>	3.1	6.3
	50代	90	85.6	25.6	<i>10.0</i>	5.6	5.6	5.6
	60代	58	77.6	22.4	8.6	<i>12.1</i>	-	10.3
	70歳以上	58	56.9	25.9	1.7	6.9	10.3	<i>13.8</i>
世帯構成	一人暮らし	48	68.8	20.8	<i>10.4</i>	6.3	8.3	8.3
	夫婦のみ	101	67.3	25.7	<i>11.9</i>	6.9	7.9	8.9
	18歳未満の子どもがいる	116	85.3	29.3	<i>12.9</i>	12.1	1.7	6.0
	18歳未満の子どもがいない	84	77.4	32.1	<i>11.9</i>	<i>11.9</i>	3.6	4.8
農家協力意向	力になりたい	144	87.5	32.6	15.3	<i>21.5</i>	0.7	2.8
	力になりたいと思わない	41	41.5	<i>17.1</i>	4.9	2.4	26.8	14.6
	わからない	155	77.4	25.8	<i>12.3</i>	0.6	2.6	7.1

※凡例：**99.9**（太文字・下線）：第1位、**99.9**（太文字）：第2位、*99.9*（斜体）：第3位

(6) 農家への協力

農業の担い手が減少傾向にあり、後継者不足が課題となっています。あなたは、自分にできることがあれば、農家さんの力になりたいと思いますか。(1つだけに○)



「力になりたい」は40.7%で、「力になりたいと思わない」の11.6%を大きく上回っている。

■属性別■

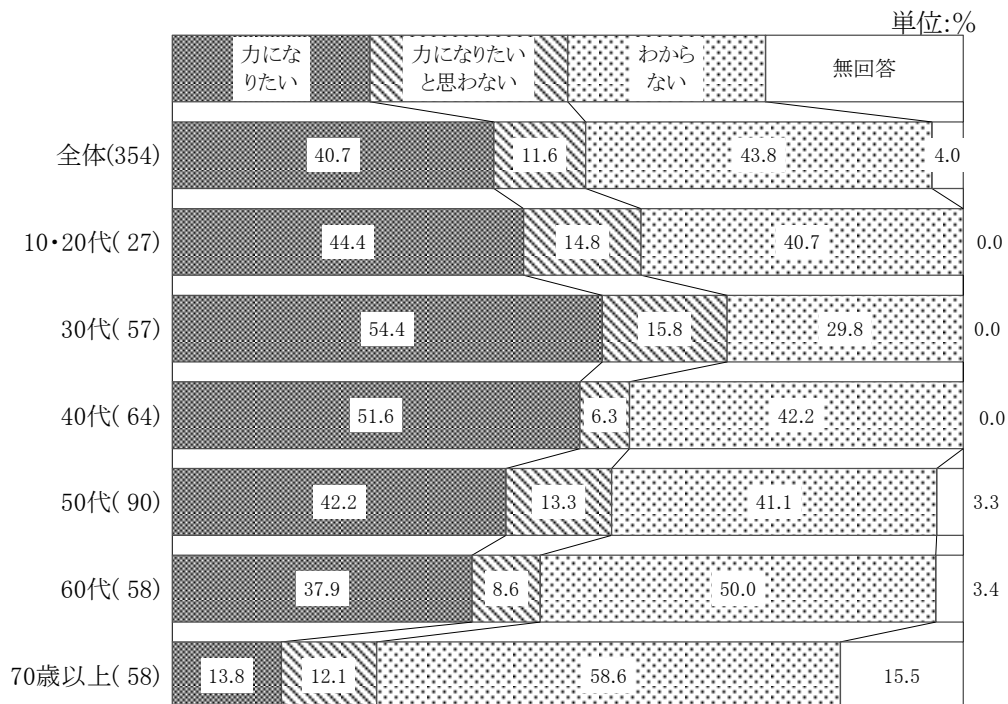
【年齢】

「力になりたい」は〈30代〉をピークに低年齢層ほど多い傾向がみられる。

【世帯構成】

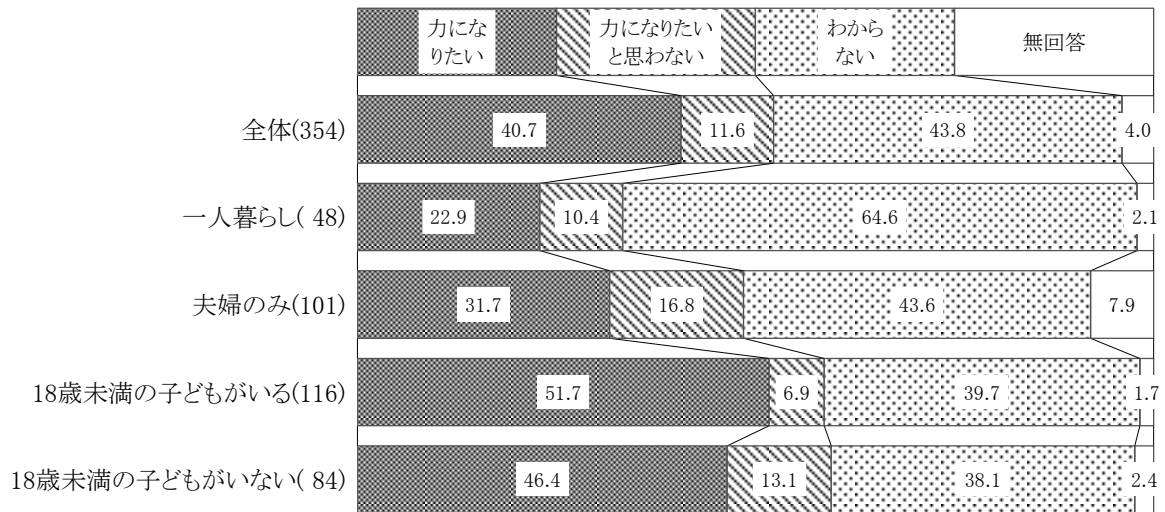
「力になりたい」は、〈18歳未満の子どもがいる〉人で50%以上と多い。

【年齢】



【世帯構成】

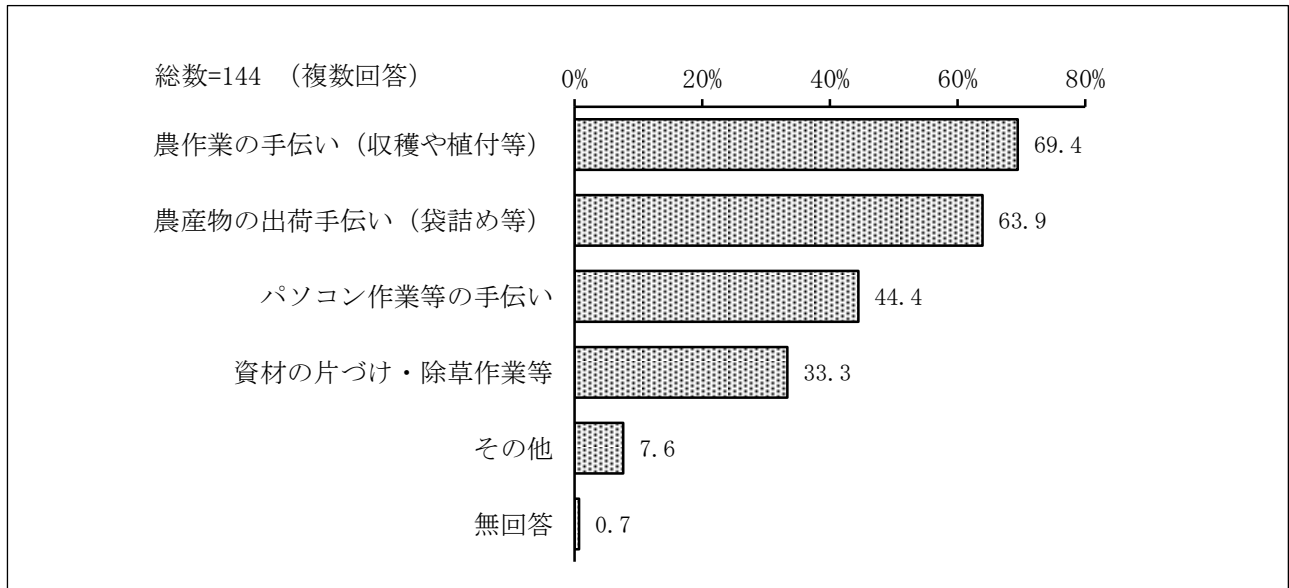
単位:%



(7) 農家への協力内容

【(6) で「力になりたい」と回答した方のみ】

農家さんへの支援について、あなたがやってもいいと思うものを教えてください。(該当するものすべてに○)



「農作業の手伝い (収穫や植付等)」が 69.4%、「農産物の出荷手伝い (袋詰め等)」が 63.9%と、生産や出荷に関する手伝いが多くなっている。また、「パソコン作業等の手伝い」は 44.4%、「資材の片づけ・除草作業等」は 33.3%となっている。

■属性別■

【性別】

〈男性〉では「農作業の手伝い (収穫や植付等)」や「資材の片づけ・除草作業等」が〈女性〉に比べて多い。

【年齢】

「パソコン作業等の手伝い」は低年齢層ほど多い傾向がみられる。

【農地までの距離】

「農作業の手伝い (収穫や植付等)」は、農地までの距離が短いほど多い傾向がみられる。

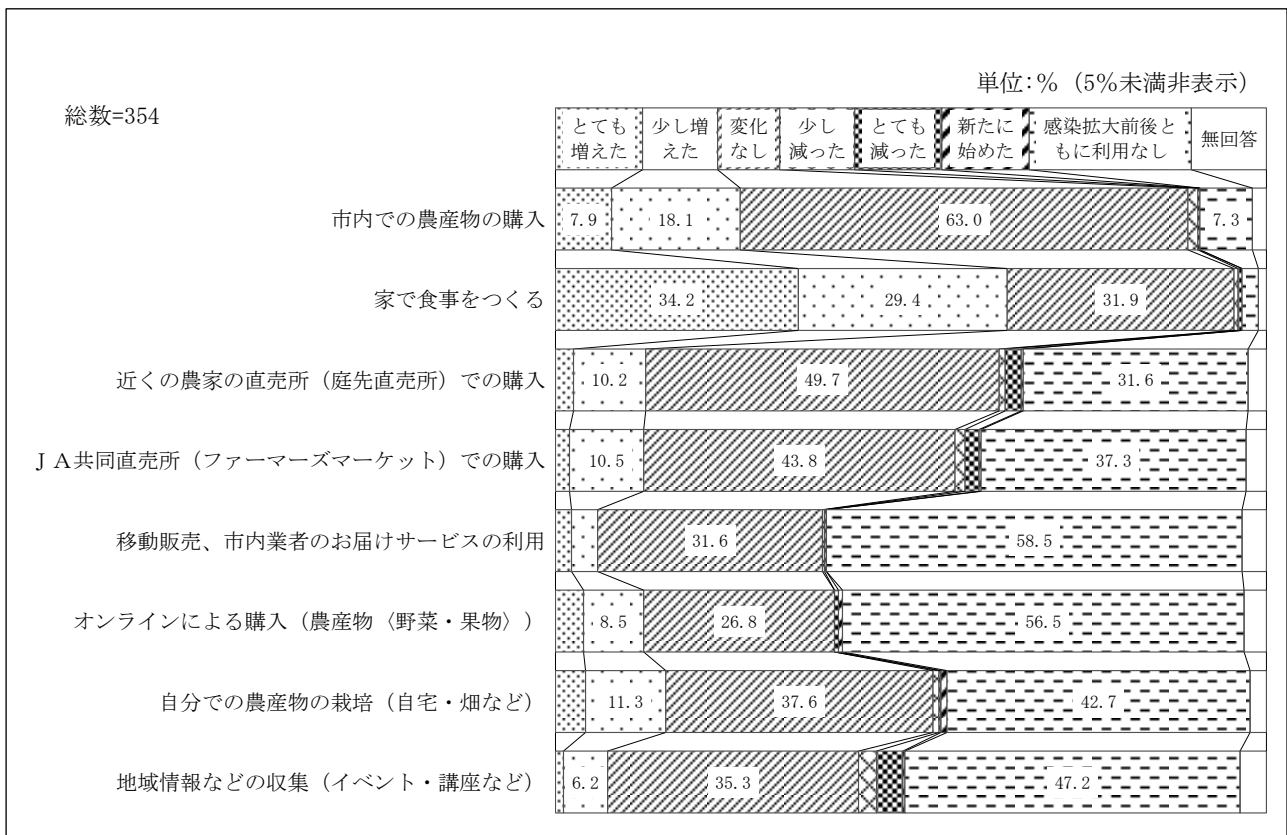
		全体	農作業の手伝い (収穫や植付等)	資材の片づけ・除草作業等	農産物の出荷手伝い (袋詰め等)	パソコン作業等の手伝い	その他	無回答
全体		144	69.4	33.3	63.9	<i>44.4</i>	7.6	0.7
性別	男性	73	80.8	<i>43.8</i>	56.2	<i>43.8</i>	6.8	-
	女性	71	57.7	22.5	71.8	<i>45.1</i>	8.5	1.4
年齢	10・20代	12	<i>41.7</i>	<i>41.7</i>	66.7	83.3	8.3	-
	30代	31	71.0	32.3	61.3	<i>58.1</i>	12.9	-
	40代	33	78.8	39.4	72.7	<i>57.6</i>	-	-
	50代	38	60.5	28.9	68.4	<i>36.8</i>	7.9	-
	60代	22	81.8	<i>31.8</i>	54.5	9.1	4.5	4.5
	70歳以上	8	75.0	<i>25.0</i>	37.5	12.5	<i>25.0</i>	-
農地までの距離	隣接している	16	81.3	31.3	62.5	<i>50.0</i>	6.3	-
	すぐ近くにある (家から歩いて2～3分以内)	80	76.3	35.0	66.3	<i>42.5</i>	11.3	-
	近くでない (自宅から約500m以上)	48	54.2	31.3	60.4	<i>45.8</i>	2.1	2.1

※凡例：99.9 (太文字・下線)：第1位、**99.9** (太文字)：第2位、*99.9* (斜体)：第3位

4 新型コロナウイルス感染拡大による影響

(1) 新型コロナウイルス感染拡大による行動変化

あなたの暮らしにおいて、農業や食について、新型コロナウイルス感染拡大は、感染拡大前と比べてどのような行動変化をもたらしましたか。(それぞれ1つだけに○)



(注) 5%未満数値:

市内での農産物の購入(1.4、0.3、-、2.0)

家で食事をつくる(0.6、0.6、-、2.3、1.1)

近くの農家の直売所(庭先直売所)での購入(2.5、0.8、2.3、0.3、2.5)

JA共同直売所(ファーマーズマーケット)での購入(2.0、1.4、2.0、0.3、2.8)

移動販売、市内業者のお届けサービスの利用(2.3、3.7、0.3、0.3、-、3.4)

オンラインによる購入(農産物<野菜・果物>)(4.0、-、0.6、0.6、3.1)

自分での農産物の栽培(自宅・畑など)(4.2、0.8、0.3、0.8、2.3)

地域情報などの収集(イベント・講座など)(1.1、2.5、3.7、0.3、3.7)

『家で食事をつくる』以外の各項目は、各項目ともに、「感染拡大前後とも利用なし」を除くと、「変化なし」が最も多く、「少し減った」、「とても減った」、「新たに始めた」という回答は少ない。

「とても増えた」及び「少し増えた」が多い項目は、『家で食事をつくる』(合計63.6%)、『市内での農産物の購入』(合計26.0%)などで、『自分での農産物の栽培(自宅・畑など)』、『近くの農家の直売所(庭先直売所)での購入』、『JA共同直売所(ファーマーズマーケット)での購入』、『オンラインによる購入(農産物<野菜・果物>)』なども合計10%以上と比較的多くなっている。

■属性別■

1 市内での農産物の購入

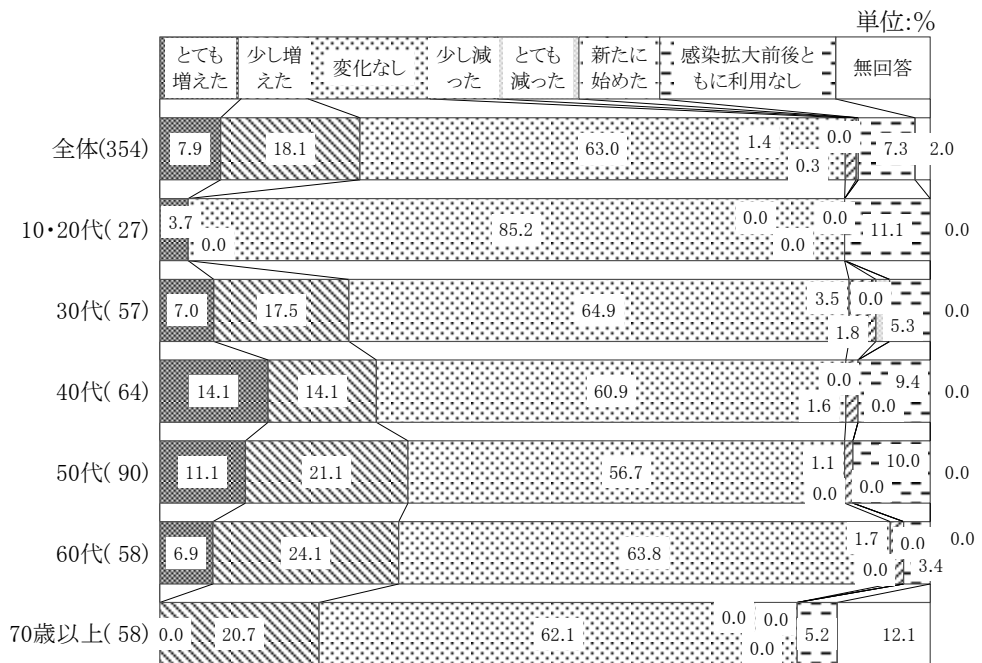
【年齢】

「とても増えた」との回答は〈40代〉の14.1%をピークとして年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈50代〉の32.2%をピークに年齢層が離れるほど減少する傾向がみられ、〈10・20代〉では3.7%にとどまる。

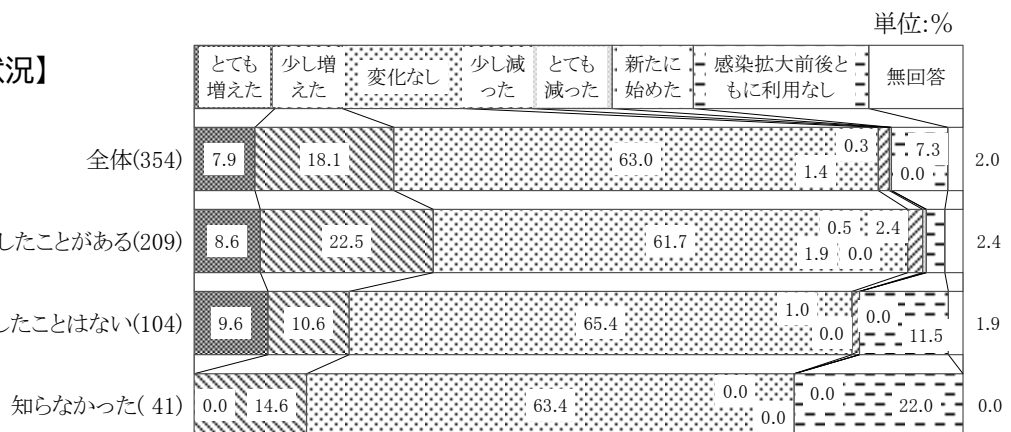
【直売所の利用状況】

「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈知っている、利用したことがある〉人で31.1%と他の属性に比べて多い。

【年齢】



【直売所の利用状況】



2 家で食事をつくる

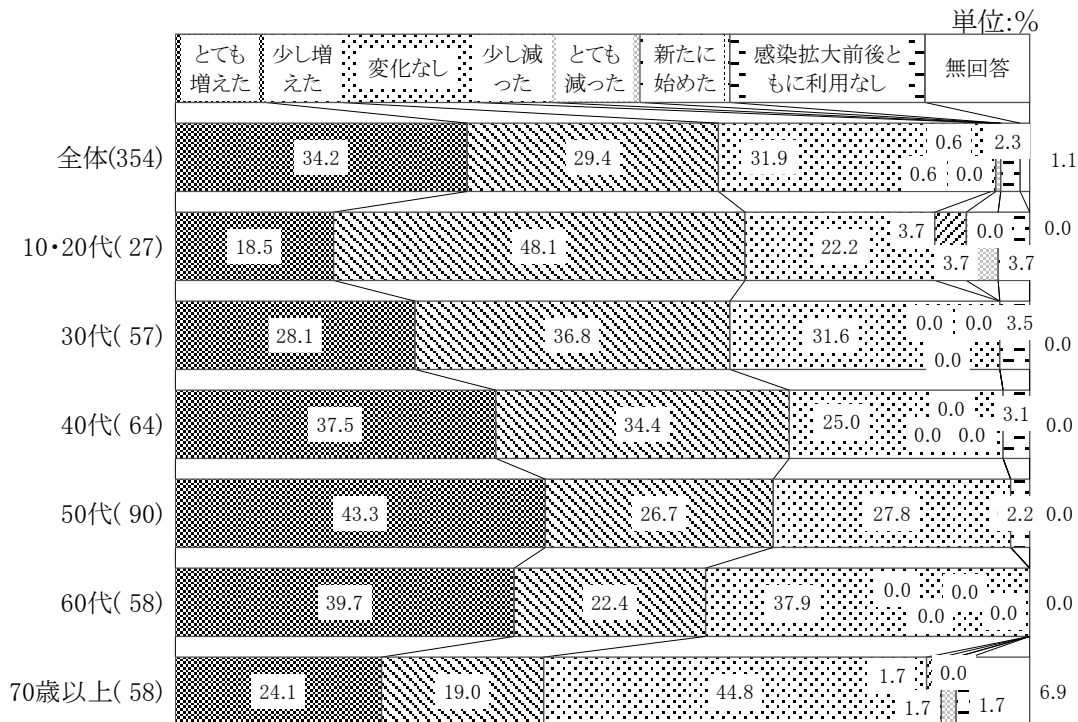
【年齢】

「とても増えた」との回答は〈50代〉の43.3%をピークとして年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈40代〉の71.9%をピークに年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。

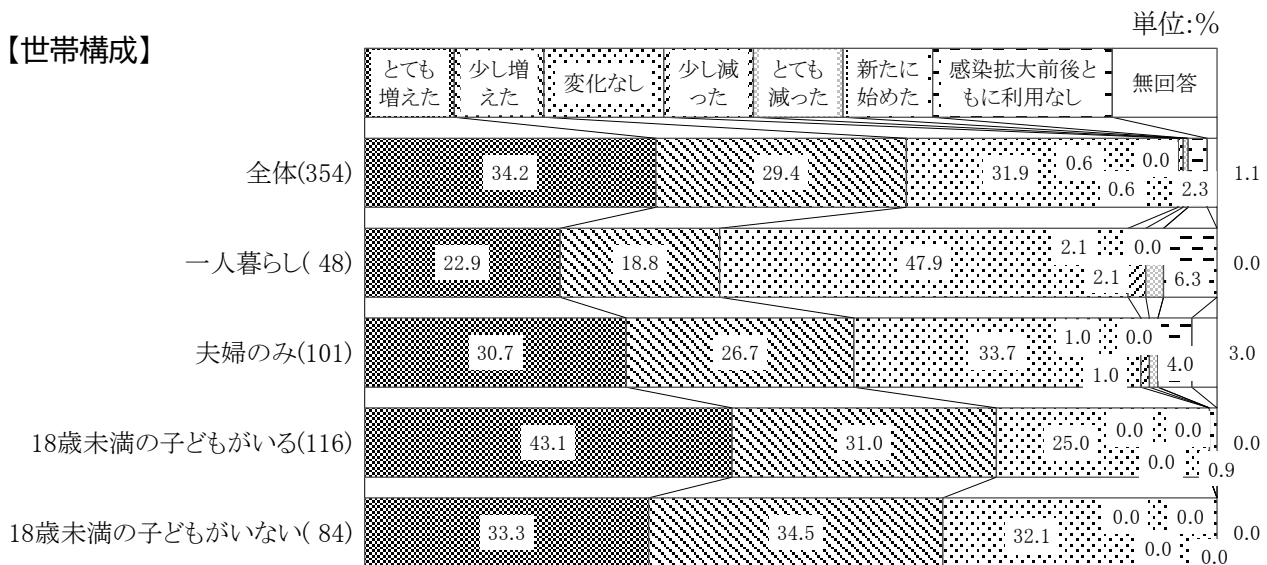
【世帯構成】

「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈18歳未満の子どもがいる〉人で74.1%と多い一方、〈一人暮らし〉では41.7%と少ない。

【年齢】



【世帯構成】



3 近くの農家の直売所（庭先直売所）での購入

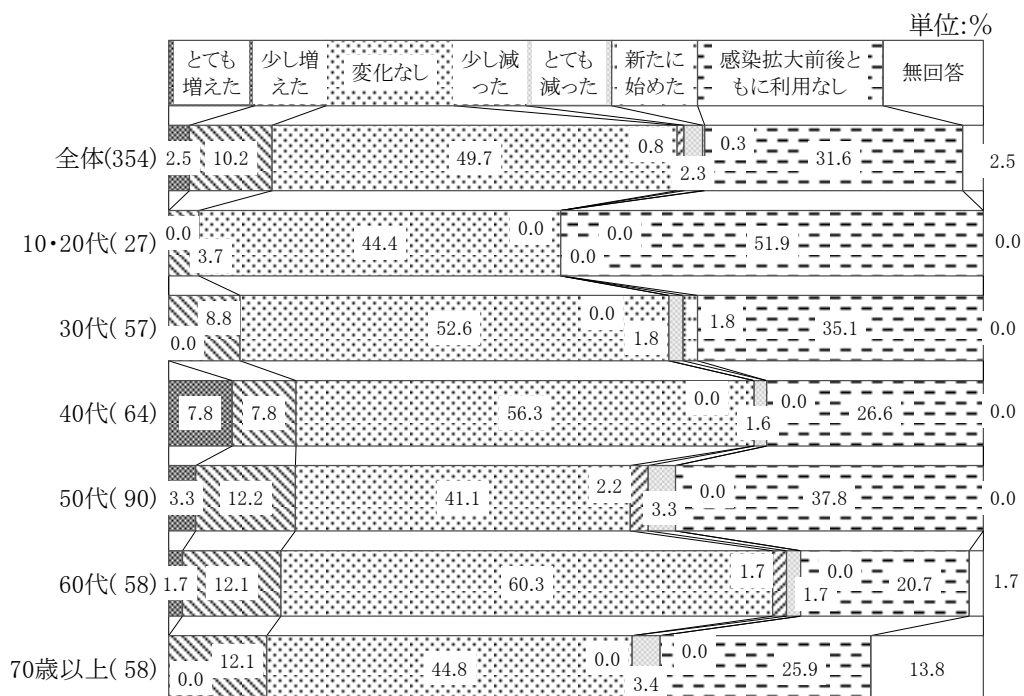
【年齢】

「とても増えた」との回答は〈40代〉を中心に多く、30代以下では0%となっている。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈40代〉の15.6%をピークに年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。

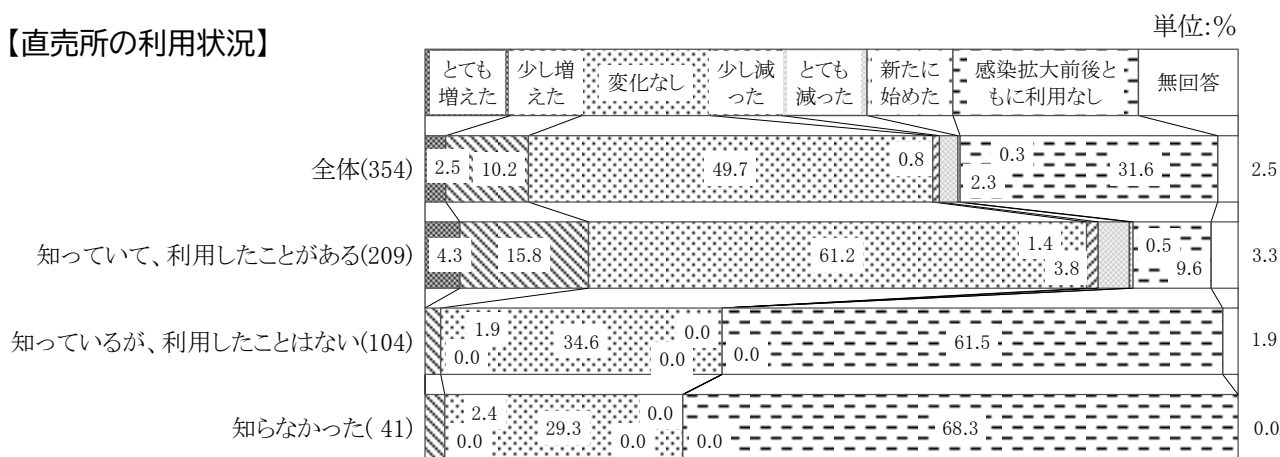
【直売所の利用状況】

「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈知っている、利用したことがある〉人で20.1%と他の属性に比べて多い。

【年齢】



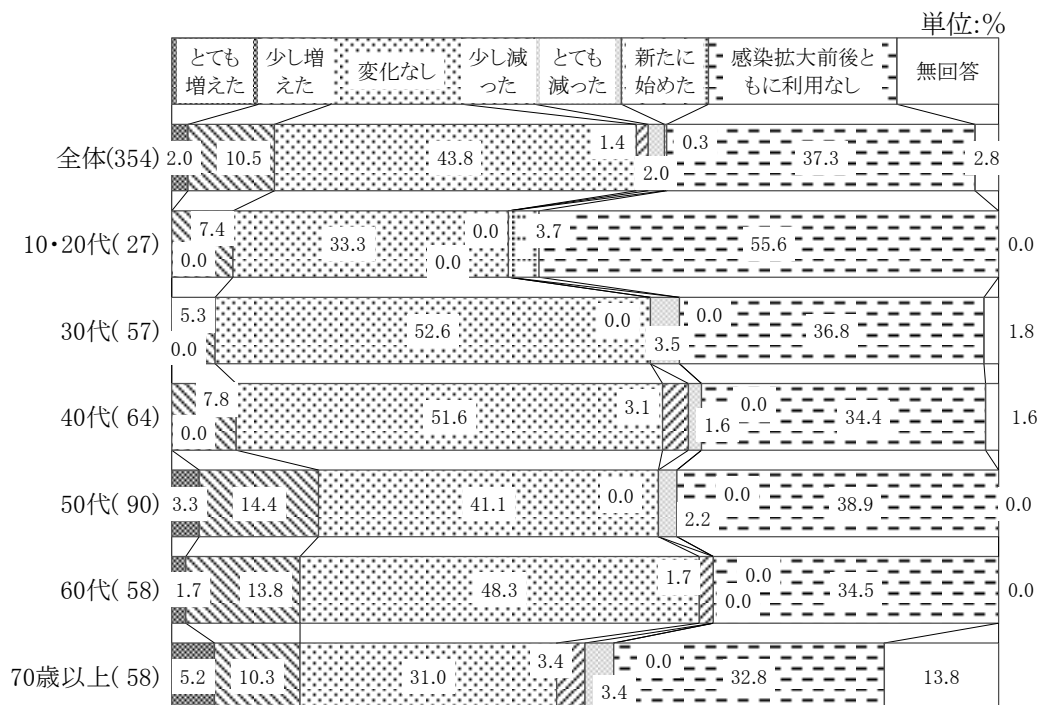
【直売所の利用状況】



4 JA共同直売所（ファーマーズマーケット）での購入

【年齢】

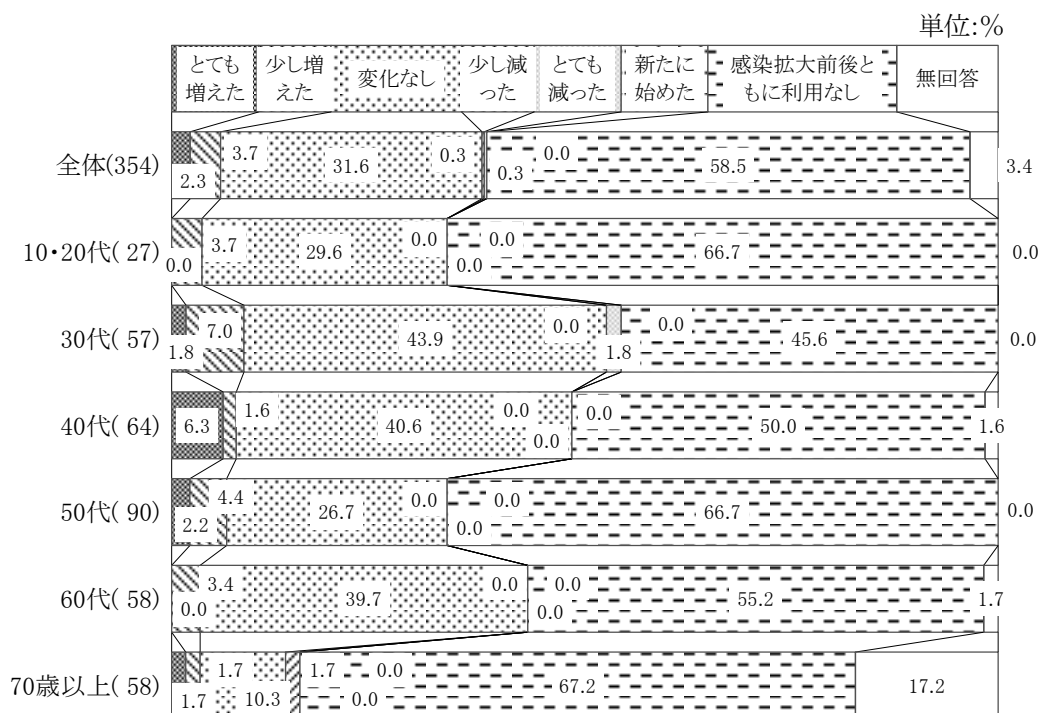
「とても増えた」との回答は〈70歳以上〉になど50代以上の高年齢層で多く、40代以下では0%となっている。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈50代〉の17.7%が最も多く、50代以上の高年齢層では15%を超えている。



5 移動販売、市内業者のお届けサービスの利用

【年齢】

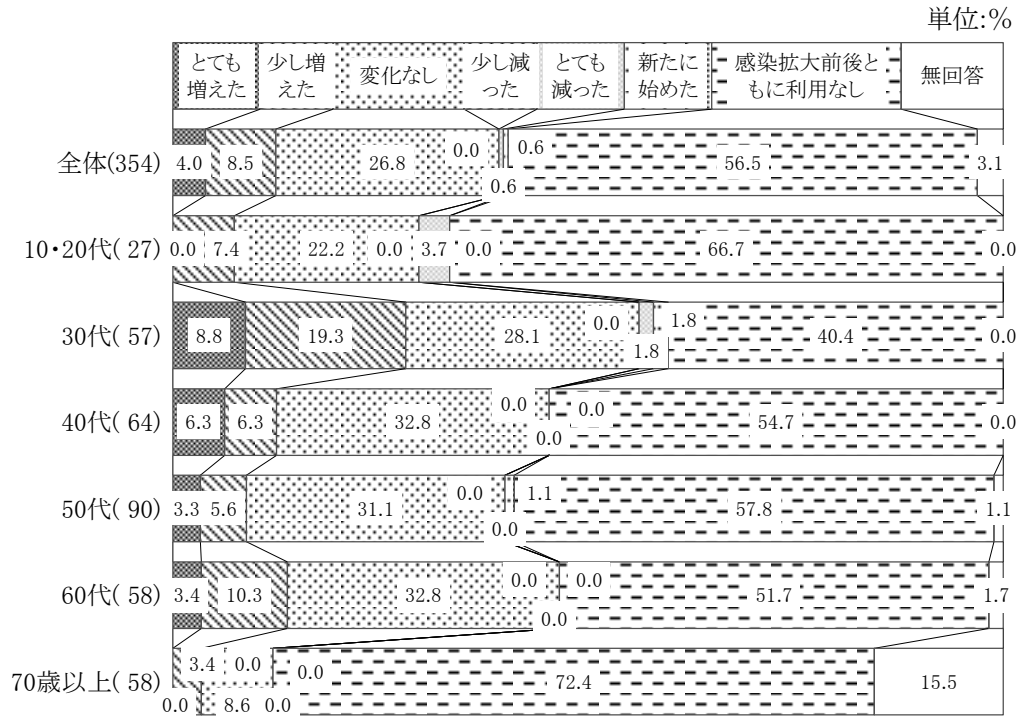
「とても増えた」との回答は〈40代〉の6.3%が最も多い。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈30代〉の8.8%をピークに年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。



6 オンラインによる購入（農産物〈野菜・果物〉）

【年齢】

「とても増えた」との回答は〈30代〉の8.8%をピークに年齢層が低くなるほど多い傾向がみられる。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』も〈30代〉の18.1%が最も多くなっている。



7 自分で農産物の栽培（自宅・畑など）

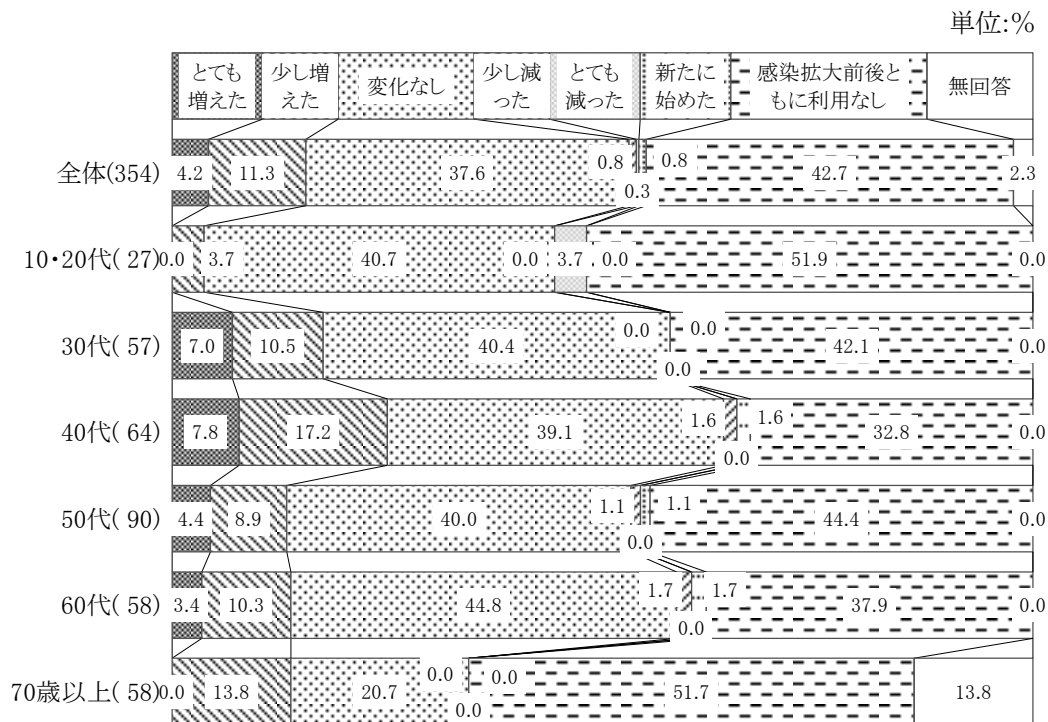
【年齢】

「とても増えた」との回答は〈40代〉の7.8%をピークに年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』も〈40代〉の15.0%をピークに年齢層が離れるほど減少する傾向がみられる。

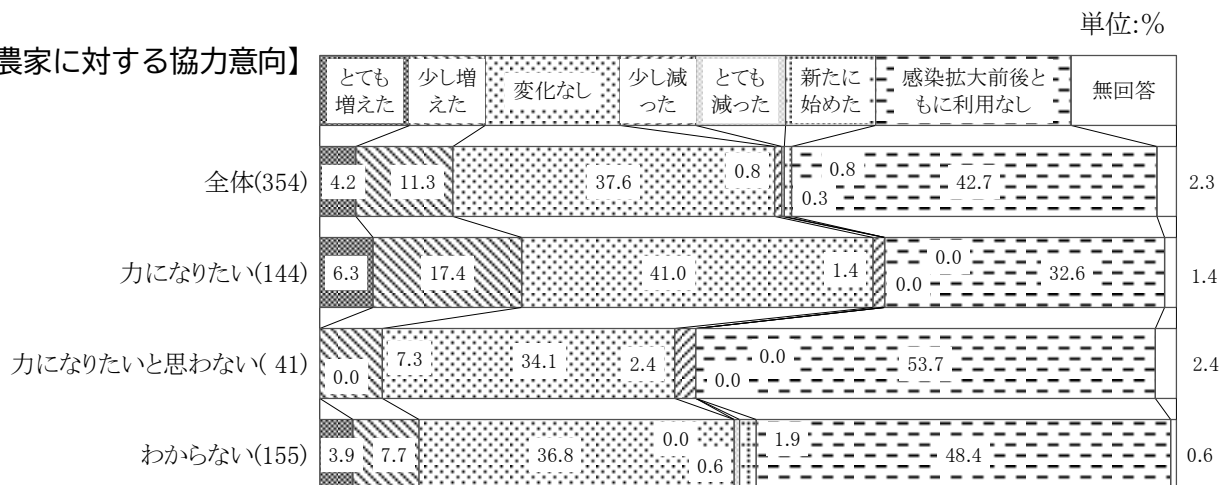
【農家に対する協力意向】

「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』は〈力になりたい〉人で23.7%と他の属性に比べて多い。

【年齢】



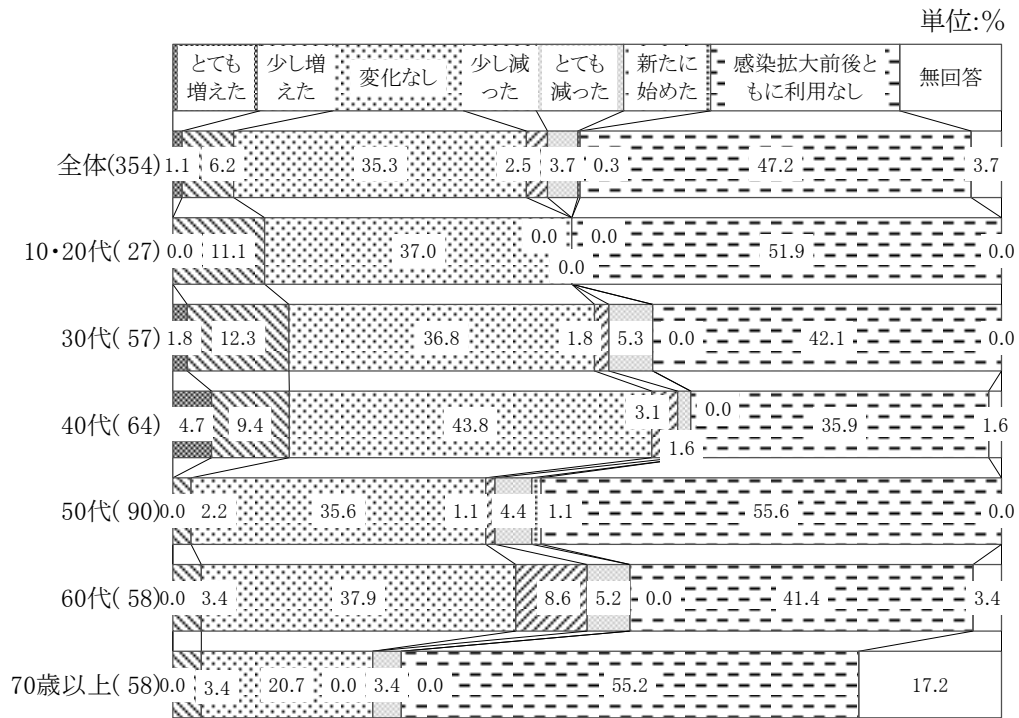
【農家に対する協力意向】



8 地域情報などの収集（イベント・講座など）

【年齢】

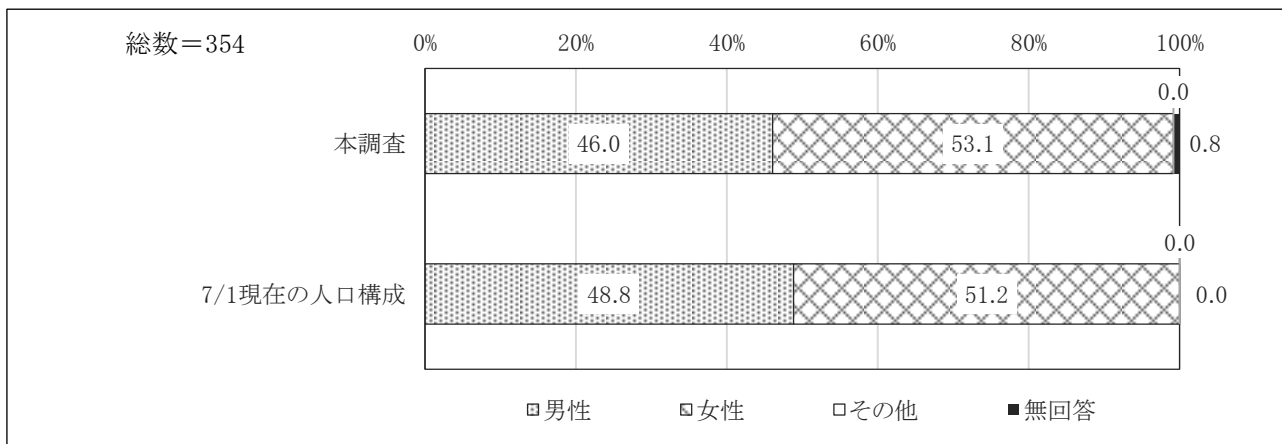
「とても増えた」との回答は〈40代〉で4.7%、〈30代〉で1.8%となっているが、それ以外の年代は0%となっている。「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた』も〈30代〉及び〈40代〉の14.1%が最も多く、40代以下の低年齢層で多い傾向がみられる。



5 回答者の属性

あなた自身についてお聞きします。(それぞれ1つだけに○)

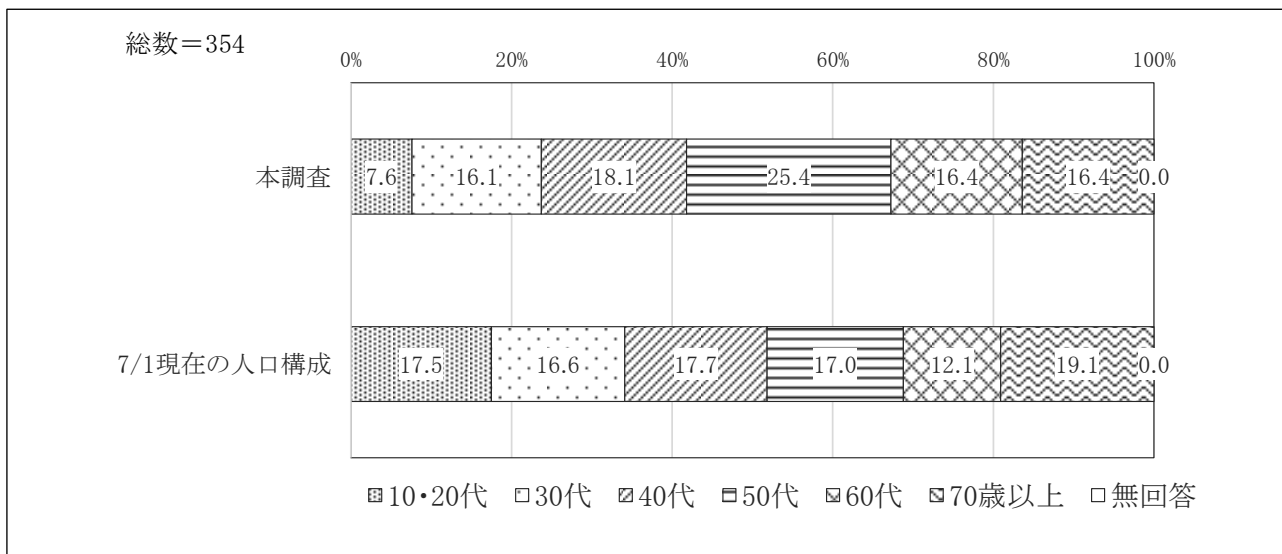
1) 性別



「女性」が53.1%、「男性」が46.0%となっている。

7月1日現在の人口構成と比較すると、男性の比率が低い一方、女性の比率が高くなっている。

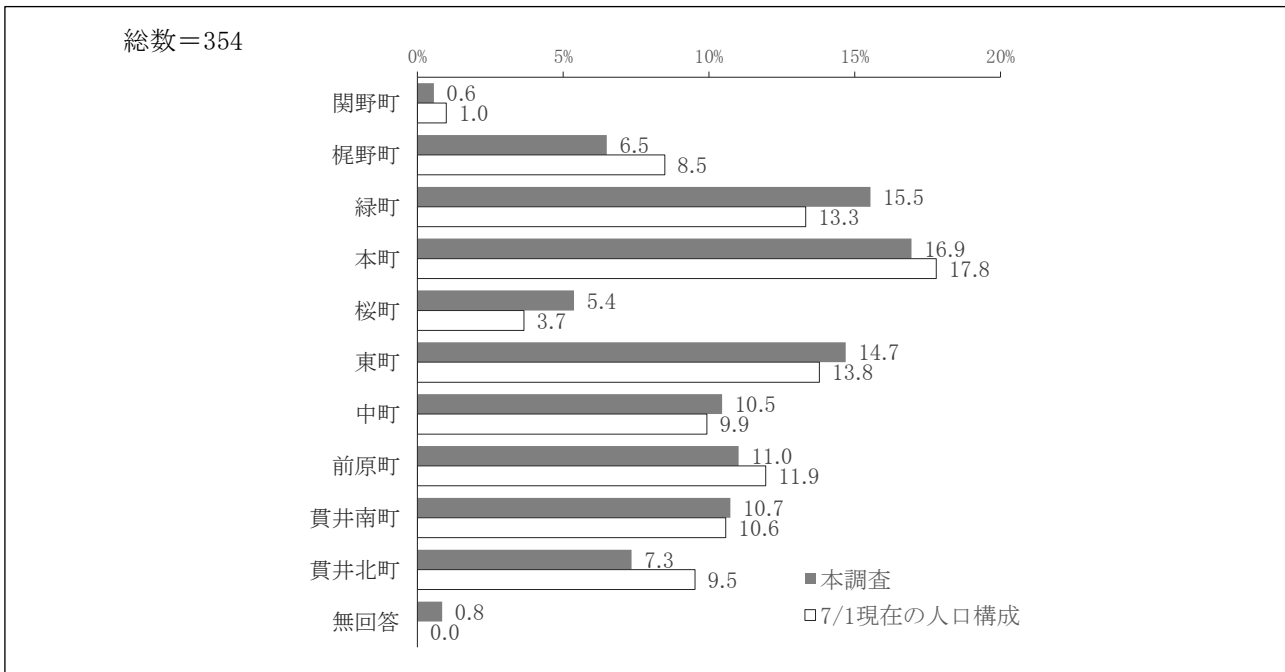
2) 年齢



「50代」が25.4%で最も多く、「40代」が18.1%、「60代」、「70歳以上」がそれぞれ16.4%で続いており、50歳以上が全体の60%近くを占めている。

7月1日現在の人口構成と比較すると、「10・20代」や「70歳以上」で実際の人口比率よりも比率が低くなっている一方、「50代」や「60代」では実際の人口比率よりも比率が高くなっている。

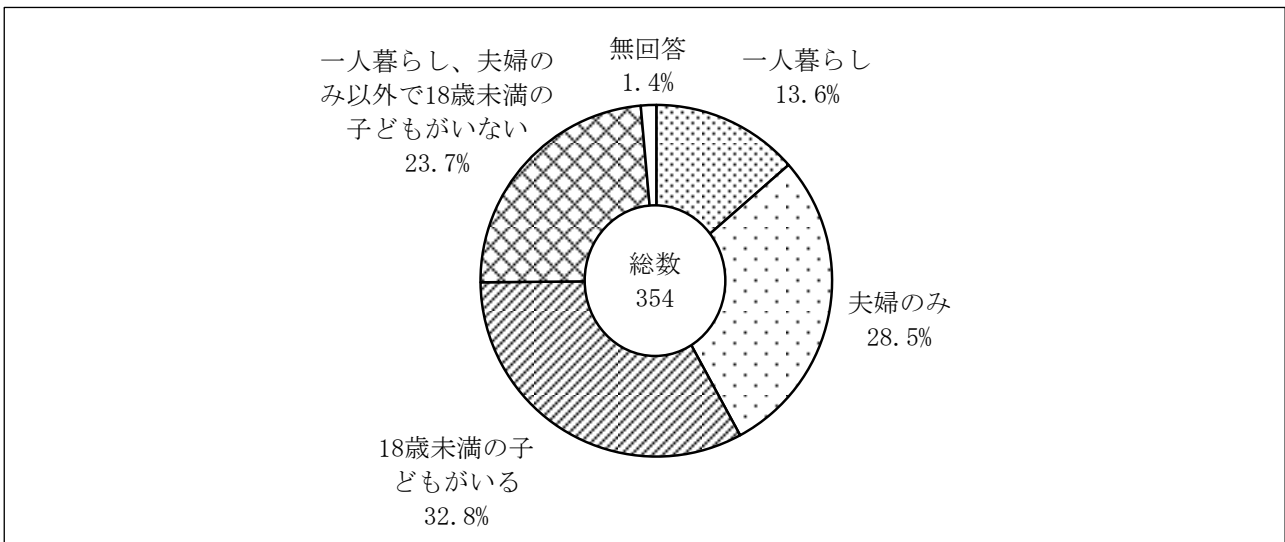
3) 住まい



本町が16.9%で最も多く、緑町（15.5%）、東町（14.7%）などが続いている。

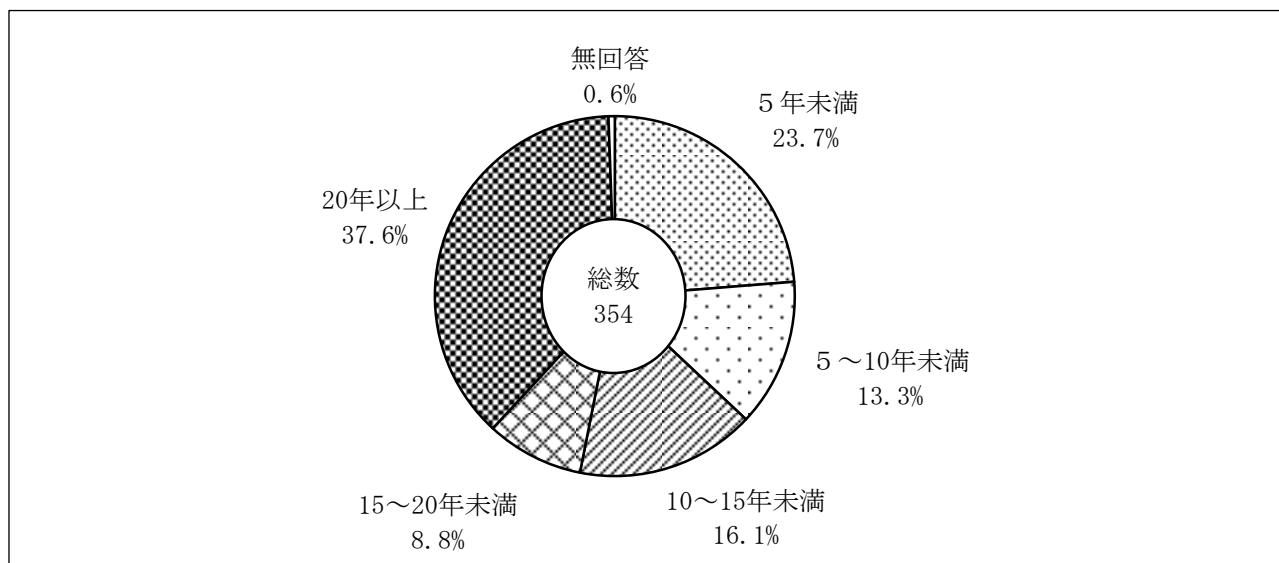
7月1日現在の人口構成と比較すると、梶野町、貫井北町などでは実際の人口構成よりも比率が高い一方、緑町や桜町などでは実際の人口構成よりも比率が低い。

4) 世帯構成



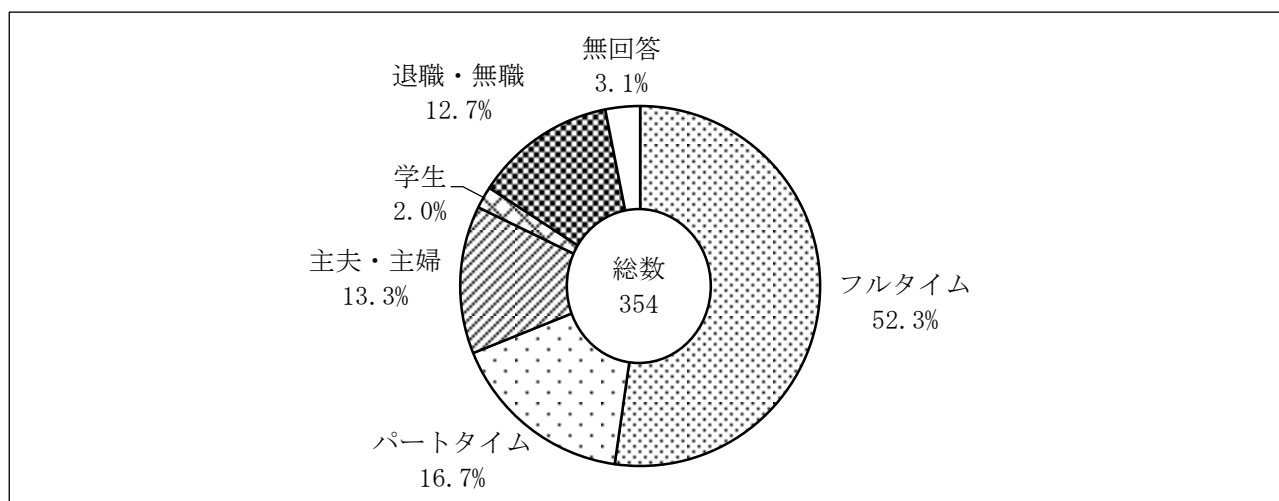
「18歳未満の子どもがいる」世帯が32.8%と全体の1/3を占める。以下、「夫婦のみ」(28.5%)、「一人暮らし、夫婦のみ以外で18歳未満の子どもがいない」(23.7%)、「一人暮らし」(13.6%)の順が続いている。

5) 居住年数



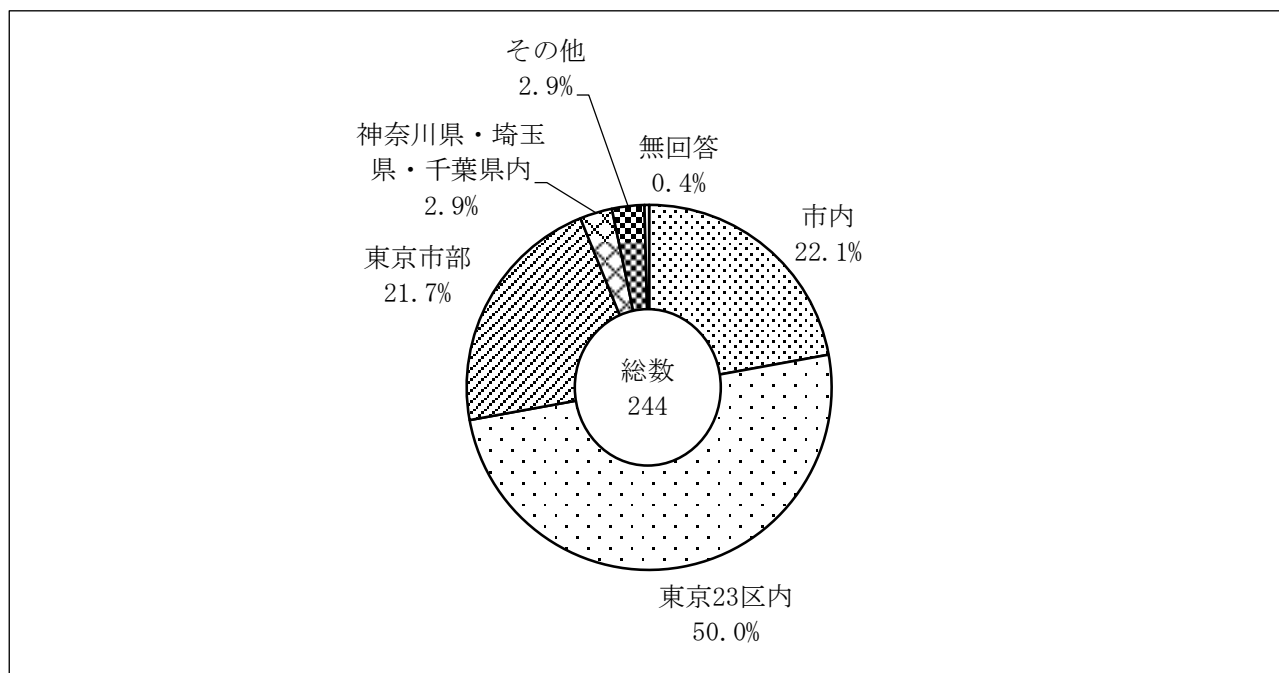
「20年以上」が37.6%で最も多く、10年以上居住している市民が全体の60%以上を占めている。一方、「5年未満」も23.7%と、「20年以上」に次いで多い。

6) 就業状況



「フルタイム」が52.3%と過半数を占める。以下、「パートタイム」(16.7%)、「主夫・主婦」(13.3%)、「退職・無職」(12.7%)の順が続いている。

7) 勤務先



「東京 23 区内」が半数を占める。「市内」は 22.1%で、「東京市部」は 21.7%となっている。

6 自由意見（小金井市農業を発展させるアイデア）

354 件のうち 181 件で自由意見の回答があった。記述内容については、個人情報等を割愛し、誤字脱字等を修正しているが、それ以外は原文のままとしている。

No.	自由意見	年齢	性別
1	屋上農園などあれば良いと思います。	10・20代	男性
2	もし可能であるならば、「小金井」の『一番に推すことが出来る野菜』と言う枠組みでプロジェクトや生産など出来れば良いかと・・・「小金井」というブランドを作って、出来る物を作って欲しいです！	10・20代	男性
3	○小金井が舞台のアニメ「おちこぼれフルーツタルト！」とのコラボをする。 ○「食べチョコ」などの通販サイトなどを利用する。 ○小金井の野菜を使った彩りのあるカップのサラダを使い、インスタ映えを狙う。 ○地域の飲食店とのコラボメニューの開発。 ○小金井公園のバーベキューエリアに直売所をつくり「手ぶらでバーベキュー」をする。	10・20代	男性
4	使用していない土地を有効的に使う（農地として）。	10・20代	男性
5	アイデアを持つ人がいても発信する機会がなかったり、アイデアを思いつく人材が居てもやる気が出なくてやらなかったりする可能性がある。従って奨励金を市や農協で融通して貰い、企業や市民にインセンティブを持たせる必要があると考える。※図にて説明記載あり。	10・20代	男性
6	○子供の夢になるように農業の面白さ、達成感を教える。 ○農家の1日の過ごし方を教える場を設ける。 ○You Tube 等を利用し、知名度を上げる。	10・20代	男性
7	小金井農業の強みを市民全体に周知させる活動が必要。	10・20代	男性
8	木を切ると日当たりが良くなる。ビニールマルチのパイプが軽トラックの荷台で揺れると打楽器のようにいい音がする。米ぬかのパウンドケーキは美味しい。家をキレイに掃除する。そのためには物を贈る、売る、捨てるなど片付ける。収穫に使うハサミを良い状態に保つ。衛生、切れ味等。車の中をキレイに保つ（難しい）、土が埋まる、汗の臭いが取れないなど。	10・20代	男性
9	○畑を増やす。・子供や学生の農業体験を増やし、体験し学ぶ機会をつくる。体験後にお家でも育てることが出来るお試しセットを配る。 ○サイトを作って日々の状況や写真をアップロードする。また You Tuber 等の動画に載せる。←顔出しを避けながら、子供や学生、体験に来てくれた人の動画などを載せることで見ている方に興味、関心を持たせる。	10・20代	女性
10	農作物を使った御菓子などをコンビニで売る。You Tube でバスらせる。	10・20代	女性
11	駅近くに小金井産の野菜を置くコーナーがあれば母は購入も考えると言っていたので、前向きに考えて欲しいです！	10・20代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
12	夕食用の野菜セットを(日替わり)駅前で売って欲しい。仕事帰りにメニュー考えなくていいし、手に取りやすいと思うので!	10・20代	女性
13	小金井市の農作物をメインに使った料理の写真、動画、レシピを SNS にアップし、人に見て貰える機会を増やす。一品だけでも良いがバランスよく考えられた献立だと真似しやすい。市内の飲食店とのコラボにする。	10・20代	女性
14	SNS での情報、発信等。	10・20代	女性
15	JA や庭先販売店でスタンプラリーをして、何個かたまったら特典が貰える企画など。	10・20代	女性
16	先ずどこで売られているのかの PR 発信。そして小金井市での新しくできるお店のように、イベントをするなら割引をして新規顧客を増やす。小金井市農業の方たちと連携し、「ふるさと納税」での小金井産の農産物の提供。ブランド化する。都心部?東京都心部に近い美味しい新野菜など。	10・20代	女性
17	何か一つでも安く日常的にみんなが手に取る農産物を作り、市内の農産物を消費しているという意識をもたせる(地産地消の入口になるものをつくる)。	30代	男性
18	後継者がいないのであれば、農業に従事してくれることになった際に手当を出し、メリットを提示する。←これは大きく宣伝し、知ってもらうことが大事。	30代	男性
19	何故農業の発展が必要なのかを、複数の論点で幅広く議論し、その結果と併せて市民に知らせることが必要かと思いました(やった方が良いことはそれって無数にあると思うので、その中での優先順位に対する共通認識の醸成が必要であるという文脈で・・・)。	30代	男性
20	○取れたての物の美味しさを知ってもらう事。 ○かっこいいものだと思わせること。 ○ここでしか味わえない物を作り出すこと。	30代	男性
21	○農地近隣の住民との農業体験。 ○雑然とした農地の一部開放(レンタル)。 ○小金井農業のブランドの確立(SNS等の活用)。	30代	男性
22	○農家が安心して農業を続けられるよう、ある程度の賃金保障。 ○働く市民が農業体験を出来るよう、管理型農場の運営(平日は専門の方が水やり等をしてくれる)。※市としての取り組みを想定して考えました。	30代	男性
23	ユニークな農作物～ふるさと納税→全国。ユニークな農作物～ネット販売→全国。ユニークな農作物～地元販売店→地元民。(図にて説明あり)	30代	男性
24	最近、生産緑地や畑が開発されて住宅になるところが多く寂しく感じています。地主さんや農家さんが土地を手放さなくても良いような税制の補助などが必要なのかなと感じました。	30代	男性
25	サステナブルであるという全体の VC がもっと見るようになれば。生ゴミ処理機の助成はゴミ問題ではなく、農業も含めてもっと大きい話しだと思います。農業という点の話ではなくサステナブルな生活をどう実現できるか。	30代	男性
26	市内の保育園、幼稚園、小中学校向けに、農業体験のイベントを企画する。子ども達だけではなく、親世代へも小金井農業を認知して貰うきっかけになる。	30代	男性

No.	自由意見	年齢	性別
27	耕作放棄地を耕作希望者に斡旋する。	30代	男性
28	小金井のファームシティをつくり府中市が処分しているゴミを肥料として再生させ、エコな農業発展を推進させる。	30代	男性
29	既存のエリア以外での販売(例えば23区の商業地とか、多摩地区の大型商業施設)。	30代	男性
30	選択と集中。	30代	男性
31	生産～販売までするのは当たり前。野菜を使った料理を販売する(野菜パフェ、ジュース)。有名な料理人にコラボして貰う。野菜フェスじゃ集客できないから肉とコラボ。広い公園など使ってフェスをやる。サウナと野菜と肉のフェス。キッチンカーの事業者に小金井の野菜を使ったアイテムを使わせて、使った方のみ出店させる(サウナと野菜は体に良い、流行する)。こんな良いアイデア実現しないと勿体ない。	30代	男性
32	駅前をもっと有効活用させるべき(南口の広場などでイベントを行うなど)。北口を再開発させて小金井市を魅力あふれる街にすべき(パチンコは要らない!)。北口は商店街をもっと発展させて、中小企業や農業の方がお店を出すなど小金井に特化するべき。	30代	男性
33	武蔵小金井広場で農業フェス。	30代	男性
34	情報が届いていない。こちらから情報を得にいかないとは分からないでは、発信しても意味はないので、スーパーなど身近な所から発信していくなど届く発信が必要。	30代	男性
35	PRイベント	30代	男性
36	自宅で家庭菜園をしたいと考えていたのですが、引っ越して直ぐにゴミの取り扱いについて知り、”土”の処分が出来ないことが分かりました。私の知識、情報不足かも知れませんが、”土”についてどうしたらよいのかアドバイスなどがあれば周知して頂くと農作業のハードルが少し下がると思います。	30代	女性
37	スーパーに小金井市産の野菜売り場が有ったりすると、今より分かり易く買い易いような気がします。	30代	女性
38	○市内の飲食店やコンビニとコラボ(販売)を増やすと良いと思います。 ○農産物直売所の数を増やすと良いと思います。	30代	女性
39	小金井市の野菜は新鮮なので、スーパー等に置いて頂き、手軽に買えるようにして欲しい。働いていると野菜だけを買うに直売所に行く時間がない。	30代	女性
40	一度、JAにて農作物を購入しようと思いついたが、スーパーに比べ価格が高く感じた。もう少し情報発信等あれば良いと思う。	30代	女性
41	シェア畑みたいな指導も受けられて、お手入れも少し手伝ってもらえて自分でも農作業が出来る、みたいな場所をつくって欲しい。どんどん畑が減っているのがとても残念。特産品をうりにした御菓子などの開発を頑張って欲しい。栗の味のビールとか作れないのかな。なんて思うことがあります。	30代	女性
42	コロナが収束したら、また農業祭のようなイベントを行って頂くとアピールに	30代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	なると思います。スーパー等、目立つ場所に小金井の農産物を買えるスペースがあると良いと思います。		
43	庭先購入所のマップが是非欲しい！積極的に購入して地域を盛り上げたい（スーパーで買うより美味しくて、win-win）。	30代	女性
44	民営農園をもっと増やして欲しい。	30代	女性
46	もっと農地を増やした方が良いと思います。広げなければ発展にも限りがあると思います。	30代	女性
47	子育て世代には子供と一緒に農業体験をしたい人が沢山いると思います。植え付け体験や収穫体験などが、結果的に農家さんの作業の手助けになったらとても良いと思います（学校の授業で植え付け・・・なども良いと思います）。体験を通して、農業に興味を持つ若者世代が増えると思います。地産地消のサイクルがもっともっと活発になって行くと良いですね！応援しております！！	30代	女性
48	○「食ベチョコク」などの農作物購入アプリを活用した（農家から直接購入できる）小金井産農業のアピール、売りやすい環境づくり。 ○東京農業工業大学との連携。学生発案商品の販売。 ○家庭菜園のオンラインコース、You Tube。 ○ヴィーガン向けカフェ、レストランで小金井産野菜を取り扱う。	30代	女性
49	私が買いやすい庭先販売所はコインロッカー式のところです。農地にポツンと置いてあるような所は近寄りづらいです。見た目立ち寄りやすくして貰えると思う機会が増えると思います。移動式販売とかインターネット注文出来るとか（夏野菜セットとか）。	30代	女性
50	中央線のパン祭りみたいに野菜で作った何かを販売するなど、野菜の美味しさを知ってもらった方がいいと思う。スーパーで値段を見て食費を考えながら買っている為、イベントごとだったら買うかなって思う。美味しかったら野菜リピートすると思います。	30代	女性
51	小金井市産の農産物を住民に無償配布し味質の良さや情報発信する。	30代	女性
52	相続税対策として、後継のいない農地が売られ、宅地として切り売りされている現状が多くあると思う。手放す前に市などが一時預かり農地としての活用法や後継者探しを手伝っても良いと思う（又はそういう団体をつくるなど）。	30代	女性
53	○子連れで気軽に農業体験できる場が欲しい。 ○興味はあるが知識が無く、共働きなので育て方を調べたり、必要物品を買え揃える時間はない。プロに野菜の育て方を教えて貰えたらと思う。 ○花を育てることが好きだが、近所に店が余りない。サンドラックや駅前の店に限られている。同じように思う方も多いのでは？近くのJAは何故花が売っていないのかなと疑問。花、野菜が売っていれば人が集まるのでは？コロナもあり身近な場所に癒しを求めている人は多いのでは。	30代	女性
54	小金井野菜のブランド化。	30代	女性
55	スーパーは農作物が豊富だが、市内に花屋がないのが気になっている。暮らしの変化により、小金井市の農業について情報を得られるサイトや場所があれば	30代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	閲覧したいです。お花が気軽に買える場所を増やしてほしい。		
56	農業をビジネスとして捉えると、高い固定費に対して収入が不安定であることがリスクとなると思います。最も良いのは、「出来た農産物を一定の価格で買い取る」のではなく、農業という労働自体に対価を支払う事だと思います。この為には、①小金井市産の農産物がブランド化される、②取れ高に変動して価格が上下する（少ない取れ高なら単価が高い）くらいにする、③それと市が全量を（単価でなく）毎朝同じ金額で買い取る、④市から企業へ一括売却、と言う流れをつくることだと思います。この際に一定の能力や努力をするものだけに適用することで、不公平、粗悪品を無くします。	40代	男性
57	明確なビジョンが必要。都市の中の農業がどうあるべきか。どうなったら魅力的か。どうやったら農作物+αの価値を生み出せるか考える事。	40代	男性
58	小金井市産の農産物をより多くの人達に購入して貰う為、直売所をもっと分かり易く品揃えを良くした方が良いと思うが、そのためには小金井市が直売所の防犯などの協力をすべきだと思う。	40代	男性
59	小金井市には自然が好き人が多いと思います。一般の方と、人手不足の農家さんを繋ぐ仕組みがあれば良いかと思います。農地を一般に貸してもいいし、野菜などを報酬として人手を借りてもいいし、また若い20~30代には特に安価に貸出、またそれを売る場所、レストラン、カフェなど食べる場所を整備してはどうか。東京の中の自然では小金井はとても強みがあります。活かしましょう！	40代	男性
60	イベントなどの拡充や地産地消で地元の物を地元で消費できるサイクルがもっと増えればいい。小金井市産の農作物にシールなど貼ってPRすればいい。地野菜は特に新鮮で良いものがあるのもっと一般の方にPRをどんどん行って販売した方がよい。	40代	男性
61	○組織化、プロジェクト化としての取り組み。 ○ブランド化の強化、一般農産物との差別化。 ○武蔵小金井駅東側の農地の有効活用。	40代	男性
62	○参考データで①2015年の農家数と②R2の農地面積を記載しているが、①は現状を反映していないのでは？（最新データは他にあるのでは？） ○前回調査を実施しているなら、その実施期間を記載して欲しい。 ○何故この調査を実施するのか「計画策定の参考」とあるが、何処で実施が決定されたのかが不明。まとめたデータをどの会議、審議会に出すのかは明記すべきでは？	40代	男性
63	農業に興味を持っている人が農業用の土と肥料を手に入れやすくして欲しい。	40代	男性
64	他の野菜とは違う品種であったり育て方であったり（無農薬？）差別化を図って「東京都小金井市産」というブランドイメージに近い印象を与えることと考えました（魚沼産コシヒカリのような）。済みません、当方農業の知識は殆どありません。イメージだけで回答しています。	40代	男性
65	農地を増やすために空き家を減らし農地化を進めてはどうか。また増	40代	男性

No.	自由意見	年齢	性別
	やした農地はボランティアを募った農業体験(無償)を行い、農業を身近に感じて貰う事が重要だと思います。		
66	○産直の品々の味が濃くとても美味しいので、売っている場所を増やすと良い。 ○市民農園ももっと増やして誰でも野菜作りをできたら良いと思います。	40代	男性
67	小金井公園で小金井産の野菜を提供するフードトラック(普段から)、もしくはバーベキューなど出来たてを販売(花見などのイベントで)。	40代	男性
68	○レンタル農園を増やす。 ○学校給食での積極的な活用。 ○小金井産野菜を使った加工品開発とふるさと納税の返礼品活用。 ○駅近での販路拡充。	40代	男性
69	情報を一元的に発信、取得できるポータルサイトを設け、農産物の購入できる場所、販売状況を閲覧できると共に、農作業への参加申込(年単位の農業体験、植え付け、収穫体験、ボランティア)や農家さんへのブログなどが掲載できると市民にとってもアクセスし易く、身近に感じる事が出来ると思う。	40代	男性
70	○市民農園の開放→いつも同じ人が使っている気がします。 ○苗木の配布や販売を増やしてほしい、割安で。 ○市内の各地域で朝市で地元の食材を売ってほしい。各農家の直売所を回るのは大変。	40代	男性
71	JAに販売して貰うと手数料の関係で大変だから、直売所で売りたいけど夏は葉物の野菜が直ぐ、クタツとなるから・・・と言う話を農家の方に聞きました。自動販売機のような野菜が売れるシステムを直売所に設置する補助金制度などあるといいのではと思いました。	40代	女性
72	体験だけではお客様になってしまい、継続した関わりが出来ないので、農地の貸出など継続した活動で、愛着の湧く長期的な関わりがあれば良いと思います。家ごと使える、農地+農家の市民活動の場があれば良いと思います。	40代	女性
73	子供が農業に関わり魅力を知ることが必要だと思う。	40代	女性
74	農作業は大変かと思いますが、これからの時代も今以上に必要とされる注目されるものではないかと思います。身近にある畑の野菜の実りを見るのも日々楽しませて頂いています。地域や学校などで農業に楽しく触れる機会があればと思いますし、それが農家さんの作業のお手伝いになれば良いなと思います(大変だと思いますが有機栽培、農薬不使用など、人に環境にやさしい農作物、興味有ります)。	40代	女性
75	○農業体験の場を増やす。 ○ブルーベリーやいちご、かき、キウイなどの摘み体験や育つ過程を見せて頂けないでしょうか。 ○農業で育てた物をお金に出来るような区分などないでしょうか。私はフェネル、リーキ、あまなずなを育てたいという明確なものがあります。育てるだけでなく商売にしたい。借りることなどできますでしょうか。	40代	女性
76	糖度の高い果物をオンラインを通じて販売する。オンラインのサイトをデザイ	40代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	ナーの手で作成しオシャレな感じにする。		
77	身近に農業を感じられることはとても良いことだと思っています。実家は23区ですがその周辺にはない良さが小金井にはあると思います。近所で旬の野菜の購入や収穫ができる機会をもっと増やせると、更に良いと思います。子ども達に関わるイベントや見学などが増えると嬉しいです。	40代	女性
78	○農工大と協力して特産品を開発してみる。 ○つくっても消費して貰わないと意味がないと思うので、小中学校の給食で使ったり、地元の飲食店（老若男女が行くようなベーカリーやケーキ屋、中華屋さんとか）に協力して貰い、これでもかってくらいゴリ押ししてもらって、先ず知ってもらう。何処で売っているのか、食べられるか知らない消費にもつながらないし、消費されないのなら衰退するだけだと思う。	40代	女性
79	スーパーでも生産者の顔が見える形で小金井産の野菜を売っているのはとても良いと思います。子ども達の世代にももっと知ってもらうために授業や給食でもっと、どんどん取り入れて欲しいです。直売所が購入しやすいと嬉しいです。	40代	女性
80	○後継者不足や農地減少を防ぐために相続に関する支援をもっと手厚くし、農家さんへの経済的支援を充実させると良いと思います。 ○今後災害等で食糧難になったときに地元の農家さんの存在はとても大きいと思うので、3-(4)の選択肢のような事が必要だと思います。 ○「Vege House」の若者達のような活動は素晴らしいので色々な場で紹介して欲しいです。 ○もうあるかも知れませんが、農家さん同士の交流の場、農家さんの要望等を気軽に市にお伝えする場があればより良いアイデアが生まれるかも知れません。 ○この様なアンケートを一年毎に実施して、市民の方々に小金井農業を考える機会を増やすことで小金井市の農産物を買う方が増えると思います。 ○自然栽培や無農薬栽培、古来種、在来種の野菜作りを市を挙げて推進し、売上にしていって欲しいです!!	40代	女性
81	○一箱1000円くらいで、2週間に1回くらい野菜BOXの宅配をすとかはどうでしょう。中身はお任せ。定額制で。生協にもありますが、新鮮な取り立ての野菜が届くなら申し込みたいです。 ○野菜を育てて収穫する体験を子ども達にさせたいと思っていますが、家の庭が無く、かといって市民農園を借りて育てるほどの時間と体力がないので（親が）、少しお金がかかっても気軽に体験できる所があったら良いな~と思います。	40代	女性
82	小金井の農産物や加工品などを一同集めたり、テナントを入れたり、イートインスペースがあるような商業施設があれば、是非利用したい。神奈川のHAYAMASTATIONの様な施設は、地元の人にも、その他の人にもよく利用され、農産物もよく売れています。	40代	女性
83	安心安全な野菜が食べたいので生活クラブという生協を利用している。そこで	40代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	は生産者との結びつきが強く、買って食べる「約束」を生産者にすることで生産者は安心して後継者を育てることができ、減農薬にチャレンジできる。小金井産でも慣行農業でやっているのであれば利用したいと思わない（農薬や化学肥料の回数）。有機、自然農法、無農薬、無肥料、このようなキーワードで小金井市として小金井産の野菜や果物を盛り上げて欲しい。		
84	マルシェ推し。市民と農家の直のコミュニケーションがとれるし、地元の農産物への興味が湧くと思います。	50代	男性
85	農業を保護するのは大事だと思いますが、その他の産業（市内）の事も考えて欲しいです。	50代	男性
86	○地域での流通、販路確保が必要。 ○野菜はほぼ毎日消費するもの。近くで流通経費を軽減し、スーパー等と同等金額対応であれば購入はマストでは。※生産緑地問題も。	50代	男性
87	支援クラブをつくり時々農業体験を行う。作物を購入し易い状況にする。	50代	男性
88	就労の機会（就職、体験）を増やすような窓口の常設。ホームページ等によるアクセスで市内農業を身近に感じることを可能にする。	50代	男性
89	○農工大との協力、かつての産業の再興。 ○学校給食に小金井産農作物のメニューを取り入れる。 ○地元の菓子店やレストランで季節の産物を取り入れた料理、菓子の販売、フェアの開催(ex 栗、キウイ、など)。 ○こきんちゃんのグッズのような小金井の特産メニューの展開(レトルト、缶詰、賞味期限の長い食料)。	50代	男性
90	農地を減らさず、市内の販売所や地元の飲食店を増やし、PRし地産地消を盛んにする。	50代	男性
91	○美味しさの追求を訴求。 ○安全、安心のアピール。 ○リーズナブルな料金での提供。 ○ふるさと納税に組み込み、野菜類の提供や農業体験、収穫体験の提供。	50代	男性
92	農業分野における産学官連携の推進。特に小金井市には東京農工大(学)があり、小金井市が自治体(官)として農家、農協(産)をサポートし、農産物の品質改良や販売促進を協働し拡充していく取り組み、企画立案の体制が重要と考える。	50代	男性
93	○小中学校での「小金井産野菜」の使用とPR(現在も行われているがその継続と拡充)。 ○スーパー等での特設コーナーを常備する。	50代	男性
94	農家同士の横の連携を深くすること。農家が地元の中心となって楽しく働いている姿が近所で見られること。小金井農家の制服を作ること(ユニフォーム)。	50代	男性
95	宮崎=マンゴー、下仁田=ねぎ、の様なブランド化。	50代	男性
96	農家の庭先販売の場所(ロッカー)を知りたい。	50代	男性
97	JA主体のイベントではなく、商工会等、農家主体でイベントを行う。	50代	男性

No.	自由意見	年齢	性別
98	近所の農地では、生産していないように見える。生産していない農地は生産緑地の指定を解除すべき。小金井農業は生業にはならない。市民に開放して収入になる仕組みが必要と思う(素人考えで済みません)。武蔵小金井駅東側の農地は、まちづくりの支障になっているとしか見えない(生産していない)。	50代	男性
99	○農業従事者の確保、市が従事者を嘱託採用する等。 ○農地販売、用途変更制限、及び相続税負担の補填。 ○デリバリー業者との提携。	50代	男性
100	○知らない人向けにはチラシ等で宣伝。 ○時々JAなどで購入する人にはポイント付加等で再利用を促す。 ○高品質をアピール。など如何でしょうか。	50代	男性
101	「発展」が市に増収をもたらす産業として農業を位置づけて居ると意識の上にとったものなのか。「サステナブル・ディベロップメント」という表現が象徴する地球や緑、自然とふれあうライフスタイルの振興を意味しているのか。アンビバレントな問いかけになっていると思います。小金井市は後者に共感する人が多いような気がします、前者の現実性、可能性について客観的なデータが市民に共有された上で後者に話しが展開していくのが、より実りある提案が市民からあがって来るために必要だと思います。	50代	男性
102	○イトーヨーカドーやドンキホーテでの販売～小金井駅も。 ○価格も買いやすい金額で提供。 ○大根、なす、ブロッコリーなら買える。 ○自分の庭木の手入れで、シルバーセンター以外に農家によるサポートをかえる⇒手入れしてもらい、庭の花木について何を植えたらいいかアドバイス。それらを販売する等。 ○もっと身近に感じられるような仕組みが大事。	50代	男性
103	旬の新鮮な野菜、果物が何時何処に行けば確実に手に入るかが分かればもっと利用したい。美味しい事が分かればリピートしたくなります。	50代	女性
104	市内の農家さんは、大変頑張っておられると思います。何と言っても美味しい!! そのご苦勞は色々有るのではないかと想像します。中でも相続で土地を手放さなくてはならない状況にあることは、小金井にとっての財産を手放すことと同じではないでしょうか。この部分何とかならないでしょうか。又限りなくある農作業、草取りはボランティアを集めるとか? 農薬を沢山使わずに安全なお野菜、求めやすい価格で。大変ですが、小金井の畑を守って欲しいです。	50代	女性
105	無農薬野菜を沢山作って貰いたいです。	50代	女性
106	JA店頭で、店員さんに教えて頂いたオカワカメの食し方、オニユズのマーマレードの作り方などの情報がJAリポートの理由です。小金井の農産物のクックパッド的なものがあつたら良いなと思います。発展にはイメージも大切だと思います。ふるさと納税の返礼品、小金井野菜とおちこぼれフルーツタルトのコラボは野菜の購入層とのズレがあると思います。私なら選びません。野菜、農産物にはカフェ、ビストロなどオシャレなイメージがある方が、女性受けもし	50代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	て、より普及につながる。イメージUPする気がします。		
107	ファーマーズマーケットを増やして欲しいです（路線北方面）。	50代	女性
108	駅の構内で有機野菜や減農薬の野菜を売っていれば必ず購入します。美味しければ継続して購入します。	50代	女性
109	特例、畑・緑地に関する条例などを含めて真剣に、小金井市農業を発展させる←こう思っているのならば、取り組むべきだと思う。「畑を借りられる所はありませんか？」とJAに聞いたが、返答はなしのついでである。担い手がいないのなら開放して（譲渡、また貸し）いくような、他ではやっていない手段も考えていくべきだ。これは日本全体の問題だが、小金井然り農業を発展したいと本当に考えているのなら、関心のある人の声をじっくり聞いて今までにないやっていないことをやるべきだ。	50代	女性
110	ずっと市内に住んでいて地元の農業のこととか知らないし、情報を得たことがない。まずは情報の発信だと思う。	50代	女性
111	農家さんとの交流が必須。農家さんをバックアップしてくれる人達と共に隣組内での団結が必要。いつも長く地元で暮らしている人優先の隣組では、お子さんのいない又は成人になった子がいて地域の運動に関わりにくい状況を打破する事が必要!!	50代	女性
112	後継者の育成。新鮮野菜の宣伝。味や安全性の宣伝。	50代	女性
113	道の駅のように気軽に買える直売所が沢山あれば是非買いに行きたい。	50代	女性
114	ハクビシンを駆除して欲しい。庭の果樹が被害を受けるが農家さんにも影響が出ているのでは？	50代	女性
115	情報発信が一番大切だと思います。市民が必ず目にする市報などに、毎回目にするように発信するとか・・・。内容はどこで何時販売しているとか・・・このテレビを見て下さいとか、このラジオで情報を知れますとかetc・・・。	50代	女性
116	○どのような野菜がどこで何時買えるのか情報があると購入しやすいが、ないとどうしてもスーパーに行ってしまう。 ○有機野菜や減農薬野菜があると有り難い。	50代	女性
117	小金井独自のもの(特産品)を中心に産業として、若い人達を中心に新しいアイデアを取り込んでいく事が必要だと思う。クラウドファンディングなど積極的に取り組むのも良いと思う。	50代	女性
118	○鎌倉野菜など、オシャレに小金井野菜が有名になって贈り物などにも利用したい。 ○農工大などで野菜や果物の販売など、親しみやすくして欲しい。 ○野川を観ながら、美味しい野菜や果物のケーキを食べたりお茶を飲みたいです。	50代	女性
119	庭先販売の活気が年々なくなってきているように思う。農家の問題か気候の問題か分からないが、市が農業を積極的にバックアップする方針であるならもっとアピールして欲しい。イベントを企画する。共同直売所を市内各所に設置する（JAは遠くてなかなか行く機会が作れない）。	50代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
120	小金井の特有の野菜を定着させお総菜やパンなど販売しては？ブルーベリーは八王子や日野、青梅など比較すると高すぎる。その他の地場野菜も高い。	50代	女性
121	○地場野菜を日々食事で食べられるのは良いので、スーパーや駅、イベントで購入する機会が増えるといいと思います。 ○庭先販売(無人)も賛成ですが、友人が調布で農家のお手伝いをしていますが、お金をちゃんと入れずに持ち去る人がいて今は中止しているそうです。小金井はどうですか？せっかく一生懸命に作ったのに心ない行動をされては農家さんが可哀想・・・。 ○市とJAが協力し、農家(生産者)、農産物の紹介。市報やHPで公開し手が足りなければ、お手伝いできる方を募集しても良いと思います。	50代	女性
122	イベント開催とSNS。例えば採れたブルーベリーでお酒を作る等してイベントで紹介。栽培の様子とかもSNSで見せたり。	50代	女性
123	気軽に参加、購入、体験ができるとうい。大きく宣伝する！若い人達(学生)の参加。	50代	女性
124	学校給食の取り組みはとても良いと思います。	60代	男性
125	小金井ならではの特産品(商品質な)をつくり、広く知らしめる。その時SNSでの発信が大切になると思う。	60代	男性
126	他品種をつくることで被災した際に地域で充足できる農業環境をつくる。そのための支援を住民に求める。地域で自給自足を目指す。	60代	男性
127	市内の荒れ地を利用し農業を発展して欲しいです。	60代	男性
128	○後継者の育成。 ○市による遊休地の購入→市民農園へ(農家が協力した)→市民の意識を変える。	60代	男性
129	梅林が放置されていて不快。見せかけの農地は認めないで欲しい。	60代	男性
130	農地の集約化と都市整備を行い、集客可能性を高める。農地への魅力が市民に伝わっていない。市役所、JA、市民、生産者の一体化が重要。宣伝活動、大学との協働、小金井市の特徴を見つけ出す。	60代	男性
131	流通コストを最小にする形で、通常販売する場所をつくる(価格は少し低めに設定する)。	60代	男性
132	○目標を達成させるための人員と予算の確保。 ○農地に対する税金の免除。 ○生産者、流通業者、大学教授、シンクタンクによるPTの発足。 ○地産地消の促進・・・学校給食における旬の食材としての利用と生徒に対する食材説明。飲食店及び総菜店での食材としての協力依頼及びお店の応援PR。 ○広報活動の強化・・・市のHPに情報掲載(旬の野菜のお知らせ、販売店の場所の案内)。親子による野菜作り体験。生徒による校内又は学校の隣接地における、実際の野菜作りと収穫した野菜の試食。 ○販売場所の増設・・・JAのマーケットだけでなく、市役所内に販売コーナーの設置。週末などに定期的に場所を設けて販売。	60代	男性

No.	自由意見	年齢	性別
133	安心で安全な農産物を目指して欲しい。	60代	男性
134	相続問題、後継者の育成など宅地化を防ぐ対策が必要と考えます。	60代	男性
135	レイチェル・カーソン『沈黙の春』の精神を踏まえた農業であって欲しくないと思います。安全こそが一番の売りです。	60代	男性
136	朝、採れたて野菜の美味しさを味わいたいため、直売所等を充実して欲しい。直売所の野菜はスーパーの購入品より味が濃く、本当の野菜の味がする。その事をもっと多くの人々に知って貰えるようにPRすればよい。 ○お年寄りの世帯への宅配サービスを充実する。 ○1人暮らしの若い人(学生、独身)に手軽にできる野菜料理の教室の開催をする。	60代	男性
138	これからも小金井産の野菜、果物を大いに食べたいと思います。「小金井産」と分かると親しみが持て嬉しくなります(小金井が好きだから)。	60代	女性
139	農地を減らさないこと。	60代	女性
140	思いつくまま・・・ ○栗を活かす。栗焼酎、黄金(金箔)栗、栄養をアピールした栗製品、ex 渋皮煮(ポリフェニール)、ワイン煮。 ○ポイントカード、20ポイントで好きな小金井野菜と交換できる。 ○ゴールドキウイ(黄、金)小金井産として贈答品に。 ○農家以外でも花や野菜を販売してくれる民家、商店などに置く(謝礼は野菜、花)。完全無農薬野菜をうりにする。 ○地産地消に愛着を持ってもらう。小中で広報、啓蒙活動をする。 ○小金井といえば桜なので桜の苗木を売り出す。 ○お中元、お歳暮用小金井ハチミツセット(黄金)。 ○これから注目を集めるかもしれない“竹”を育てる。用途が広い、成長が早い。 ○「江戸むらさき野菜」として紫色の野菜を育てる。なす、赤キャベツ、しそ、紫玉ねぎ、ポリフェニール豊かな野菜を売る。	60代	女性
141	無人販売所を増やす。スーパー等に地元コーナーを。	60代	女性
142	ブルーベリー狩りを体験してきたいので情報ができれば欲しいです。	60代	女性
143	農家の方の生活が常に安定した収入となることが、継続者不足を解決する道だと思えます。	60代	女性
144	今はSNSで情報を流すことが良策と思われれます。	60代	女性
145	全く詳しく知りませんでしたが、生産緑地の指定の期間が間もなく切れて、農地が減るのでは?と聞きました。農業を営んでいらっしゃる方々も諸事情有ると思います。行政がお力添えして下さると嬉しく思います。全くの素人の考えです。	60代	女性
146	より多くの方に農業をし易い環境を整備して頂きたいと思っております。	60代	女性
147	プラス、ネットや市報で市が広報した方がよい。	60代	女性
148	8年前杉並より転居。確かに緑が多いが公園が少ない。何か農地公園のような都市型の農地であって欲しい。	60代	女性

No.	自由意見	年齢	性別
149	1日収穫体験、ボランティアをしてみたい。	60代	女性
150	農業は経験した事がないので、何も分からない。	60代	女性
151	味の良さを強調。	60代	女性
152	高架下などJRや市と協力して販路の拡大。空き地の利用。ネットでの情報(例えば今日は何が販売されているのか)。	60代	女性
153	アピール増加が必要だと思います。	60代	空欄
155	市のホームページには農産物庭先マップが掲載されているが、「何を」生産して販売しているのかが分からない。それぞれ生産物は違うと思う。「何が」という情報も掲載して欲しい。	70歳以上	男性
156	農地が農家の個人資産である事と、今の相続税制の下では次の世代が農業をしないと農地が宅地化にするのは避けられないです。農地を保全するためには国の制度の変更が必要です。	70歳以上	男性
157	小金井市の農家は、農業よりも“土地投資”に熱意があって、農業やってる「フリ」している農家が多い。「ウネ」だけ作ってあとは何もしない。見せかけのみ。住宅業者への転売待ち予備軍と思われる。制度抜本策、思い切った方向転換が必要と思う。	70歳以上	男性
158	妻がスーパーで小金井産直の野菜を良く買ってきます。味も品質も満足して食べさせて頂いています。「いまいちだな」と思えるようなことは一度も無いので、やり方によってはもっと売れるのではと考えます。	70歳以上	男性
159	○面白い農業を目指す(考案、伝える、体験させる)。 ○美味しい果物、高価な果物の栽培。 ○珍しい野菜の生産、そして料理への活用促進。 ○暇な、元気な団塊世代が多くいるので年寄りに向く農業体験の充実。	70歳以上	男性
160	時代世代が移り行くとき、都市部の農地が減少していくのはやむを得ないことでしょう。新たに農業をやろうとする人が、この地で動き出すことは極めて難しいと感じます。だとすれば、縁者の中から後継者を育成するより他に今の形を長続きさせる方法はないと思います。	70歳以上	男性
161	幼稚園児、小学校1～2年生程度で土を触って野菜を作るなどの作業を体験することが最初の一步だと思います。興味が出れば「〇〇を育てたい」だとか「新鮮な××を食べてみたい」等希望も生まれると思います。	70歳以上	男性
162	府中にある農業高校生に小金井市の農家でアルバイトとして体験して貰うのは如何でしょうか。普通高校の生徒でも良いと思います。農工大もありましたね。アルバイト代、公私負担割合は公2割、私(農)8割でしょうか。	70歳以上	男性
163	農家及び販売業者等への市のバックアップの強化。	70歳以上	男性
164	庭先販売などを増やし、農家を手伝うボランティア等募集する。	70歳以上	女性
165	イベントや情報発信等も必要なことだと思いますが、そのための人材や、紙、その他に費用がかかるので、なるべく費用を掛けずに効果のある方法があると良いと思います。地味にスーパー等に置いて品質の良さを認めさせる事も必要	70歳以上	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	だと思えます。いつ行っても安く新鮮な野菜が品数豊富にあれば、私は絶対購入します！		
166	国分寺では丸井に国分寺産の野菜が置いてあり、新鮮なので良く購入する。小金井のスーパーにも小金井産の野菜を常時置いて頂きたい。	70歳以上	女性
167	環境問題が声高に叫ばれる昨今、近隣農地の存続は必須の事と思えます。地産地消のPRがもっと必要と考えます。《市報・月刊こうみんかん》の利用もあるのでは。	70歳以上	女性
168	直売所等をもっと宣伝すると良いと思う。	70歳以上	女性
169	毎日店の経営で農業の発展までのアイデアは出てきません。	70歳以上	女性
171	梅の実、ブルーベリーなど植え放しにし、収穫せず、税金対策なのか人手不足なのか、食べる物への心配りが無い土地を見ると悲しくなります。人手不足ならボランティアに声かけして協力して貰うとか・・・。農業の発展以前の問題。もっと作物に敬意を払って欲しい。	70歳以上	女性
172	畑がどんどん宅地にかわり、緑が少なくなって行くのが残念だ。農業にかかわる若い方たちが“住宅と農業”の新しい道を切り開いて行って欲しい。 ○新鮮野菜を使った食事を提供するレストラン(手作りの、地元の)。 ○散歩の途中コーヒータイムの出来るオシャレな喫茶店。その角に地元の野菜を販売。(世代を継ぐ若い方々をお願いしたい。)	70歳以上	女性
173	生協とかに小金井産の野菜が売られていないのが不満です。農協も坂上に行くのが大変です。自転車もやめましたので重い野菜を買って帰れません。	70歳以上	女性
174	店頭販売。	70歳以上	女性
175	○近くの農家の庭先販売のキュウリ(夏)、大根(冬)がとても美味しく何時も利用させて頂いていました。その他の野菜も。 ○キュウリはただ味噌をつけてかじりましたが、農家のご主人が畑で草を取ったりして働いている姿と重なり一段と美味しく夏の楽しみでした。大根はどっしりと太く重く、作って下さった姿を思い出して色々料理して頂きました。庭先販売はとても楽しみにして利用していました。今はもう無いです。 ◎草1本も生えていない農地を見るとここに成長した野菜は体に害がないのか不安になります。そう言う不安や安全な物であるかを生産者は私たちに教えて欲しいと思っています。	70歳以上	女性
176	ハウス栽培や水中栽培など新しい方法や、野菜、果物も珍しいものなど効率が良くて若い人も関心を持って農業をやってみたいと思える方法が見つかるのではないのでしょうか。今テレビでは、昔とても出来なかった事がどんどん改良されて熱帯でしか出来なかったものが日本でも作られて、とても驚いています。	70歳以上	女性
177	私の希望は「美味しい野菜」が食べただけです。庭先直売所の野菜は本当に美味しく、スーパーの野菜は形は整い清潔ですが味がありません。子供の野菜嫌が多いようですが「美味しい野菜」を知らないからでしょう。そして親が料理をしなくなっていると思えます。	70歳以上	女性

No.	自由意見	年齢	性別
	<p>○私の考えですが、新店舗をつくる。店名「小金井の美味しい野菜やさん」、場所「小金井宮地楽器ホール1階の隅」、2階、地下は不向き。販売は野菜のみ。陳列、保存は野菜のため適正温度にする。野菜以外の加工品などの販売はしない。当分は「美味しい野菜」に徹底してはいかがでしょう。訳あり野菜は形の良いものと混ぜても良いと思います。形の悪い物が多いときはまとめて価格を少し低くしても売れると思います。「捨てる」ことはやめて下さい。長い間、形の悪い野菜は売れないと言う習慣があったと思います。安価にすれば良いとは思いますが、価値ある野菜を買いたいのです。開店・・・平日(4日) 土日、10時から17時、冬は16時(日曜日2時間くらい“こきんちゃん”に来て貰う)。休日・・・平日(1日) 祝日。</p> <p>○「ひがこ日和」に以前野菜が売られていました。表の入口近くに野菜が置いてありました。時々直射日光が当たっていました。これでは誰も買う気にはなりません。駅に近く大変良い場所だと思いますが、「東小金井南口商店街のシェアスペース」だから野菜だけの販売にするのは困難でしょうか。売り場の2/3は野菜売り場、残り1/3は南口商店街が作る弁当や菓子などは如何でしょうか。</p> <p>○私は緑町2丁目に住んでいます。東小金井駅近くと武蔵小金井駅前しか知りません。他にも良い場所はあると思いますが、やはり多くの人が集まるのは駅の近くだと思います。まずは「小金井宮地楽器ホール」で始めては如何でしょうか。</p> <p>○私は73歳、女性一人暮らしです。「小金井ファーマーズマーケット」は少し遠く感じています。バスに乗り駅前まで行きます。オンラインで買い物は出来ませんが、実物を見たいのと外出すれば運動と気分転換が出来ます。</p> <p>○「小金井市わたしの便利帳」2021～2022版、26ページ、27ページ「庭先販売所」の紹介があります。このページは必要ですが、見ることは殆どありません。</p> <p>○市報「こがねい」に毎回農業の最新情報を目立つように掲載する。写真やイラストを多く使う。今多くの方は「読むより見る」様になっていると思います。「こがねい」のイラストは上品で分かり易いです。「小金井ごみ・リサイクルカレンダー」は大変良くできていると思います。他市と他県と比較も大切だと思います。</p> <p>○以前「庭先販売所」に野菜を盗まないでください、「スーパー」にはトイレトペーパーを持ち出さないでください、とありますが本当に信じられません。こんな時代だからで済ませたくありません。私の経験ですが、アメリカの空港やショッピングセンターのトイレトペーパーは直径50cmくらいのケースに一巻き入っているので持ち出せません。</p> <p>○先の小金井市議会議員選挙で当選した人の公約に「農業」を出しているのは、清水がく氏「小金井ならではの都市農業と食育を前に進めます」、岸田正義氏「農業×商業×福祉の連携で農業をコミュニティの空間へ」、渡辺ふき子氏「都市農業への振興・市民農園の増設や学校給食への利用拡大」、五十嵐京子氏「小金井</p>		

No.	自由意見	年齢	性別
	<p>の豊かな緑を守り都市農業を推進」。湯沢あや子氏「給食への地場野菜の活用」、政治家には多くの難題がありますが、「小金井の農業」を大切に真剣に考えて下さい。</p> <p>○スーパーの野菜、果物が美味しくない。買いたい気分はなくなり添加物の多い出来合いの総菜を買うしか有りません。消費者は価格に敏感ですが、価値には賢いと思います。小金井市は農業が主役です。「美味しい野菜」は任せて下さいと宣言し、強くアピールして下さい。多くの余分な事を書きましたが申し訳ございません。</p>		
178	<p>数年前、隣接する農地が相続税のため売り出され、今や7~8軒の住宅になりました。小金井に移り住んで30年あちこちの農地が住宅やマンションにかわっていくのを目にしてきました。今後も同様なことが続くことと思います。大変なことですが、農地確保のため小金井市が農地を買い取りしては如何でしょうか。</p>	70歳以上	女性
179	<p>農地を残す！</p>	70歳以上	女性
180	<p>スーパーの野菜売り場で当地と他県物と比べると、多少の値の開きがあり高く思われることがある。</p>	70歳以上	女性
181	<p>農家同士が農産物を出品したイベントをしたら人も寄ってくるだろうし、料理をしたり、説明やら得意な種類の説明やら昼市を開いたり、少々の傷や曲がりでも価格が安ければ嬉しいです。</p>	70歳以上	女性